



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北フリジア語モーリング方言 (1) 文法 : V.Tams Jörgensen : Kort spräkeliir foon dat mooringer frasch 訳注
Author(s)	清水, 誠
Citation	北海道大學文學部紀要, 40(3), 65-162
Issue Date	1992-03-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/33590
Type	departmental bulletin paper
File Information	40(3)_PL65-162.pdf



北フリジア語モーリング方言 (1). 文法

—V. Tams Jörgensen: Kort spräkeliir foon
dåt mooringer frasch 訳注—

清 水 誠

Grundzüge der Struktur des Bökingharder
Friesisch (1). Grammatik.

—Eine kommentierte Übersetzung von
“V. Tams Jörgensen: Kort spräkeliir foon
dåt mooringer frasch”—

Makoto SHIMIZU

目 次

訳者まえがき	65
V. タムス・イェルゲンゼン著「北フリジア語モーリング方言小文法」	73
(V. Tams Jörgensen: Kort spräkeliir foon dåt mooringer frasch. Bräist. Nordfriisk Instituut Nr. 9. 1978 ⁴ . (eefterprânted 1986))	
訳 注	135
参 考 文 献	160

訳者まえがき

1. 本稿は北フリジア語モーリング方言の概略について解説するものである。

北フリジア語は歴史的に見て北海ゲルマン語 (Nordseegermanisch) に属するフリジア語の下位グループのひとつで、ドイツ北部の都市フーズム (Husum) 以北、デンマークとの国境までの大陸海岸部と島、およびヘルゴラント島 (Helgoland) で約9千から1万人の話し手を有し、互いに非常に異なる約9の方言からなる。モーリング方言は大陸海岸部の方言のなかでもっと

も有力なものである。話し手の数は約 2,500 人 (住民の約 22%) と推定される (Kööp 1991: 76 参照)。

フリジア語はゲルマン語のなかで言語構造の点でも言語の生態という点でも特殊な興味ある事実を提供する言語群である。訳者は 1989/90 年にドイツ学術交流会 (DAAD) の援助を受けて、キール大学北欧語科フリジア語学講座 (正式には「北フリジア語辞書編集所」Nordfriesische Wörterbuchstelle) において、シェリーン教授 (Prof. Bo Sjölin) のもとでフリジア語学を専攻する機会に恵まれた。現在、同講座には全 2 巻、カセットテープ 12 巻に及ぶモーリング方言の入門教材がある (Sjölin/Walker 1986)。また、同講座の編集したすぐれた辞書が 1988 年に完成し (Sjölin et al. 1988)、テキストもとくにブレットシュテット/ブレイスト (Bredstedt/Bräist) の「北フリジア語研究所」(Nordfriisk Instituut) から出版されたものがいくつかある。しかし、モーリング方言の体系的な文法書としては、ここに訳出する同じくモーリング方言で書かれた著作以外、現代の目から見て使用に耐えるものはない。Bendsen (1860) は 500 ページ余りの網羅的な記述文法だが、現代語とは相当の隔たりがある。Bauer (1925) は歴史的音韻論にくわしいが、現代語の記述は弱い。訳者の恩師であるウォーカー博士 (Dr. Alastair G. H. Walker) が 1990 年に発表した北フリジア語についての論文 (Walker 1990) に、モーリング方言の文法の概要が掲載されているが、その内容は音論を除いてほとんど本稿で訳出する Jörgensen (1978⁴) に依拠している。前掲の Sjölin/Walker (1986) や別の入門教材 Hollingworth/Röper (1976) も、発音の部分を除いて Jörgensen (1978⁴) によっている。文型練習を主体としたカセットテープ付きの Walker/Wilts (1980²) も同様である。さらに、東フリジア語 (Saterländisch/Seeltersk) の数少ない文法書である Kramer (1982: 3) にも、同書が Jörgensen (1978⁴) を模範にして書かれたことが記されている。

モーリング方言のように文献や研究の乏しい少数言語についてはさらに調査を行なう必要があるが、本稿ではその成果を部分的に取り入れ、ゲルマン語学の立場からくわしい訳注を添えて、この言語の輪郭を示すことにする。

2. V. タムス・イエルゲンゼンについて。

V. タムス・イエルゲンゼン (V. Tams Jörgensen) は 1924 年 3 月 11 日、フーズムの生まれ。ギムナジウム卒業後、1942 年に従軍し、ソ連軍の捕虜となり、1945 年末に黄疸を患って帰国。翌年からフライブルク、キール、コペンハーゲンの各大学でドイツ語と英語を専攻。戦後のドイツ、デンマーク相互の確執を体験し、自らデンマーク人を祖先にもつ者としてデンマークへの帰属意識を強め、同国の哲学者・神学者グルントヴィ (N. F. S. Grundtvig 1783-1872) の民族主義と博愛主義の思想 (folkelighed) に深い共感を覚える。1950-59 年にかけて友人らとともに雑誌 Front og Bro —Tidsskrift for ny folkelighed— を創刊し、ヨーロッパの少数民族についての記事を多数掲載することに尽力する。

いくつかの職を転々とした後 (一時、フローニンゲン大学のフリジア語研究所 (Frysk Ynstitút) およびキール大学北フリジア語研究所の研究員も勤める)、1964/65 年、ブレットシュテットの北フリジア語研究所の創設に参加し、同研究所のフリジア語講師となり、1971 年から 1983/84 年に病を得て退くまで、所長の地位にあった。その間、1968/69 年から 1984/85 年まで同研究所の雑誌 Nordfriesisches Jahrbuch の編集委員として活躍。1971 年からはフレンスブルク教育大学 (Pädagogische Hochschule Flensburg) のフリジア語講師を勤めた。1987 年 4 月 19 日、フーズムで死去。

主 要 業 績

- 1) Fräsch-tjütsch-dänsch Uurdebök. Hütsem 1955 (1978². Bräist. Nordfriisk Instituut).

1955 年 7 月 31 日にニービュル/ナイベル (Niebüll/Naiabel) で制定された正書法に基づいて、ドイツ語とデンマーク語の訳語を与えたモーリング方言の小辞典。約 4,000 語。語形変化付。発音を一部指示 (とくに母音)。西モーリング方言を対象。Katharina Ingwersen および Albrecht Johannsen 協力。

- 2) V. Tams Jørgensen, og Teake Hoekema. Frisisk-dansk ordbog med en kortfattet frisisk formlære. Groningen. Wolters-Noordhoff 1968.

Teake Hoekema en V. Tams Jørgensen. Deensk-Frysk wurdboek mei in koarte Deenske foarmleare. と合わせて1巻として出版された。西フリジア語—デンマーク語/デンマーク語—西フリジア語辞典としては今日に至るまで最大。各部約9,500語。巻末にくわしい形態論の解説付。語形変化付。発音表記なし。

- 3) Kort spräkeliir foon dat mooringer frasch. Bräist. Nordfriisk Instituut 1978⁴ (Nachdruck 1986; 1968, 1972², 1976³).

- 4) „Am di wokalismus foon dat mooringer frasch“. Nordfriesisches Jahrbuch. Neue Folge. Bd. 4/5 (1968/69). 92-128.

「北フリジア語モーリング方言の母音組織について」。1955年にコペンハーゲン大学に提出された下記の学位論文をモーリング方言に訳して発表したものの。

Vokalismen i det nordfrisiske Moring-mål med en undersøgelse af problemet vedrørende en fast stavemåde for samme dialekt. København 1955.

一般に大陸の北フリジア語方言は島の方言に比べて母音組織が複雑であるが、この問題について、とくにモーリング方言の正書法を制定するさいの理論的根拠を与える目的で書かれた。母音間の対立を「長/短」ではなく、「張り (spånd)/弛み (tinspånd)」という基準で音韻論的に分析。西モーリング方言を対象。

- 5) Snaak friisk! Interfriisk Leksikon Deutsch/Dansk/Moorling/Fering (-Öömrang)/Sölring/Halunder/Frysk/English. Bräist. Nordfriisk Instituut 1977. (1981³).

北フリジア語モーリング方言 (1)

北フリジア語の代表的な4方言(モーリング方言、フェーリング(・エームラ
ング)方言、セルリング方言、ハルンダー方言(ヘルゴラント島の北フリジ
ア語)と西フリジア語にドイツ語、デンマーク語、英語を加え、777の基礎
語彙について、各言語の語形を網羅的に収録したもの。動詞について変化形
を付記。

- 6) „Tu di nordfräsche Schriwwise“. Alastair Walker/Ommo Wilts
(Hrsg.). Friesisch heute. Beiträge zu einer Tagung über nord-
friesische Sprache und Sprachpflege. Schriftenreihe der Aka-
demie Sankelmark. Neue Folge 45/46. 1979. 102-115.

北フリジア語の正書法についての歴代の研究者の意見を紹介・検討。

- 7) Kleines friesisches Wörterbuch der Nordergoesharder Mundart
von Ockholm und Langenhorn. Huuchtjüsch-Freesch/Fräisch:
mit Hilfe von Johannes Petersen und Christine Alstädt, hrsg.
vom Nordfriesischen Verein. Bräist. Nordfriisk Instituut 1981.

モーリング方言の話されるベーキングハルデ(Bökingharde)の西に隣接す
る北ゴースハルデ方言(話し手の数約400人、Kööp 1991: 76参照)の貴重
な小辞典。約3500語。LangenhornとOckholmの二つの村の方言を併記。
語形変化付。発音表記なし。

このほかに下記のアンデルセンやシュトルムなどの文学作品の北フリジア
語への翻訳・編集がある。なお、業績8(「北フリジア語の未来について」)の
著者アルブレヒト・ヨハンゼン(Albrecht Johannsen, d. J.)は、イェルゲ
ンゼンが学問上の模範としたフリジア人の著名な教師・文献学者である。イ
ェルゲンゼンは自分の誕生日がアルブレヒト・ヨハンゼンと同じ3月11日
であることを日頃から友人に語っていたという。

- 8) Albrecht Johannsen (11. 3. 1888-15. 8. 1967). Am jü tukamst
foon di nordfräsche spräke. Tuhhuupstald foon V. Tams Jör-
gensen. 1978. Bräist. Nordfriisk Instituut.

- 9) Latje suurte Sambo. Ferteelt en ma bile foon Helen Bannerman, Ouerseet üt et Ängelsch eefter »The Story of Little Black Sambo« foon Tams Jörgensen. Leck. Clausen & Bosse 1971.
- 10) Staken üüb öömrang I. Tuupsteld faan V. Tams Jörgensen. Utjden faan a Öömrang Ferian. Bräist/Bredstedt. Nordfriisk Instituut 1974.
- 11) 22 Sunge tu jül än nai-iir aw mooringer frasch. Bräist/Bredstedt. Nordfriisk Instituut 1975.
- 12) Maks an Moorits. Soowen jungensetööge foon Wilhelm Busch. Önjt frasch ouerseet foon Nis Richard Marcussen. Bearbeid foon V. Tams Jörgensen. Bräist/Bredstedt. Nordfriisk Instituut 1980.
- 13) Tiin tääle foon Hans Christian Andersen aw mooringer frasch tuhuupestald foon V. Tams Jörgensen. Bräist/Bredstedt. Nordfriisk Instituut 1985.
- 14) Tjin teelen faan Hans Christian Andersen üüb fering tupstääld faan V. Tams Jörgensen. Bräist/Bredstedt. Nordfriisk Instituut 1985.
- 15) Tiin tialen fan Hans Christian Andersen üp sörling töhopstelt fan V. Tams Jörgensen. Bräist/Bredstedt. Nordfriisk Instituut 1985.
- 16) Di latje Häawelmoon en tääl for bjarne foon Theodor Storm, ouerseet foon Tams Jörgensen. / Der kleine Häwelmann. Ein Kindermärchen von Theodor Storm. Amrum. Jens Quedens 1985.

その他、数多い業績は省略する。

(以上, Steensen (1987), Willkommen (1988) に基づいて記述)

3. Jörgensen (1978⁴) ではとくに音論ないし正書法と形態論に記述の重点が置かれている。このうち正書法がとくに強調されているのは、1955年7月31日にニーブル/ナイベル (Niebüll/Naibel) で定められた正書法を普及させ、定着させようという意図からであると思われる。それは「人々に読まれ、人々に書かれる言語だけに未来はある。書くものは生き長らえるのである！」(Äline di spräke, wat uk lääsen än schraawen wårt, heet en tukamst. Huum schraft, di blaft!) という序言からも見てとれる。しかし、この正書法はモーリング方言の音韻体系をうまく表わしたものととはかならずしもいえない。さらに、続編で解説するように、モーリング方言は単一の言語ではなく、大きく東モーリング方言 (Ostermooring, OM) と西モーリング方言 (Westermooring, WM) に分かれる。Jörgensen (1978⁴) は西モーリング方言を記述したものであるという。しかし、厳密な意味ではそうっていない。それどころか、Walker (1980 a) で明らかになったように、東西の方言に二分することは便宜的で実状にあっておらず、じっさいには各々の村に何らかの点で特徴的な村独自の方言 (Dorfmundart) がある。それは端的には音韻体系にあらわれている。このような理由から、Jörgensen (1978⁴) の音論ないし正書法の部分、とくに母音の部分については問題が多く、それは標準語がなく、言語規範の稀薄な少数言語の集合である北フリジア語のありかたに深く関係している。そこで、今回は Jörgensen (1978⁴) にあらわれたかぎりで個々の音について簡単な訳注を施すにとどめて、音韻体系の分析については上記の点を考慮に入れながら続編で論じることにする。

4. 翻訳にあたっては、原則として単語については対応する語形があるかぎり、標準ドイツ語の訳語を付記した。意味・用法に大きなずれがある場合は *vgl.* を添えた。標準ドイツ語の対応語がない場合、あるいは語形や意味にある程度の開きがある場合は、低地ドイツ語 (*nd.*, Niederdeutsch) かデンマーク語 (*da.*, dansk), さらに必要に応じて英語 (*engl.*, English), 西フリジア語 (*wfr.* Westerlauwersk Frysk), オランダ語 (*ndl.*, Nederlands), スウェーデン語 (*sv.*, svenska), 古ノルド語 (*an.*, Altnordisch) などの訳語を

与えた。ただし、この選択は借用関係を考慮したものではないことが多く、一部を除いて便宜的である。標準ドイツ語については訳語の前に *hd.* (= Hochdeutsch) と記していないことが多い。訳注では必要に応じて古フリジア語 (*afr.*, *Altfrisisch*) の語形も与えた。低地ドイツ語は北低地ザクセン方言 (*Nordniedersächsisch*) とし、Lindow (1984), Harte/Harte (1989²) から取った。以下で低地ドイツ語という場合は北低地ザクセン方言を指す。また、たんにドイツ語という場合は標準ドイツ語を指す。デンマーク語の語形は南ユトランド方言 (*sønderjysk*) ではなく、標準デンマーク語 (*rigsdansk*) である。他の北フリジア語方言での対応語は示さなかったが、これについては Jørgensen (1981³), Mungaard (1913) を参照されたい。本文中、訳者の手による上記の欧文訳語は斜体字で示した。斜体字になっていない訳語は原文にあるものである。訳者が添えた本文中のモーリング方言の語形は原文と混同するおそれがない場合、斜体字にせずに示した、用語や語形などにかんする簡単な訳注は本文に取りこんだ。巻末の訳注では歴史的な説明や他のゲルマン語との比較についても配慮した。なお、Bendsen (1860) と Bauer (1925) からの引用例は原則として今日の正書法に修正して示した。

最後に、キール大学北フリジア語辞書編集所とブレットシュテットの北フリジア語研究所の諸先生、とくに1年間にわたってモーリング方言を教えていただいた同じくキール大学のハーマン先生 (Frau Ingeline Hamann) に厚く御礼申し上げる。

V. タムス・イェルゲンゼン著「北フリジア語
モーリング方言小文法」

目 次

ま え き が	74
A. 正 書 法	
I. 母 音	75
II. 二重母音	81
III. 子 音	82
B. 品 詞	
I. 冠 詞	85
II. 名 詞	
1. 性	86
2. 格	90
3. 複 数	91
III. 形 容 詞	95
IV. 代 名 詞	
1. 人称代名詞	99
2. 非人称代名詞	102
3. 所有代名詞	102
4. 指示代名詞	103
5. 疑問代名詞	103
6. 関係代名詞	105
7. 不定代名詞	106
8. その他の代名詞	107
V. 数 詞	109
VI. 動 詞	
1. 弱変化動詞	111
2. 強変化動詞	113
3. 不 定 詞	114
4. 助 動 詞	117
5. 不規則な変化をする強変化(および弱変化)動詞一覧表	118
文 法 用 語	133

Di mamenspräke dät beest ält blaft,
di främde koon't hart ai liise.
Di äliine önj uurd än schraft
koon följc foon banen wi riise.

Efter Grundtvig foon
Albrecht Johannsen

(訳： 母語は永遠に生き長らえ
他国の言葉に屈することはない
母語だけを人々は胸の奥から
文字の形に呼び起こすことができる)

グルントヴィ
アルブレヒト・ヨハンゼン訳)

まえがき

この文法書はごく短く、形態論と一部、統語論からもっとも重要なことがらだけを述べたものである。

最初にかなりくわしく正書法を扱った。フリジア語モーリング方言についてさらに知りたい方は、次の二つの著作を参照されたい。

1. Bende Bendsen: Die nordfriesische Sprache nach der Moringer Mundart, Leiden 1860 (repr. Wiesbaden 1972).
2. Erika Bauer: Die Moringer Mundart, Heidelberg 1925.

本書を執筆するさいにお世話になった方々すべてに厚く御礼申し上げる。本書についてさらに御意見をお寄せいただければ幸いである。人々に読まれ、人々に書かれる言語だけに未来はある。書くものは生き長らえるのである！

V. T. J.

A. 正 書 法

原則は次のとおり：

- 1) 短母音には一つの母音字を用いる。
- 2) 長母音と半長母音には二つの母音字を用いる。
- 3) 二重子音はない。
- 4) 単語はすべて一名詞も含めて一小文字書きをする。

I. 母 音 〈訳注 1〉

用例は名詞 (a), 動詞 (b), 形容詞 (c) である。ここでは西モーリング方言の形を用いるが、それは西モーリング方言が他の諸方言により近いからである。東モーリング方言と西モーリング方言の形に違いがある場合は、東モーリング方言の形を括弧に入れてつけ加えることにする 〈訳注 2〉。

1. ii 長

a) snii 雪 *Schnee*; liiwde 愛 *Liebe*, wfr. *leafde*; kliiwer クローバー *Klee*, engl. *clover*; schiis ("Scheide") 鞘

b) biie 曲げる *biegen*; driime 夢を見る *träumen*; liine 借りる, 貸す *leihen*; liiwe 思う *g-lauben*, wfr. *leauwe*

c) riin 清らかな *rein*; spii かわいい *da. spæd*; siir 傷ついた *nd. seer*, vgt. *ver-sehr-t*; wriis 怒った *nd. wreet*

2. ii 半長

a) iidj 泥炭; iilj 火 *da. ild*; biinj 巻, リボン *Band*, 足 *Bein*; schiis ("Löffel") スプーン *da. ske*

b) briidje 広げる *breiten*; siinje 見る *sehen*; tiinje 点火する *zünden*; stiiitje 突く *stoßen*

c) briidj 広い *breit*; hiinj 悪い; fliitji 勤勉な *fleißig*; swiitji 汗ばんだ *schweißig*

3. i 短

a) bi ミツバチ *Biene*, *da. bi*; tid 時間 *Zeit*; dik 堤防 *Deich*; twiwel 疑い *Zweifel*

b) ride 馬に乗って行く *reiten*; fine 見つける *finden*; gripe つかむ *greifen*; bliwe とどまる *bleiben*

c) fri 自由な *frei*; rik 金持ちの *reich*; bister 怒った *da. bister*; wit 白い *weiß*

4. ee 長

a) heef 海 *nd. Haff*; beer 大麦 *engl. bar-ley*; blees 葉 *Blatt*; scheew テーブル *vgl. Scheibe*

b) breege 割る, こわす *brechen*; smeele 微笑む *da. smile*; leese 読む *lesen*; heewe 持っている *haben*

c) smeel 狭い *schmal*; eerm 貧しい *arm*; beest 最良の *best*; leest 最後の *letzt*

5. ee 半長

a) neeb くちばし *da. næb*; beed ベット *Bett*; seek 袋 *Sack*; weensdi 水曜日 *engl. Wednesday*

b) seede 言う *sagen*; teeke 覆う *decken*; 助ける *heelpe helpen*; seete 置く *setzen*

c) leeft 左の *engl. left*; meek 快適な *ge-mach*; teen 薄い *dünn*; ween 青い *vgl. Waid*

6. e 短

a) noome 名前 *Name*; räigel 規則 *Regel*; feriining 協会 *Verein, da. forening*; rädjelse 謎 *Rätsel*

b) schunge 歌う *singen*; wälere 転がす *wälzen*; ferkuupe 売る *verkaufen*; besäke 訪れる *besuchen*

c) benaud むし暑い, もうろうとした *da. benovet*; fertriitjlik いやな *verdrießlich*; beerfätjet はだしの *barfuß*

7. ää 長

a) stää 町 *Stadt*, 場所 *Stätte*; säadel 紙切れ *Zettel*; fääder ペン *Feder*; tääl おとぎ話 *engl. tale*

b) räagne 計算する *rechnen*; ääse 食べる *essen*; bääsie 祈る *beten*;

strääwe 努力する *streben*

c) äädel 高貴な *edel*; sääker 確かな *sicher*; ääm 開いた *offen*; stääwi がっしりした *stämmig*

8. ää 長 〈訳注: 開. A. III. 3 a. 参照〉〈訳注 3〉

a) tääg (taag) ヒツジシラミバエ *da. färe-tæge*; wääg (waag) 週 *Woche*; hää 毛 *Haar*

b) präägele (praagele) 編む, チクチクする *prickeln*; fääre 導く *führen*; kääre 乗り物で行く *da. kere, vgl. kehren*; rääre さわる *rühren*

c) wäär 真の *wahr*; fäär 強い; schäär 純粋な *schier*

9. ä 短

a) brädj 花嫁 *Braut*; mäk (mak) キス; hängst (haingst) 馬 *da. hest, vgl. Hengst*

b) bäge (bage) 建てる *da. bygge*; dränke (drainke) 飲む *trinken*; lätje 放す, ...させる *lassen*

c) lächt (lacht) 軽い, 簡単な *leicht*; änkelt (ainkelt) 個々の *nd. enkelt*; wätj ぬれた *da. våd*

10. üü 長

a) hütse 故郷, わが家 *Zu-hause*; düüwel 悪魔 *Teufel*

b) bütte (農作業などの) 労働をする; brütte からかう *nd. brüden*

c) stüüni つましい *nd. süinig*; fütünsch 立腹した *nd. fütünsch*

11. üü 半長

a) brütüdj パン *Brot*; müülj (muul) 目標 *da. mål*; düüs 死 *Tod*; slütütj 堀 *nd. Sloot*

b) fütülje たたむ *falten*; hütülje 保つ *halten*; schütülje (豚を屠殺するときに皮を取りやすくするために) 熱湯を注ぐ *da. skolde*; rütütje わめく, ほえる

c) düüdj 死んだ *tod*; ütülj 古い *alt*; lütüs ゆるんだ, とれた *los*; hütüs しわがれた *heiser, nd. heesch*

12. ü 短

a) kũ 雌牛 *Kuh*; wũf 妻 *engl. wife, vgl. Weib*; dũmpet 枕; mũs 口
Mund, engl. mouth

b) brũke 使う *ge-brauchen, nd. bruken*; jũle 有効である *gelten, wfr. jilde*; brũse 鳴りひびく *brausen*; snũwe 鼻息を鳴らす *schnauben*

c) fũl 汚れた, 腐った *faul*; brũn 茶色の *braun*; nũsi 必要な *nötig*;
tjũsch ドイツ(人・語)の *deutsch*

13. öö 長

a) tjööge 証人 *Zeuge*; ööl フクロウ *Eule*; plööme スモモ *Pflaume*;
rööw カブ *Rübe*

b) drööge 乾く, 乾かす *trocknen*; hööle 泣き叫ぶ, ほえる *heulen*;
grööte 挨拶する *grüßen*; ööwe 練習する *üben*

c) dröög 乾いた *trocken*; gööl 黄色の *da. gul*; njööl ぎこちない;
slööni 迅速な *schleunig*

14. öö 長, 開

a) bööder バター *Butter*; föögel 鳥 *Vogel*; köögen 台所 *Küche*;
kööwel スカート *sv. kjol, vgl. da. kjole*

b) krööge 押す; hööge 喜ぶ *nd. högen*; göögele 羽ばたく, 舞う
gaukeln; töögere ためらう *zögern*

c) nöögen 控えめな *ge-nüg-sam*; möölik 可能な *möglich*; jöör 高価
な *teuer, wfr. djoer*; dööwelt 二重の *doppelt*

15. ö 短

a) blödj 血 *Blut*; stölj いす *Stuhl*; hönj 手 *Hand*; schörk 教会 *Kirche*

b) mölke 乳をしぼる *melken*; stönje 立っている *stehen*; jördere 家畜
の番をする *hirten*; löre 待つ *lauern*

c) klök 賢い *klug*; bröket カラフルな *da. broget*; slöri なげやりな
nd. slodderich; wörklik 現実の *wirklich*

16. uu 長

a) uug 目 *Auge*; puule 杭 *Pfahl*; luuwe 信念 *G-laube*; uur 耳 *Ohr*

b) bruule わめく, ほえる *brüllen*; schuulwe 訪問する, 訪問を受け

る; schuunie いたわる *schonen*; uuse 汲む *da. øse*

c) gruulik いまわしい *greulich*; puuri けちな, luurlatj ちっぽけな *nd. lüürlütt*; suurt 黒い *schwarz*

17. uu 半長

a) kuuch 干拓地 *Koog*; spuuke (車輪の) スポーク *Speiche*; kuulew 子牛 *Kalb*; tuuli 獣脂 *Talg*

b) huupe 積む *häufen*; kuupe 買う *kaufen*; luupe 走る *laufen*

c) duuf 耳の不自由な *taub*; struuf 張りつめた *straff*; fuuch 不安な *ae. fāh*; huuch 高い *hoch*

18. u 短

a) schruk ポケット; ul 羊毛, 毛糸 *Wolle*; Wunter 冬 *Winter*; kun-ker クモ

b) schude 振る *schütteln*; juchte 照らす *leuchten, wfr. ljochtsje*; pluke 摘む *pflücken*; prunge 交換する

c) rucht 正しい *recht*; tjuk 厚い *dick*; dum 愚かな *dumm*; jung 若い *jung*

19. oo 長

a) boog 住居 *vgl. da. bolig*; moone たてがみ *Mähne*; floose 群れ *da. flok*; foosch 蛙 *Frosch*

b) oome 呼吸する *atmen*; hooste せきをする *husten*; roose 腐る *nd. rotten*; hoowe 希望する *hoffen, da. håbe*

c) groof 荒い *grob*; froosti 冷えこんだ *frostig*; spooti しみのついた

20. oo 半長

a) fooder 干し草; woolken 雲 *Wolke*; hoolting 森 *vgl. Holz*; doom ダム *Damm*

b) looke おびき寄せる *locken*; soomle 集める *sammeln*; hoonle 扱う *handeln*; noope つまむ *engl. nip*

c) loom 麻痺した *lahm*; diiptoochti 意味深長な

21. oo 長, 開

a) goobel フォーク *Gabel*; hood 頭 *Haupt, da. hoved*; spoos 楽しみ *Spaß*; hoow 礼拝

b) wooge あえて ...する *wagen*, 目覚めている *wachen*; schoome 恥じる *sich schämen*; koone できる *können*; oone 予感する *ahnen*

c) toog 堅い *zäh, engl. tough*; sooli 至福の *selig*; broow 行儀のいい *brav*; spoowelt まだらの

22. o 短 〈訳注: “r+子音” の前のみ。A. III. 3 (後出), b. 参照〉

a) bord 板, 甲板 *Bord*; stork コウノトリ *Storch*; korn 穀物の粒 *Korn*; korw かご *Korb*

b) fordie 要求する *fordern*; borie 貸す, 借りる *borgen*; forme 形づくる *formen*

c) orkel 悪天候の; stormi 嵐の *stürmisch*; kort 短い *kurz*

23. aa 長

a) schaame 微光 *Schimmer*; saan 息子 *Sohn*, 筋, 腱 *Sehne*; waas 夫亡人 *Witwe*; taatje 父 *engl. daddy*

b) spaale 遊ぶ *spielen*; kaame 来る *kommen*; naame 取る *nehmen*; laawe 生きる *leben*

c) laani しなやかな, すばしこい *wfr. linich*; taasi 過敏な; slaawi のろい

24. a 短

a) la 大鎌 *nd. Lee*; madi 真昼 *Mittag*; waning 窓; fasch 魚 *Fisch*

b) bade たのむ *bitten*, 物ごいをする *betteln*; lade 横たわっている *liegen, wfr. lizze*; wansche 望む *wünschen*; sate すわっている *sitzen*

c) stal 静かな *still*; waderlik 不快な *widerlich*; wanlik 親切的な *da. venlig*; bater 苦い, つらい *bitter*

25. åå 長

a) wååder 水 *Wasser*; kååg 白パン *vgl. Kuchen*; wråål 世界 *Welt, wfr. wråld*; flååsch 肉 *Fleisch*

b) mååge 作る, する *machen*; snååke 話す *nd. snacken*; nååme 名づ

ける *nennen*, *nd. nōmen*; *swååre da. svare*

c) *nåågel* 裸の *nackt*, *nd. nakelt*; *måål* 狂った, 怒った; *nåår* 狭い, ぎつい; *fååst* がんばりやうな, しっかりした *fest*

26. *å* 短

a) *jåcht* 狩り *Jagd*, ヨット *Jacht*, 忙ぎ; *jåk* 上着 *Jacke*; *håls* のど, くび *Hals*; *åte* 祖父

b) *fåle* 落ちる *fallen*; *wåge* 揺り動かす *wiegen*; *schånke* 贈る *schenken*; *åchte* 尊重する, 注意する *achten*

c) *swåk* 弱い *schwach*; *hålt* 足の不自由な *da. halt*; *ålwri* まじめな *da. alvorlig*; *fåt* 肥えた, 脂っこい *fett*

II. 二重母音

1. *äi*: *däi* 日 *Tag*; *wäi* 道 *Weg*; *bräif* 手紙 *da. brev*; *täis* 齒 *engl. teeth*

2. *ui*: *tui* 雪解け *Tau-wetter*; *spuie* 予言する *da. spå, vgl. spåhen*, *snuie* ねじる, 巻く *da. sno*; *schuie* (馬に) 蹄鉄をつける *da. sko*

3. *oi* [*ooi*]: *loi* 怠惰な *wfr. loai*; *moi* 美しい *wfr. moai, vgl. nd. moi*

4. *oi* [*äi*]: *woin* 車 *Wagen, wfr. wein*; *kloi* 粘土 *Klei*; *floil* からざお, 打穀棒 *Flegel*; *oi* 卵 *Ei*

5. *ai*: *bai* 液果 *Beere, ndl. bes, wfr. bei*; *brai* かゆ *Brei*; *strai* 藁 *Stroh*; *fraid* 金曜日 *Freitag*

6. *au*: *gau* はやい *nd. gau*; *haue* 打つ, 切る *hauen*; *tjaule* けんかを
をする; *nau* 厳密な *ge-nau*

7. *ou* [*äu*]: *gou* 良い (<*moor. gödj*) *gut*; *rou* 休息 *Ruhe*; *brouder* 兄弟 *Bruder*; *bousem* 地面 *Boden*, 家畜小屋

8. *öi*: *gröis* 砂利 *da. grus*; *stjöie* 振る, 揺り動かす; *öis* 軒下の
い *nd. Öös*; *möite* 苦勞 *Mühe, wfr. muoite*

III. 子 音 〈訳注 4〉

子音のほとんどは周辺の言語と同様に発音される。

1. j-子音 〈訳注：口蓋化子音〉〈訳注 5〉

子音 d, k, l, n, t にはもうひとつ別の発音があり (軟子音), そのときには j を加えてしるす: dj, kj, lj, nj, tj. これは, ちょうど j の発音のときと同じほど舌が口の中で少し高い位置に置かれるという意味である。例:

dāt liid 歌 *das Lied* — dāt iidj 泥炭

di māk キス — dāt ākj 雌馬 *vgl. da. øg-et*

da file 自転車 *engl. wheel* 〈訳注: dāt filj の複数〉 — da filje (車輪の) リム *die Felgen* 〈訳注: di filje の複数〉

liine 貸す, 借りる *leihen* — siinje 送る *senden*

hat (人称代名詞) 〈訳注: 3 人称単数中性生物主格, B. IV. 1. 参照〉 — di hatj 熱 *die Hitze*

2. “sch”

sch の音は, フリジア語 〈訳注: モーリング方言〉ではドイツ語と同様に発音される。ただし, l, m, n, p, t, w の前の s はつねに澄んだ (無声の) s である。すなわち, sch は語頭では母音と r の前にしか来ない。例:

sch: schunge 歌う *singen*; schāip 羊 *Schaf*; schōrk 教会 *Kirche*; schruk ポケット

s: slāipe 眠る *schlafen*; smite 投げる *schmeißen*; snāāke 話す *nd. snacken*; spāile すすぐ *spülen*; stiitje 突く *stoßen*; swume 泳ぐ *schwimmen*

3. “s”

軟音 (有声) の s と硬音 (無声) の s がある。その違いは文字には示されない 〈訳注 6〉。

a) s は母音間で軟音として発音される 〈訳注 7〉。例:

wise 方法, 歌 *Weise*, 示す *weisen*; räise 旅行する *reisen*; biise 両方

beide; *tjääse* シャべる; など

b) *s* は母音の後で語末に立つときも軟音として発音されることがある。

例:

jü räis 旅行 *da. rejse-n*; jü smaas 鍛冶工場 *die Schmiede*; jü rous ベラ *die Rose*; など

c) 硬音の *s* と軟音の *s* は、単語によって単数と複数で交代することがある〈訳注 8〉。例:

硬音〈訳注: 単数〉— 軟音〈訳注: 複数〉

dāt las 部分, 手足 *das G-lied* — *da laase*

di smas 鍛冶屋 *der Schmied* — *da smaase*

di stüts 泉 *nd. de Soot m.* — *da suuse*

その他、正書法にかんするいくつかの点について:

1. 単音節語の中には、〈訳注: アクセントが置かれると長母音として発音されることがあっても〉単母音として表記されるものがある。例:

dī 定冠詞男性単数 *der* など; *hī* 人称代名詞 3 人称男性単数主格 *er*

de 人称代名詞 2 人称単数目的格 *dich, dir, (deiner)*; *me* 人称代名詞 1 人称単数目的格 *mich, mir, (meiner)*; *we* 人称代名詞 1 人称複数主格 *wir*

aw 前置詞: ...の上に *auf*

これはアクセントのない語尾 *-i* にもあてはまる。例:

sani ゆっくり; *misti* 霧のかかった *ndl. mistig*

2. 「低い」母音 *aa, ää, åå* の後に “*r* + 子音” が続く場合、母音字はひとつしか用いない〈訳注: 訳注 92. 1. ii 参照〉。例:

bjarn 子供 *da. barn*; *wärw* (家の土台の) 土盛り *Warft*; *wärk* 痛み *vgl. da. værk*

3. 今日の発音にならって

a) *r* の前のかつての複母音 *äi* は、長母音 *ää* と書く〈訳注: A. I. 8. 参

照)。例:

häär 毛 *Haar*; wäär 真の *wahr*

b) “r+子音”の前のかつての複母音 ou は o と書く〈訳注: A. I. 22. 参照〉。例:

korn 穀物の粒 *Korn*; stork コウノトリ *Storch*; storm 嵐 *Sturm*

4. 不定冠詞は en と書く。接続詞〈訳注: ドイツ語の *und* に相当〉のほうは、発音に従って än あるいは an と書く〈訳注 9〉。例:

en *frasch schölj* än (an) en *fraschen schöljmäister* än (an) *frasche bjarne* フリジア (語) の学校とフリジア人の校長先生とフリジア人の子供たち

5. 前置詞 *for/foor* には *for* (*hd. für* ... のために) と *foor* (*hd. vor* ... の前に) の区別をする〈訳注 10〉。例:

Foor di 1. wräälskrich heet följ äl for di *frasche spräke* uued. 第一次世界大戦以前に人々はすでにフリジア語のために活動した。

6. 外来語はすべてフリジア語〈訳注: モーリング方言〉の正書法にあてはめる。すなわち、発音どおりに書く。それが困難な場合でも、やはりフリジア語〈訳注: モーリング方言〉式の発音に直して表記する。例:

balkong バルコニー *Balkon*; diktiire 口述筆記させる *diktieren*; frak-sjoon 議員団 *Fraktion*; industrii 工業 *Industrie*; instituut 研究所 *Institut*; instrumänt 器具 *Instrument*; kultuur 文化 *Kultur*; militeär 軍隊 *Militär*; prinsiip 原則 *Prinzip*; probleem 問題 *Problem*; redaktöör 編集者 *Redakteur*; republiik 共和国 *Republik*; spioon スパイ *Spion*; statiif 三脚 *Stativ*; tablät 盆 *Tablett*; wäntiil 弁 *Ventil*

7. c (例外: ch および sch で), q, ß, v, x, y, z の文字は用いない。

B. 品 詞

I. 冠 詞

1. 定 冠 詞

性は三種類ある： 男性，女性，中性〈訳注 11〉。定冠詞の形は次のとおり：

単数： di, jü, dät；複数： da 〈訳注 12〉。例：

	男 性	女 性	中 性
単 数	<u>di</u> moon <i>der Mann</i>	<u>jü</u> wüset <i>die Frau</i>	<u>dät</u> bjarn <i>das Kind</i>
複 数	<u>da</u> määns <i>die Männer</i>	<u>da</u> wüste <i>die Frauen</i>	<u>da</u> bjarne <i>die Kinder</i>

定冠詞にはそれぞれ縮約形がある。例：

	男 性	女 性	中 性
単 数	<u>e</u> moon	<u>e</u> wüset	<u>et</u> bjarn
複 数	<u>e</u> määns	<u>e</u> wüste	<u>e</u> bjarne

縮約形はアクセントをもたず，とくに前置詞の後で用いられる〈訳注 13〉。

そのさい et は t に短縮され，前置詞とともに書かれる。しかし，-t 〈訳注：および -tj〉で終わる前置詞の後では et のままである。例：

tu e slächter 例肉屋のところへ〈訳注：tu zu〉；bai e wäile 瀉のところで〈訳注：bai bei, an〉；bait wääder 水辺で；önjt schölj 学校で〈訳注：önj in〉；ätj et bjarn 子供の家で〈訳注：ätj engl. at〉；üt et waning 窓の外に〈訳注：üt aus〉

t は，性と数にかかわらず，母音で始まる名詞の前ではつねに前置詞の後につく縮約形として用いられる〈訳注 14〉。例：

önjt uugene 目の中に〈訳注：uug Auge の複数〉；bait uure 耳もとで〈訳注：uur Ohr の複数〉；awt eekere 畑で〈訳注：aw auf; eeker Acker の複数〉

定冠詞は代名詞として用いられることも多い。例：

Jare bjarne — da san ál foont schölj. 彼らの子供たちはもう学校から

帰った

San âte — di as stôrwen. 彼のおじいさんは亡くなった

2. 不定冠詞

不定冠詞はすべての性で en である〈訳注 15〉。例：

男 性	女 性	中 性
en moon	en wüset	en bjarn
<i>ein Mann</i>	<i>eine Frau</i>	<i>ein Kind</i>

II. 名 詞

1. 性

フリジア語〈訳注：モーリング方言〉の名詞の性は他の言語とは異なることがある。すなわち、

di hängst 馬 *vgl. das Pferd*; di spräke 言語 *die Sprache, da. sproget*; jü scheew 机 *vgl. der Tisch, die Scheibe*; jü swuun 白鳥 *der Schwan*; dât bräif 手紙 *der Brief, da. brev-et*; dât schölj 学校 *die Schule* など

明確な規則は立てられない。いくつかの語についてのみ、どの性をとるか言えるにすぎない。しかし、これにも例外がある。

男性は次の場合：

a) 自然性が男性であるもの。例：

di moon 男 *der Mann*; *di* dring 少年 *da. dreng-en*; *di* saan 息子 *der Sohn*; *di* krädjer おんどり; *di* kâader 雄猫 *der Kater*; *di* krouer 居酒屋(宿屋)の主人 *da. krovært-en*

b) 日、月、季節を示す語。例：

di weensdi 水曜日 *da. onsdag-en*; *di* moi 五月 *der Mai*; *di* wunter 冬 *der Winter*

c) 行為〈訳注：行為者〉を示す -er で終わる語。例：

di schriwer 書き手 *der Schreiber*; di rucher 裁判官 *der Richter*; di süter 靴屋 *der Schuster*; di meeler 製粉業者 *der Müller*; di fascher 漁師 *der Fischer*; di schouler 生徒 *der Schüler*

d) -de で終わる抽象名詞〈訳注 16〉。例:

di lāngde 長さ *nd. de Lāng(de) f., ndl. de lengte f.*; di hōögde 高さ *nd. de Hōögde f., ndl. de hoogte f.*; di drōögde 乾燥状態 *nd. de Drōögde f., ndl. de droogte f.*; di liiwe 愛 *nd. de Leefde f., ndl. de liefde f.*; di diipde 深さ *nd. de Deepde f., ndl. de diepte f.*

e) -em で終わる大部分の語。例:

di bousem 地面 *ndl. de bodem m.*; di bāisem ほうき *ndl. de bezem m.*
(ただし, jū fāisem 〈訳注 17〉 両腕を広げた長さ (約 1.8 m) *engl. fathom*;
jū gāasem 両手に一杯 (の量); dāt huulem 藁 *der Halm*)

f) -ense および -else で終わる大部分の語。例:

di fiirensē 遠方 *die Ferne*; di likense 類似 *wfr. de ge-likens, vgl. das G-leichnis*; di tjukense/tjukelse 厚さ *da. tykkelse-n*; di grutelse 大きさ *die Größe, wfr. de grutens*; di tūnelse 〈訳注 18〉 腫れ; di tākelse ながえ, かじ棒 *die Deichsel*; di rādjelse 謎 *das Rätsel*

(ただし dāt spökelse 幽霊 *nd. dat Spökels*; dāt starkelse 強さ *Stärke, wfr. de sterkens*)

g) -e で終わる大部分の語。例:

di drāāge 竜 *der Drache*; di foone (ただし jū foon) 旗 *die Fahne*; di frāāge (ただし jū frāāg) 疑問, 質問 *die Frage*; di gööme 口蓋 *der Gaumen*; di koie 鍵 *engl. the key*; di sööme 合計 *die Summe*; di stunge 棒 *die Stange*

(ただし dāt arbe 仕事 *da. arbeide-t; vgl. die Arbeit*; dāt ääse 食事 *das Essen*; dāt moolke ミルク *die Milch*; dāt ööle 油 *das Öl*; 「中性 c」の項も参照)

女性は次の場合:

a) 自然性が女性であるもの。例:

jü wüf 妻 *engl. the wife, vgl. das Weib, wfr. it wiif*; jü doochter 娘 *die Tochter*; jü foomen 少女 (ただし dāt foomen も可) *wfr. de faam, it famke*; jü hân めんどり *nd. de Hehn f.*; jü kû 雌牛 *die Kuh*; jü söög 雌豚 *nd. de Söög*

(ただし dāt äkj 雌馬 *da. øg-et*)

b) 木を示す語。ただし, -buum (-baum) による複合語を除く。例:

jü iik カシ *die Eiche*; jü bākj ブナ *die Buche*; jü birk 白樺 *die Birke*; jü äler ハンノキ *die Erle*; jü fäär 松 *die Föhre*; jü iiper ニレ *ndl. die iep f.*; jü lan 菩提樹 *die Linde*

(ただし di iikenbuum カシの木 *der Eichenbaum* など)

c) 鳥を示す大部分の語。例:

jü hân ニワトリ *da. hōne-n*; jü ânert アヒル *die Ente*; jü göis ガチ
ヨウ *die Gans*; jü liip タゲリ *wfr. de ljp*; jü loosch ヒバリ *die Lerche*
(ただし di föögel 鳥 *der Vogel*)

d) 数を示す語。例:

jü iinj 一 *die Eins*; jü fjouwer 四 *die Vier*; ju nul ゼロ *die Null*

e) -ged で終わる抽象名詞。例:

jü dööged 徳 *die Tugend, nd. de Döög(t) f.*; jü hööged くつろぎ *das Be-hagen*; jü dääged 繁栄 *das Ge-deihen*

(ただし di fooged 代官 *der Vogt*)

f) -häid (-heit) で終わる語。例:

jü bliikhäid 青白いこと *die Bleiche*; jü säkerhäid 安全, 確実 *die Sicher-heit*; jü swäkhäid 弱さ *die Schwachheit*;

(ただし, 輕蔑的に dāt däasihäid <訳注 19> 気ちがいじみたこと; dāt föölihäid 腐敗 *Fäule*)

g) -ing (-ung) で終わる抽象名詞。例:

jü foorstaling 紹介, 観念 *die Vorstellung*; jü ferhoonling 交渉 *die Verhandlung*; jü feriining 協会 *da. forening-en*; jü iinjing 終了 *die*

Endung; jü liising 解決 *die Lösung*; jü tising 知らせ *ndl. de tijding f.*

(ただし *dät meeting* 会合 *engl. the meeting*; *dät teering* (旅行に持参する) 食糧 *Weg-zehrung*, 飲食 *Ver-zehr*

h) 場所あるいは職業を示す *-rai (-rei)* で終わる語。例:

jü brauerai 醸造業(所) *die Brauerei*; jü brānerai 蒸留業(所) *die Brennerei*; jü wāawerai 織物業(所) *die Weberei*

(ただし *dät kriimerai* 小売業(店) *die Krämerei* — 「中性 f」の項も参照)

中性は次の場合:

a) 方角。例:

dät norden 北 *ndl. het noorden, vgl. der Norden*; *dät āasten* 南 *ndl. het oosten, vgl. der Osten*

b) 大部分の国や地名。例:

dät grut Ruslönj 大きなロシア *das große Rußland*; *dät rik Ääderstää* 豊かなアイダーシュテット *das reiche Eiderstedt*; *dät ünroui Weesterlönj* 騒がしいヴェスターラント *das unruhige Westerland*

(ただし jü Swaits スイス *die Schweiz*; jü Türkai トルコ *die Türkei*)

c) 大部分の物質名詞。例:

dät gölj 金 *das Gold*; *dät stälj* 鉄 (訳注: *dät stool* 鋼鉄 *der Stahl*); *dät sönj* 砂 *da. sand-et*; *dät ääse* 食事 *das Essen*; *dät ul* 羊毛 *die Wolle*; *dät moolke* ミルク *die Milch*; *dät ruume* クリーム *der Rahm*

(ただし *di kloï* 粘土 *der Klei*; *di säis* チーズ *der Käse*)

d) 名詞として用いられた場合の *-n* で終わる動詞 (訳注 20)。例:

dät käären 乗物で行くこと (訳注: *kääre* 乗り物で行く *da. køre*); *dät bütten* (農作業などの) 労働 (訳注: *bütte* (農作業などの) 労働をする); *dät belaawen* 体験 (訳注: *belaawe* 体験する *ndl. beleben/beleven*)

e) *-duum* (訳注 21) (*-tum*) および *-schap* (訳注 22) (*-schaft*) で終わる語。例:

dāt äinduum 財産 *das Eigentum*; dāt hiirtuchduum 公国 *das Herzogtum*; dāt krastenduum キリスト教 *das Christentum*; dāt loonschap 景色 *da. landskab-et*; dāt frünschap 友情 *die Freundschaft*, 親戚; dāt seelschap 社会 *da. selskab-et*

f) 軽蔑的な意味をもつ場合の *-rai (-rei)* で終わる語〈訳注 23〉。例:

dāt njääserai 遅鈍, ためらい *vgl. nd. nödeln* のろのろする, ためらう;
dāt sliirerai おべっか; dāt tiirerai 盗み *die Dieberei*

g) 本来は男性あるいは女性で, 何か小さなものや軽蔑的なものを表わしたい場合に用いる語。例:

dāt hün 小犬〈訳注: di hün 犬 *der Hund*〉; dāt mansch(e) 奴, 娼婦
das Mensch〈訳注: di mansch(e) 人間 *der Mensch*〉; dāt wüset あま〈訳注: jü wüset 女の人〉

2. 格

a) 名詞は属格で *-s* をとる。これはじっさいには人の場合にしかあらわれない。人名〈訳注: 伝統的な洗礼名〉あるいは親族名称 (*taatje* 父, など) のときは, *-(e)ns* をつけ加える〈訳注 24〉。例:

näibers hüs 隣人の家〈訳注: näiber 隣人 *Nachbar*〉; ätens püp おじいさんのパイプ〈訳注: äte 祖父 *Großvater*〉; mamens hul おかあさんの帽子(頭巾)〈訳注: mam 母 *Mutter*〉

しかし, たいていは所有代名詞 (*sin (sein)* など) あるいは前置詞 *foon (von)* を用いる。例:

tüsen näiber sin hüs 私たちの隣人の家; Antje har spaltjüch アンチエのおもちゃ; da feene foon Suselswärw シュゼルスヴェルヴ〈訳注: 架空の地名〉の牧草地

b) 人名〈訳注: 伝統的な洗礼名〉の場合〈訳注: および親族名称の場合〉には, 〈訳注: 対応する標準ドイツ語で〉与格あるいは対格のとき〈訳注: すなわちモーリング方言で目的格のとき〉, *-(e)n* を用いる〈訳注 25〉。例:

Wäät dü Taatjen dāt düünj? 君はおとうさんにそれをあげたいのか

Hääst dü Pätjern sänj? 君はペチャーを見かけたか

We hääwe ninte foon Hansen hiird. 私たちはハンスのことは何も聞いていない

c) 若干の語には古い格語尾がまだ残っているものがある。

前置詞 tu (vgl. *zu*) の後で -s を伴うもの〈訳注: かつての属格〉。例:

tu diks 提防のところで〈訳注: dik 提防 *Deich*〉; tu luups 離れて〈訳注: luup 走り *Lauf*〉; tu mödjs ...の気持ちで *zumute*〈訳注: mödj 気持ち *da. mod*〉; tu weeds 競って〈訳注: weed 賭〉

前置詞 am (vgl. *um*) の後で -em を伴うもの〈訳注: かつての与格〉。例:

am däiem 昼間に〈訳注: däi 昼 *Tag*〉; am nächtem 夜に〈訳注: näch 夜 *Nacht*〉; am wunterem 冬に〈訳注: wunter 冬 *Winter*〉

(ただし am eenmen 晩に〈訳注: een 晩 *Abend*〉)

3. 複 数〈訳注 26〉

a) 大部分の名詞は複数で -e をとる。例:

di hūn 犬 *der Hund* — da hūne
jū scheew テーブル vgl. *die Scheibe* — da scheewe
dāt uurd 語 *das Wort* — da uurde

すでに -e がある場合はそのままである。例:

di bōre 農夫 *der Bauer* — da bōre
di wāile 潟 *die Wehle* — da wāile
di tākelse ながえ, かじ棒 *die Deichsel* — da tākelse

b) -el, -em, -en, -er, -et, -ew で終わる語ではたいてい子音の前の e が落ちる。例:

di fōōgel 鳥 *der Vogel* — da fōōgle
di bāisem ほうき *ndl. de bezem m.* — da bāisme
di kōōgen 台所 *ndl. de keuken f.* — da kōōgne
di māister 親方 *der Meister* — da māistre
jū wūset 女の人 — da wūste

dāt kuulew 子牛 *das Kalb* — da kuulwe

c) 複数で -ne をとる語がある 〈訳注 27〉。例:

di brouder 兄弟 *der Bruder* — da brouderne

jü süster 姉妹 *die Schwester* — da süsterne

jü doochter 娘 *die Tochter* — da doochterne

jü mam 〈訳注 28〉 母 *die Mutter* — da mamne

di mansche 人 *der Mensch* — da mansch(e)ne

di gooner 雄のガチョウ — da goonerne

di näiber 隣人 *der Nachbar* — da näiberne

これには次の場合が含まれる:

di hiire 主人, 紳士 *der Herr* — da hiirne

dāt uug 目 *das Auge* — da uugene

dāt stuk 部分, 個 *das Stück* — da stöögne

dāt stää 場所 *die Stätte* — da stäägne

d) 複数で -(n)se をとる語がある。例:

di junge 少年 *der Junge* — da jungense 〈訳注: da jungens も可〉

di kjarl 男の人 *der Kerl* — da kjarlse 〈訳注: da kjarls がふつう〉

e) 複数で -inge をとる語がある 〈訳注 29〉。例:

dāt hūs 家 *das Haus* — da hüsinge

dāt krüs 壺, かめ *da. krus-et* — da krüsinge (dt. 'Krug')

di müs 口 *der Mund, engl. the mouth* — da müsinge

di tün 庭 *ndl. de tuin m.* — da tüninge 〈訳注 30〉

dāt schrün ひつ *der Schrein* — da schrüninge

dāt iir 年 *das Jahr* — da iir(i)nge

f) -e がつくと硬子音 〈訳注: 無声子音〉が軟子音 〈訳注: 有声子音〉に交替する語が相当ある 〈訳注: 訳注 8 参照〉。例:

dāt bräif 手紙 *der Brief, da. brev-et* — da bräiwe

di tiif 泥棒 *der Dieb* — da tiuwe

jü grouf 溝 *der Graben* — da grouwe

- di plouf 鋤 (♂) *der Pflug* — da plouwe
 di krouf 居酒屋 *da. kro-en* — da krouwe
 dât greef 墓 *das Grab* — da greewe
 dât ruuf かせ, より糸の束 — da ruuwe
 dât tiich 太腿 (♂) *engl. the thigh* — da tiige
 これには次の場合も含まれる。
 dât knif メス *nd. dat Knief* — da kniwinge
 dât schûf 引き出し *Schub-lade, nd. de Schuuf f.* — da schûwinge
 dât reef きつね *da. ræv-en* — da rääwe
 jû steef 樽板 *da. stav-en* — da stääwe
 di krich 戦争 *der Krieg* — da kreege
 di stich 小道 *der Steg* — da steege
 di twich 枝 *der Zweig* — da tweege
 dât feek ロッカー *das Fach* — da fääge
 dât schap 船 *das Schiff* — da schaawe
 dât schâp 戸棚 *nd. dat Schapp* — da schääwe
 dât 〈訳注: 原文の dat は誤植〉bâd 水浴, 入浴 *das Bad* — da bâåse
 dât las 部分, 手足 *nd. dat Leed* — da laase
 di smas 鍛冶屋 *der Schmied* — da smaase
 dât klûts 衣服 *das Kleid* — da kluuse
 di sûtis 泉 *nd. de Soot m.* — da suuse
 dât swees 刈り取った草 (穀物) の束 (列) *der/das Schwad* — da swääse
 di trees 歩み *der Tritt* — da trääse
 dât feet (とくにミルクを入れる) 桶 *da. fad-et* — da fääse
 dât fât 桶 *das Faß* — da fääse
 dât spat 槍 *nd. dat Spitt* — da spaase
 g) その他の特殊な複数形 〈訳注 31〉。例:
 dât biinj 足 *das Bein* — da biine
 di stiinj 石 *der Stein* — da stiine

di/dāt diilj 部分 *der/das Teil* — da diile
 dāt fiilj 自転車 *engl. the wheel* — da fiile
 di stölj いす *der Stuhl* — da stoule
 dāt schölj 学校 *die Schule* — da schoule
 dāt bölj 小屋 — da boule
 jü dölj 境界 — da doule
 dāt mälj 食事 *das Mahl* — da mäile
 dāt äkj 雌馬 *vgl. da. øg-et* — da äke
 di fötj 足 *der Fuß* — da fätj
 jü göis ガチョウ *nd. de Goos f.* — da gäis
 jü ktü 雌牛 *die Kuh* — da kee
 di schouf 靴 *der Schuh* — da schuur
 di dāi 日 *der Tag* — da deege
 di wāi 道 *der Weg* — da weege
 di moon 男の人 *der Mann* — da määns <訳注: 今日では da kjarls が
 ふつう>

h) 単数と複数で形が同じ語がいくつかある<訳注 32>。例:

jü bi ミツバチ *da. bi-en* — da bi
 dāt schäip 羊 *nd. dat Schaap* — da schäip
 dāt swin 豚 *da. svin-et* — da swin
 dāt gris 子豚 *da. gris-en* — da gris
 jü mūs ネズミ *da. mus-en* — da mūs
 jü lūs シラミ *da. lus-en* — da lūs
 di täis 歯 *vgl. engl. the teeth* — da täis

量を示す場合に同様の变化をする語:

<訳注: 原文の dāt schan 皮 *da. skind-et* — da schan は誤植と思われる>

dāt päär 対, 組 *das Paar* — da päär
 jü mårk マルク (貨幣の単位) *die Mark* — da mårk

dāt pūn ポンド (重量単位) *das Pfund* — da pūn

dāt iir 年 *wfr. jier, ndl. het jaar* — da iir

III. 形 容 詞

1. “-e” 形 <訳注: 弱変化および強変化複数>

語尾 -e は複数と男性であられる。例:

	男 性	女 性	中 性
単 数	di üülje moon <i>der alte Mann</i>	jü krunk wüset <i>die kranke Frau</i>	dāt latj bjarn <i>das kleine Kind</i>
複 数	da üülje määns <i>die alten Männer</i>	da krunke wüste <i>die kranken Frauen</i>	da latje bjarne <i>die kleinen Kinder</i>
	üülje määns <i>alte Männer</i>	krunke wüste <i>kranke Frauen</i>	latje bjarne <i>kleine Kinder</i>

<訳注: 以上, 弱変化>

<訳注: 以上, 強変化複数>

形容詞が名詞として用いられる場合も同様である。例:

	男 性	女 性	中 性
単 数	die üülje <i>der Alte</i>	jü krunk <i>die Kranke</i>	dāt latj <i>das Kleine</i>
複 数	da üülje <i>die Alten</i>	da krunke <i>die Kranken</i>	da latje <i>die Kleinen</i>

<訳注: 以上, 弱変化>

これは所有代名詞, 指示代名詞, 人称代名詞が前に来るときも同様である <訳注 33>。例:

ütusen äine wäi 私たち自身の道 <訳注: äin 自身の *eigen*>; junk naie stäiwle あなたたち二人の新しい長靴 <訳注: nai 新しい *neu*>; dideere grute kjarl あの大きな男の人 <訳注: grut 大きい *groß*>; dadeer latje krüle あの小さな花々 <訳注: latj 小さい *nd. lütt*; krül(e) は今日ではふ

つう *kröl(e)* と書く> ; *ik eerme moon* 哀れな男の私 <訳注: *eerm* 哀れな *arm*> ; *we rike böre* 豊かな農夫の私たち <訳注: *rik* 豊かな *reich*>

だれかに話しかけたり, 手紙を書いたりするときも同様である。例:

Liiwe brouder! 愛する兄(弟) よ <訳注: *liiwe←liif* 親愛な *lieb*> ; *Liiw stüster!* <訳注 34> 愛する姉(妹) よ ; *Liiwe älerne!* 愛する両親へ

2. 語尾 *-en* は男性で, 不定冠詞の後と *ân* <訳注: 数詞 *engl. one*> および *nân* <訳注: 否定冠詞 *kein, vgl. engl. none*> の後であられる。<訳注: 強変化単数。強変化複数の例は B. III. 1. の表を参照> 例:

男 性	女 性	中 性
<i>en üüljen moon</i> <訳注 35>	<i>en krunk wüset</i>	<i>en latj bjarn</i>
<i>ein alter Mann</i>	<i>eine kranke Frau</i>	<i>ein kleines Kind</i>
<i>ân üüljen moon</i>	<i>iinj krunk wüset</i>	<i>iinj latj bjarn</i>
(同 上)	(同 上)	(同 上)
<i>nân üüljen moon</i>	<i>niinj krunk wüset</i>	<i>niinj latj bjarn</i>
<i>kein alter Mann</i>	<i>keine kranke Frau</i>	<i>kein kleines Kind</i>

形容詞が単独で名詞(単数)に付加された場合も同様である。例:

Üüljen win as beest. 古いワインは最高だ

3. “-s” 形

形容詞が不特定の意味で *foole (viel)*, *ninte (nichts)*, *dât (das)*, *wat ((et)-was)* の後に来ると *-s* が付加される <訳注 36>。例:

foole nais 多くの新しいこと <訳注: *nai* 新しい *neu*> ; *ninte ärjs* 何の悪いことも (...ない) <訳注: *ärj* 陰悪な *arg*> ; *dât gous* 良いこと, 善意, 幸運 <訳注: *gous←gödj* 良い *gut*> ; *wat üüljs* 何か古いこと <訳注: *üülj* 古い *alt*>

4. ゼロ形

形容詞は単独で <訳注: 叙述用法で> 用いられる場合は無変化である。例:

Di moon as tülj. その男の人は年をとっている — Da määns san tülj.
その男の人たちは年をとっている

Jü wüset as krunk. その女の人は病気だ — Da wüste san krunk. そ
の女の人たちは病気だ

Dät bjarn as latj. その子供は幼い — Da bjarne san latj. その子供た
ちは幼い

形容詞 stääkels (衰れな *da. stakkels*) はけっして語尾をとらない〈訳注：
da. stakkels も無変化〉。例：

di stääkels dring 衰れな少年 — da stääkels manschne 衰れな人々

5. 他 の 変 化

形容詞が語尾をとらない場合も含めて、名詞の場合と同様に、硬子音〈訳
注：無声子音〉は変化のさいに軟子音〈訳注：有声子音〉になることがたび
たびある〈訳注 37〉。例：

Di buum as huuch. その木は高い — di huuge buum 高い木

Jü wüset as duuf. その女の人は耳が不自由だ — jü duuw wüset 耳の
不自由な女の人

Dät biinj as stif. 足がつっぱっている — dät stiw biinj つっぱっ足

Da kluuse san bröket. それらのドレスはカラフルだ — da brökede
kluuse カラフルなドレス

同様の变化をする形容詞には次のものがある：

groof, -we 粗雑な *grob*; liif, -we 愛すべき *lieb*; kiif, -we うんざりし
た *da. ked*; struuf, -we 張りつめた *straff*; fuuch, -ge 不安な *ae. fāh*;
driich, -ge 十分な, がんじょうな; rüch—rööge 粗い *rauch*; blüch—blööge
内気な *sv. blyg*; lüts 〈訳注：[s]〉—luuse 〈訳注：[z]〉 ゆるい *lose*; snüts
〈訳注：[s]〉—snuuse 〈訳注：[z]〉 清潔な

これには次の場合も含まれる：

Hi as gödj. 彼は善良だ — di goue moon 善良な男の人

Dät as kölj. 寒い — di koule wunter 寒い冬

Dāt as nooch. それで十分だ — Dāt san nooge. それだけいけば十分だ
nooch (*ge-nug*, *nd. noog*) は形容詞の後に来ると enooch となり、形容詞
とともに一語で書かれる。例：

Hi as gouenooch/starkenooch. 彼はとても善良だ／とても力が強い

6. 比 較

一般に、比較級では -er(e) 〈訳注：今日では -er が一般的〉〈訳注 38〉、最
上級では -(e)st 〈訳注 39〉が付加される。例：

	比較級	最上級
grut 大きい <i>groß</i>	gruter(e)	grutst
tjuk 厚い <i>dick</i>	tjuker(e)	tjukst
fååst しっかりした <i>fest</i>	fååster(e)	fååstest

最上級が単独で 〈訳注：叙述用法で〉あらわれる場合には、しばしば *am*
を伴った形が用いられる。例：

am grutsten もっとも大きい *am größten*; *am* tjuksten もっとも厚い
am dicksten

特殊な形をもつ語がいくつかある。例：

原 級	比較級	最上級
gödj 良い <i>gut</i>	bääder(e)	beest
ärj 険悪な <i>arg</i>	eere	eerist
üülj 古い <i>alt</i>	åler(e)	ålst
lait 少ない <i>da.lidt</i>	maner(e)	manst
foole/maning 多い	mör	määst
<i>viel/da. megen</i>		
lung 長い <i>lang</i>	lång(er)(e)	långst
eeder 早い <i>engl. ear-ly</i>	iir	jarst
lää(s) 遅い <i>nd. laat</i>	lääser(e) 〈訳注 40〉	leest
näi 近い <i>nahe</i>	näre	näist
fiir 遠い <i>fern wfr. fier</i>	fare	farest 〈訳注 41〉

(時間的に)

同様に

liif/hâl 好ましい	liiwer(e)	liifst
<i>lieb/da. komp. hellere</i>		
huuch 高い <i>hoch</i>	huuger(e)	huuchst
stif こわばった <i>steif</i>	stiwer(e)	stifst
lüt ゆるい <i>lose</i>	luuser(e)	luusest
kölj 寒い <i>kalt</i>	kouler(e)	koulst
bröket カラフルな <i>da. broget</i>	brökeder(e)	bröketst

変化するときには原級と同じ規則に従う。例:

di jarste moon 最初の男; en bäädern woin より良い車; ütusen älste
saan 私たちのいちばん年上の息子

IV. 代 名 詞

1. 人称代名詞

		主格	目的格
単数	1人称	ik	me
	2人称	dü	de
	3人称 男性	hi	ham
	〈訳注 42〉 女性	jü	har
	中性 〈訳注: 有生〉	hat	ham
	中性 〈訳注: 無生〉	dät 〈訳注: et〉	dät 〈訳注: et, refl. ham〉
		〈訳注 43〉	
複数	1人称	we	üs
	2人称	jam	jam
	3人称	ja	jam(ja) 〈訳注: 訳注 48 参照〉
双数	1人称	wat	unk
	2人称	jat	junk

a) Huum as deer? (だれですか) という問いにたいしては次のように答える 〈訳注 44〉。

Dät as me! 私です! *vgl. engl. It's me!* あるいは

Ik ban't! 私です! *vgl. Ich bin's!*

b) hat は名詞が人あるいは動物を表わすときにだけ用いられる。例:

Hü tülj as dät bjarn? Hat as fiw iir. その子供はいくつですか。5才です。

c) 双数の wat と jat は2人の人について用いる〈訳注45〉。例:

Min wüf än ik — wat hääwe fjouer bjarne. 妻と私には子供が4人います。

d) フリジア人〈訳注: モーリング方言の話し手〉は年下か自分と同じ年齢の人にはだれでも dü という。年上の人には名前あるいは Hi/Jü を用いる〈訳注46〉。例:

Wal Taatje me heelpe? おとうさん、手伝ってくれる?

Wal Hi me heelpe? 手伝っていただけますか

Heet Katriin dät äl sänj? カトリーンさんはもうそれをごらんになりましたか

Heet Jü dät äl sänj? 貴女はもうそれをごらんになりましたか

e) ham hööge (喜ぶ *nd. sik högen*), ham tütunj (自分の体を洗う *da. to sig*) などの動詞〈訳注: 再帰動詞〉にはつねに人称代名詞を用いる〈訳注47〉。例:

ik höög me 私はうれしい; hi hööget ham 彼はうれしがっている; jü hööget har 彼女はうれしがっている; ja hööge jam 〈訳注48〉 彼(女)らはうれしがっている

同様に

Dät drait ham. それは回っている〈訳注: draie 回す *drehen*〉

Dät ferstoont ham 〈訳注49〉。それは自明だ〈訳注: ferstönje 理解する *verstehen*〉

(ただし We/Jam/Ja ferstönje enouder 〈訳注50〉。私たち/君たち/彼らは互いに理解し合っている〈訳注: enouder 互いに(相互代名詞) *einander*〉)

f) 人称代名詞には〈訳注: 前接的, enklitisch〉な縮約形のあるものがある〈訳注51〉。

北フリジア語モーリング方言 (1)

単	数	3 人称	男性	hi	—	'r
				ham	—	'n
		女性	jü	—	's	
			har	—	's	
		中性	hat	—	et/'t	
			ham	—	'n	
dât	—		et/'t			
複	数	2 人称	jam	—	'm	
			ja	—	's	
		3 人称	jam	—	's	

この形はおもに人称代名詞が動詞の後、あるいは接続詞、副詞〈訳注：関係副詞や疑問副詞〉、代名詞〈訳注：関係代名詞や疑問代名詞〉の後に来的时候に用いられる。また、*dû* は動詞などの後に来るとしばしば落ちる。例：

Wal'r makaame? 彼はいっしょに来たがっているのか〈訳注：wal←wale ...したい *wollen*〉

Hääst'n sänj? 君は彼に会ったか〈訳注：hääst←heewe 完了形の助動詞 *haben*〉

Koon's ai luupe? 彼女は走れないのか〈訳注：koon←koone ...できる *können*〉

Dât bjarn schrait; heet et ham flicht brând? その子供は泣いている；ひょっとしてやけどでもしたのだろうか〈訳注：heet←heewe 完了形の助動詞 *haben*〉

Wan'm dât for me düünj? 君たちはそれを私のためにしてくれようというのか〈訳注：wan←wale ...したい *wollen*〉

Wan's ai ma? 彼らはいっしょに来たくはないのか〈訳注：wan←wale ...したい *wollen*〉

Ik liiw ai, dât'r kamt. 私は彼が来るとは思わない〈訳注：dât ...ということ *daß*〉

Ik wiitj ai, weer's booget. 私は彼女がどこに住んでいるか知らない〈訳注：weer どこで *wo*〉

Wäät ma? Sü koost kaame. 君はいっしょに来たいのか。だったら来ればいい〈訳注: wäät←wale ...したい *wollen*; koost ← koone ...できる *können*〉

2. 非人称代名詞

非人称代名詞は *dät (da. det)* である〈訳注 52〉。例:

Dät tuit. 雪解けになる〈訳注: *tuit*←*tuie tauen*〉

Dät snait. 雪が降る〈訳注: *snait*←*snaie schneien*〉

Dät rint. 雨が降る〈訳注: *rint*←*reene regnen*〉

Dät luunt ham ai. それはやってもむだだ〈訳注: *luunt*←*luune lohnén*〉

これは *deer (da. der)* としてもいい〈訳注 53〉。例:

Deer wus iinjén en kining. あるとき王様がいた

Deer wårt ferteeld ...(...と) 語られている

Deer wårt säid ...(...と) 言われている

Deer san manschne, wat uler tuhiire. げっして耳を貸そうとしない人たちがいる

3. 所有代名詞

				男性単数	女性/中性/複数
単	数	1人称		<i>man</i>	<i>min</i>
		2人称		<i>dan</i>	<i>din</i>
		3人称	男性	<i>san</i>	<i>sin</i>
			女性	<i>harn</i>	<i>har</i>
			中性	<i>san</i>	<i>sin</i>
複	数	1人称		<i>üüsen</i>	<i>üüs</i>
		2人称		<i>jarnge</i>	<i>jarnge</i>
		3人称		<i>jare</i>	<i>jare</i>
双	数	1人称		<i>unken</i>	<i>unk</i>
		2人称		<i>junken</i>	<i>junk</i>

jarnge と *jare* を除くすべての所有代名詞には二つの形がある。ひとつは

所有代名詞が男性名詞〈訳注：単数〉に付加される（あるいはその代用となる）場合に用いられる。もうひとつは女性，中性，複数で用いられる〈訳注 54〉。

例：

man/dan など brouder		$\left\{ \begin{array}{l} \text{brouderne} \\ \text{süsterne} \\ \text{hüsinge} \end{array} \right.$
私の/君の 兄(弟)		
min/din など süster	min/din など	
私の/君の 姉(妹)	(同 左)	
min/din など hüs		
私の/君の 家		

Dan stölj as meekliker as man. 君のいすは私のよりもすわりごちが
いい

Jarnge stoule san meekliker as tüs. 君たちのいすは私たちのよりもす
わりごちがいい

人を叱責したり，哀れむ場合にも所有代名詞を用いる。例：

Dan grüte slüngel! このでくの棒め！

Din stääkels foomen! かわいそうな女の子！

4. 指示代名詞

定冠詞 (di (*der*) など) にも指示的な意味はあるが，これに -heer (e) ある
いは -deer (e) を付加することもできる〈訳注 55〉。例：

diheere/dideere stölj		$\left\{ \begin{array}{l} \text{stoule} \\ \text{scheewe} \\ \text{bräiwe} \end{array} \right.$
この/あの いす		
jüheer/jüdeer scheew	daheer/dadeer	
この/あの テーブル	〈訳注：daheere/dadeere〉	
dätheer/dätdeer bräif	同 左	
この/あの 手紙		

5. 疑問代名詞

a) 人や物事についてたずねる場合，疑問詞は huum (だれ，非所有格)，
huums (en) (だれの，所有格) 〈訳注：huumsen 男性単数/huums 女性・中
性単数および複数〉，wat (何) である〈訳注 56〉。例：

Huum heet dāt säid? だれがそう言ったのですか

Huum hääst dü spräägen? だれに面会したのですか

Ma huum hääst dü snääked? 君はだれと話したのですか

Huumsen hün heet de ban? 君はだれの犬が君にかみついたのですか

Huums hüs as dāt? これはだれの家ですか — Huums bjarne san dāt? これはだれの子供たちですか

Wat jeeft et tu nächtert? 夕食は何ですか 〈訳注: et jeeft (... が) ある *es gibt*, jeeft←*jeewe geben*〉〈訳注 57〉

b) 人や物事がどのようなものかたずねたい場合, 疑問詞は huk(en) 〈訳注 58〉(どの) 〈訳注: huken 男性単数/huken 女性・中性単数および複数〉, wat for(n) (どの, どのような *was für (ein))*), hū'n (同左) である。例:

Huken hängst hääst dü kääft? 君はどの馬を買ったのですか 〈訳注: hängst 馬, 男性 *da. hest*〉

Wat for'n hängst hääst dü ferkääft? 君はどんな馬を売ったのですか

Huk böörder hääst tu ferkuupen? 君はどんなバターを売っているのですか 〈訳注: bööder バター, 中性 *Butter*〉

Wat for bööder hääst tu ferkuupen? 同上

疑問詞が単独であられる場合は hukenân (どの(ような)人/もの, こと, 男性単数); hukeniinj (同左, 女性・中性単数); hünân (同左, 男性単数), hūniinj (同左, 女性・中性単数) となる。例:

Hukenân (hünân) määst liifst lise? 君はどの(男の)人がいちばん好きですか

c) 驚きを表現したい場合には huk(en)! 〈訳注: huken は男性単数/huk は女性・中性単数および複数〉となる。例:

Huken toot! なんとという騒ぎだ! 〈訳注: toot 騒ぎ, 男性〉

Huk gööl bööder! なんと黄色いバターだろう! 〈訳注: bööder バター, 中性 *Butter*〉

6. 関係代名詞

a) 人〈訳注：有生〉の場合

主格/対格〈訳注：目的格〉	wat 〈訳注 59〉
属格	huums(en) 〈訳注：huumsen 男性単数/huums 女性・中性単数および複数〉
与格〈訳注：前置詞格〉	foon/ma (など)+huum 〈訳注 60〉
	weer ... foon/ma (など) 〈訳注：foon ...について von/ma ...といっしょに mit〉

例：

di moon,	}	wat dāt dānj heet
男の人		(ソノ人が) それをやった
jū wūset,		wat ik sānj hāāw
女の人		私が(ソノ人ヲ) 見た
dāt bjarn,	}	
子供		
da bjarne,	}	wat dāt dānj hāāwe
子供たち		(ソノ人タチガ) をそれをやった
		wat ik sānj hāāw
		私が(ソノ人タチヲ) 見た

di moon, huumsen woin ik liinjd hāāw 私が(ソノ男ノ人ノ) 車を借りた男の人〈訳注：woin 車，男性 *Wagen*〉

jū waas, huums hūs ik kaaft hāāw 私が(ソノ未亡人ノ) 家を買った未亡人〈訳注：hūs 家，中性 *Haus*〉

dāt bjarn, huums ālerne stōrwen san (ソノ子供ノ) 両親が死んだ子供〈訳注：ālerne 両親，複数 *Eltern*〉

da wūste, huums määns tu siie fāāre (ソノ妻タチノ) 夫が航海に出ている妻たち〈訳注：määns 夫，複数 *Männer*←moon *Mann*〉

di dring, wat ik en mārck dānj hāāw 私が(ソノ少年ニ) 1 マルクをあげた少年

di moon, ma huum ik snāāked hāāw 私が(ソノ人ト) 話をした男の人〈訳注：今日では稀な構文〉

(di moon, huum ik ma snâaked hääw) 同上〈訳注：今日ではほとんど用いられない構文〉

Ik kân di mansche ai, weer jam foon snâake 〈訳注 61〉. 私は君たちが(ソノ人ニツイテ) 話をしている人を知らない

b) 物事〈訳注：無生〉の場合

主格/対格〈訳注：目的格〉	wat 〈訳注：前文全体を受ける場合にも用いる〉
属格	weerfoon, weer ... foon 〈訳注 62〉
	〈訳注：foon ...の von〉
与格〈訳注：前置詞格〉	weer ... foon/ma など
	〈訳注：foon ...について von/ma ...といっしょに mit〉

例：

dât hüs, wat deer läit そこにある家

dât hüs, wat ik kâaft hääw 私が買った家

dât hüs, weer ik jü döör foon määged hääw 私が(ソノ家ノ) ドアを作った家〈訳注：原文の dat は誤植〉

Heer as di woin, weer's ma kiimen san. ここに彼(女)らが(ソノ車デ) やってきた車がある〈訳注：'s は人称代名詞 3 人称複数主格 ja の縮約形。

B. IV. 1. f 参照)

7. 不定代名詞

不定代名詞は huum 〈訳注 63〉 (*man, jemand*) 〈訳注：総称的，個別的〉あるいは följik (*man, vgl. Volk*) 〈訳注：総称的〉という。例：

Huum wiitj uler, hū hi dāt miijnt. 彼がそのことをどう思っているのかはまったくわからない〈訳注：huum 総称的 *man*〉

Huum schal ham önj acht naame. 気をつけたほうがいい〈訳注：huum 総称的 *man*〉

Deer as uler huum ine. だれか家にいたためしがない〈訳注：huum 個別的 *jemand*〉

Huum mötj et duch dānj heewe! だれかがそれをやったにちがいない
 〈訳注: huum 個別的 *jemand*〉

Följk säit dāt hi ai fāli wis as. 彼はあまりりこうではないといううわ
 さだ (人は ... と言っている) 〈訳注: följ 総称的 *man*〉

8. その他の代名詞 〈訳注 64〉

a) ark(en) それぞれの 〈訳注: arken 男性単数/ark 女性・中性単数〉;
 arkenân それぞれ 〈訳注: 男性単数〉; arkiinj それぞれ 〈訳注: 女性・中性
 単数〉。例:

arken mansche どの人も 〈訳注: mansche 人間, 男性 *Mensch*〉

ark foomen どの女の子も 〈訳注: foomen 少女, 女性・中性 *wfr. faam*〉

ark hūs 各家 〈訳注: hūs 家, 中性 *Haus*〉

Dāt wiitj arkenân. それはだれでも知っている

中性名詞によっては arks を用いることもある。例:

arks iir 毎年; arks tooch 毎回

b) suk(en) そのような *solch-*, *engl. such* 〈訳注: suken 男性単数/suk
 女性・中性単数および複数〉; sūn 同左 *so ein(e)*; sukenân そのようなもの
solch einer, *engl. such a one* 〈訳注: 男性単数〉; sukeniinj 同左 *solch eine(s)*,
engl. such a one 〈訳注: 女性・中性単数〉; sūnân 同左 *so einer* 〈訳注:
 男性単数〉; sūniinj 同左 *so eine(s)* 〈訳注: 女性・中性単数〉。例:

suken win そのようなワイン 〈訳注: win ワイン, 男性 *Wein*〉

suk brütj そんなパン 〈訳注: brütj パン, 中性 *Broot*〉

sūn moon/wūf/hūs そういう男の人 (夫)/妻/家 〈訳注: moon 男の人 (夫),
 男性 *Mann*; wūf 妻, 女性 *engl. wife*〉

Sukenân/Sūnân wal ik ninte ma tu douen heewe. そんな人とは私は
 かかわりあいたくない

c) nân どんな ... も (...ない) *kein*, *engl. no* 〈訳注: 男性単数〉; niinj ど
 んな... も (...ない) *kein(e)*, *engl. no* 〈訳注: 女性・中性単数および複数, 訳
 注 15 参照〉; niimen だれも (...ない) *niemand*。例:

nân saldoot どの兵士も (...ない) 〈訳注: saldoot 兵士, 男性 *Soldat*〉
 niinj scheew どのテーブルも (...ない) 〈訳注: scheew テーブル, 女性
vgl. Scheibe〉

niinj hūs どの家も (...ない) 〈訳注: hūs 家, 中性 *Haus*〉

niinj böke どの本も (...ない) 〈訳注: böke 本, 複数←bök *Buch*〉

Niimen koon ham wat liire だれも彼に何かを教えられない

nāane mansche は「だれも (...ない) *kein Mensch*」の意味 〈訳注: nāane
 はこの表現でしか用いられない〉

d) āal すべての *all-* 〈訳注: 3 性共通単数〉; āle 同左 *alle* 〈訳注: 複
 数〉; āles すべての物(事) *alles* 〈訳注: 中性単数独立用法〉; āltumāāle す
 べて, いっしょに *allzumal* 〈訳注: 副詞〉。例:

Āal man goue win as spülen. 私の上等のワインは全部こぼれてしまっ
 た 〈訳注: win ワイン, 男性 *Wein*〉

Āal sin schäip san dränged. 彼の羊はすべて追い立てられた 〈訳注:
schäip 羊, 複数←schäip *Schaf*〉

Āal dāt giilj heet'r ferspaaled. 有り金すべてを彼はすってしまった 〈訳
 注: giilj お金, 中性 *Geld*〉

Āle manschne mōnje stārwe. 人間は皆, 死すべきものである。〈訳注:
manschne 人間, 複数←mansche *Mensch*〉

Dāt as āles, wat ik hāāw. これが私のもっているすべてだ

We san āltumāāle seenere. 私たちは皆, 罪人である

e) hu 若干(の); sam 同左 *engl. some*。例:

Ik hāāw hu spārie schin, ouers sam wjarn nuch ai dütüdj, as ik's
 apsoomeld. 私はすずめを何羽か撃った。しかし, 集めたときには何羽かは
 まだ死んでいなかった

f) foole 多くの *viel*; maning 同左 *manch, engl. many*; maningenān
 多く, 大勢 *manch einer* 〈訳注: 男性単数〉; maningiinj 同左 *manch eine(s)*
 〈訳注: 女性・中性単数〉。例:

Ik hāāw foole giilj ütjänj. 私は多額の金を使った 〈訳注: giilj お金,

中性 *Geld*〉

Hû foole? — Sû foole. どのくらい多くですか — このくらい多くです

Hi heet maning bôke lâasen. 彼は本を何冊も読んだ 〈訳注: bôke 本, 複数←bôk *Buch*〉

Hû maning bjarne hääst? 君は何人子供がいるか 〈訳注: bjarne 子供, 複数←bjarn *da. barn*〉

Maningenân miinj wuner, wat'r as. うぬぼれている人間はかなりいる
〈訳注: miijnt wuner うぬぼれている *meint, wonder(s)*〉

V. 数 詞

1. 基数

- | | |
|--|--|
| 1 iinj 〈訳注: 女性・中性, 単独〉 〈訳注 65〉, ân 〈訳注: 男性〉 | |
| 2 tou 〈訳注: 女性・中性, 単独〉, twäär 〈訳注: 男性〉, twane (<i>zu</i>) <i>zweit, vgl. da. tvende</i> 〈訳注 66〉 | |
| 3 trii 〈訳注: 女性・中性, 単独〉, tra 〈訳注: 男性〉, trane (<i>zu</i>) <i>dritt, vgl. da. trende</i> | |
| 4 fjouer | 18 oochtäin |
| 5 fier | 19 nütgentäin |
| 6 seeks | 20 twunti |
| 7 soowen | 30 dorti/dörti 〈訳注: 後者が一般的〉
〈訳注 67〉 |
| 8 oocht | 40 fäärti/fjarti 〈訳注: 前者が一般的〉 |
| 9 nütügen | 50 fünfti |
| 10 tiin | 60 süsti |
| 11 alwen | 70 sööwenti |
| 12 tweelew/tweelwen 〈訳注: 後者が一般的〉 | |
| 13 tratain | 80 tachenti <i>wfr. tachtich, ndl. tachtig</i> |
| 14 fjouertäin | 90 näägenti |
| 15 fünftäin | 100 hunert |
| 16 seekstäin | 1000 duusend |
| 17 soowentäin | 1000000 miljoon |

1 から 3 までの数には, 修飾を受ける語が男性のときに特別の形がある。

例:

ān moon 男 1 人, 男性 — iinj wūset 女 1 人, 女性; iinj bjarn 子供 1 人, 中性

twäär määns 男 2 人 — tou wūste 女 2 人; tou bjarne 子供 2 人

tra määns 男 3 人 — trii wūste 女 3 人, trii bjarne 子供 3 人

(ただし, di iine moon 1 人(片方)の男, jū iin wūset 1 人(片方)の女, dāt iin bjarn 〈訳注 68〉1 人(片方)の子供)

twane と trane は人について 〈訳注: 2 人で, 3 人で, という場合〉のみ用いられる。例:

Ja wjarn mǎn ma en twane, trane kiimen, wat wǎnj ja wǎlj ūtruchte?
彼(女)らはたった 2, 3 人でやって来たが, いったい何をするつもりなのだろう 〈訳注: *ndl. met z'n tweeën, drieën*)

1978 年: nütigentāinhunert (ān) oochtānsööwenti *neunzehnhundert-achtundsiebzig*

2. 序 数

- | | |
|---|-------------------|
| 1. di jarste | 7. di soowente |
| 2. di läädere <i>vgl. engl. the latter</i> 〈訳注: 一般的に「第二の」の意〉, <i>oudre der andere</i> | 8. di oochte |
| 〈訳注: 二者択一の場合〉, <i>tweed der tweede</i> | 9. di nüügente |
| 〈訳注: 「次の」の意〉 | 10. di tiinte |
| 3. di treede | 11. di alwte |
| 4. di fiirde | 12. di tweelewte |
| 5. di fünfte | 13. di tratāinste |
| 6. di seekste/süste 〈訳注: 前者が一般的〉 | 以下 ... ste |

序数詞は形容詞と同じ変化をする。例:

di jarste (dāi) ōnj e moune 月の最初の日 〈訳注: dāi 日, 男性 *Tag*)

en ouden een 次の晩 〈訳注: een 晩, 男性 *wfr. jūn*)

jū treed doochter 三番目の娘 〈訳注: doochter 娘, 女性 *Tochter*)

dāt ouden hūs aw e leeft sid 左側の二番目の家 〈訳注: hūs 家, 中性 *Haus*, 原文の ouer は oulder の誤植)

物事を数えあげるときには次のようにいう：

1. fort jarst 第一に 〈訳注：fort←for+dât〉
2. fort ouder 第二に
3. fort treed 第三に，など

3. 分 数

- 1/2 en huulew *ein Halb*
 1/3 en treedepårt *engl. a third part* (以下同様), en treedendiilj *ein Drittel*
 en treesing
 1/4 en firdepårt, en firdendiilj, en fiirding
 1/8 en oochtepårt, en oochtendiilj
 1 1/2 ouderhalwen *anderthalb*
 2 1/2 treedhalwen *vgl. zweieinhalb*
 3 1/2 firdhalwen *vgl. dreieinhalb*

4. 数 副 詞

hü oofting? (どのくらい頻繁に)/hü maning tooch? (何回)，という問いには次のように答える。

iinjsen 〈訳注 69〉 (iinj tooch) 1回 *engl. once, vgl. einmal* 〈訳注：tooch 回，中性〉

twaie (tou tooche) 2回 *engl. twice, vgl. zweimal*

traie (trii tooche) 3回 *engl. thrice, vgl. dreimal*

fjouer tooche 4回 *vgl. viermal* など

また，

änkelt 1倍 *da. enkelt*

dööwelt 2倍 *da. dobbelt*

trööwelt 3倍 *da. tredobbelt*

VI. 動 詞

1. 弱変化動詞

弱変化動詞は過去形で -(e)d をとるものをいう。例：

能動態 〈訳注 70〉	不定詞	frååge たずねる <i>fragen</i> 〈訳注: 第1不定詞〉—tu <u>fråågen</u> 〈訳注 71〉 zu <i>fragen</i> 〈訳注: 第2不定詞〉
	命令形	frååg !
	現在形	ik <u>frååg</u> dū <u>fråågest</u> hi/jū/hat <u>frååget</u> we/wat } jam/jat } <u>frååge</u> 〈訳注 72〉 ja }
	過去形	ik <u>frååged</u> dū <u>fråågedst</u> hi/jū/hat <u>frååged</u> we/wat } jam/jat } <u>fråågeden</u> ja }
	現在分詞	<u>fråågen</u> (d)
	過去分詞	<u>frååged</u>
	現在完了形	ik hääw <u>frååged</u> など 〈訳注: hääw <i>habe</i> ← <i>heewe haben</i> 〉
	過去完了形	ik hāi <u>frååged</u> など 〈訳注: hāi <i>hatte</i> ← <i>heewe haben</i> 〉
	未来形 I 〈訳注 73〉	ik wārd <u>frååge</u> など 〈訳注: wārd <i>werde</i> ← <i>wārde werden</i> 〉
	未来形 II	ik wārd <u>frååged</u> <i>heewe</i> など
	条件形 I 〈訳注 74〉	ik wōrd/wālj <u>frååge</u> など 〈訳注: wōrd <i>würde</i> ← <i>wārde werden</i> ; wālj <i>wollte</i> ← <i>wale wollen</i> 〉
	条件形 II	ik wōrd/wālj <u>frååged</u> <i>heewe</i> など
受動態	不定詞	<u>frååged</u> wārde 〈訳注: wārde <i>werden</i> 〉
	現在形	ik wārd <u>frååged</u> など 〈訳注: wārd <i>werde</i> ← <i>wārde werden</i> 〉
	過去形	ik wōrd <u>frååged</u> など 〈訳注: wōrd <i>wurde</i> ← <i>wārde werden</i> 〉
	現在完了形	ik ban <u>frååged</u> wōrden など 〈訳注: ban <i>bin</i> ← <i>weese sein</i> 〉
	など	

a) -ie, -le, -me, -ne 〈訳注 75〉, -re, -we で終わる語, または -e が複母音に続く語では, 変化のさいに -e が落ちる。例:

fúlie 続く, 従う *folgen* — *fúlit folgt* 以下同様 — *fúlid folgte, gefolgt*
以下同様

teele 数える <i>zählen</i>	— <i>teelt</i>	— <i>teeld</i>
bjarsele ブラシをかける <i>bürsten</i>	— <i>bjarselt</i>	— <i>bjarseld</i>
klâme はさむ <i>klemmen</i>	— <i>klâmt</i>	— <i>klâmd</i>
stâmere もどる <i>stammeln</i>	— <i>stâmert</i>	— <i>stâmerd</i>
kâne 知っている <i>kennen</i>	— <i>kânt</i>	— <i>kând</i>
hiire 聞く <i>hören</i>	— <i>hiirt</i>	— <i>hiird</i>
täiwe 待つ <i>nd. töven</i>	— <i>täiwt</i> 〈訳注 76〉	— <i>täiwd</i>
daie 栄える, 成長する <i>nd. diegen</i>	— <i>dait</i>	— <i>daid</i>
braue (ビール) を醸造する <i>brauen</i>	— <i>braut</i>	— <i>braud</i>
roue 休む <i>ruhen</i>	— <i>rout</i>	— <i>roud</i>
tuie 雪解けになる <i>tauen</i>	— <i>tuit</i>	— <i>tuid</i>

b) -me あるいは -ne が子音 (r 以外) に続く語では, -em- あるいは -en- となることがある 〈訳注 77〉。例:

bloosme 花が咲く <i>da. blomstre</i>	— <i>bloosemt</i>	— <i>bloosemd</i>
gââsme あくびをする <i>gähnen</i>	— <i>gââsemt</i>	— <i>gââsemd</i>
räägne 計算する <i>da. regne</i>	— <i>räägent</i>	— <i>räägend</i>
sikne ため息をつく <i>da. sukke</i>	— <i>sikent</i>	— <i>sikend</i>
ただし		
wiirme 暖める <i>wärmen</i>	— <i>wiirmt</i>	— <i>wiirmd</i>

c) 正書法の原則では, 現在形は -(e)t とつづり, 過去形と過去分詞は -(e)d とつづる 〈訳注 78〉。例:

frââge たずねる <i>fragen</i>	— <i>frââget</i>	— <i>frââged</i>
fúlie 続く, 従う <i>folgen</i>	— <i>fúlit</i>	— <i>fúlid</i>
kâne 知っている <i>kennen</i>	— <i>kânt</i>	— <i>kând</i>

d) 上記の規則に従って変化しない弱変化動詞はすべて巻末の強変化動詞一覧表に含めて記載してある。

2. 強変化動詞

強変化動詞とは過去形で母音が交替するものをいう。次の例で下線の引き

である四つないし五つの形がわかれば、変化させることができる〈訳注 79〉。

例：

能動態不定詞 siinj 見る *sehen* 〈訳注：第 1 不定詞〉

— tu siien 〈訳注 80〉 zu *sehen* 〈訳注：第 2 不定詞〉

命令形 *sii!* 〈訳注 81〉

現在形 *ik sii*

dü schuchst

hi/jü/hat schucht 〈訳注 82〉

we/wat
jam/jat } *siie*
ja }

過去形 *ik säch*

dü sächst

hi/jü/hat säch 〈訳注 83〉

we/wat
jam/jat } *sächen*
ja }

現在分詞 *siien(d)*

過去分詞 *sänj* 〈訳注 84〉

現在完了形 *ik hääw sänj* など

過去完了形 *ik häi sänj* など

未来形 I *ik wärd siinj* など

未来形 II *ik wärd sänj heewe* など

条件形 I *ik wörd/wälj siinj* など

条件形 II *ik wörd/wälj sänj heewe* など

受動態不定詞 *sänj wärde*

現在形 *ik wärd sänj* など

過去形 *ik wörd sänj* など

現在完了形 *ik ban sänj wörden* など

など

3. 不 定 詞

a) 動詞には三つの不定詞がある：1) -e で終わるもの〈訳注：以下，第 1 不定詞と呼ぶ〉，2) -(e)n で終わるもの〈訳注：以下，第 2 不定詞と呼ぶ〉，

3) 語尾のつかないもの〈訳注：以下、第3不定詞と呼ぶ〉。例：

第1不定詞	第2不定詞	第3不定詞
frââge たずねる <i>fragen</i>	— frââgen —	frââg
wunere 不思議がらせる <i>wundern</i>	— wunern —	wuner

b) 第1不定詞が特別な形になる動詞がいくつかある。例：〈訳注：第1不定詞(第2不定詞)の順〉

siinj (sien) 見る *sehen*; fütunj (fouen) 得る *da. fâ, vgl. fangen*; tütunj (touen) 洗う *da. to* など

c) 第1不定詞は次の動詞の後で用いられる：

döre あえて...する *engl. dare; wârde ...だろう werden (wird/würde)*;
koone ...できる *können*; lätje ...させる *lassen*; mooge 好む *mögen*;
mötje ...しなければならない *müssen*, ...していい; schale ...するべきだ
sollen; töre (否定で)...する必要はない, (bloot(s) *bloß/mân* とともに) ...し
さえすればいい; wale ...したい *wollen* 〈訳注：原文の *kaame* は誤植と思
われる〉

Ik dör et ai wooge. 私はあえてそれをやろうとは思わない

Dü koost ninte fütunj. 君は何ももらえない 〈訳注：koost←koone〉

Lätj de heer ai wider siinj! 二度とここに姿をあらわすな!

Mäist me lise? 君はぼくのが好きなのか 〈訳注：mäist←mooge;
lise *leiden*〉

Mötj ik dat bök liene? この本をお借りしていいですか 〈訳注：mötj←
mötje〉

Hi schal ham tütunj. 彼は体を洗わなければならない 〈訳注：schal←
schale〉

Dü törst as wider kaame. 君は戻ってこなくてもいい 〈訳注：törst←
töre〉

We wan tuhüs kääre. 私たちは家に帰りたい 〈訳注：wan←wale〉

Ja wârde jam wunere. 彼らは不思議に思うだろう

d) 第2不定詞は単独であられるとき〈訳注 85〉, または *tu (zu)* および動詞 *bliwe (bleiben)*, *heewe (haben)*, *hiire (hören)*, *siinj (sehen)*, *kaame (kommen)* の後に来るときに用いられる。例:

Douen än fouen hiire tuhuupe. もちつもたれつ 〈訳注: *douen*←*dütünj* やる *nd. doon*, *vgl. tun*; *fouen*←*fütünj* もらう *da. få*, *vgl. fangen*; *hiire tuhuupe* 互いに関係がある *gehören zusammen*)

Heer as ninte tu häälen. ここでは何もできない 〈訳注: *as ist*←*weese sein*; *häälen*←*hääle* もって来る, 到達する *holen*)

Ik bliw saten. 私はすわったままにいる 〈訳注: *saten*←*sate* すわっている *sitzen*)

Dü hääst gödj snääken. 君は何とでも言える 〈訳注: *hääst hast*←*heewe haben*; *snääken*←*snääke* 言う *nd. snacken*)

Ik hiir ham lááken. 私には彼が笑うのが聞こえる 〈訳注: *lááken*←*lááke* 笑う *lachen*)

Schuchst ham ráánen? 君には彼が走っているのが見えるか 〈訳注: *schuchst siehst (du)*←*siinj* 見る *sehen*; *ráánen*←*rááne* 走る *rennen*)

Jü kamt luupen. 〈訳注 86〉 彼女は走って来る 〈訳注: *kamt kommt*←*kaame* 来る *kommen*)

e) 第3不定詞は“*tu*+第2不定詞”のかわりに *än* の後で用いられる〈訳注 87〉例:

Dät as nint $\begin{cases} \text{än láák ätj.} \\ \text{ätj tu lááken.} \end{cases}$

これは笑いごとではない 〈訳注: *lááke-lááken-láák* 笑う *lachen*)

Dät as ai lächt $\begin{cases} \text{än fou e döör ääm} \\ \text{e döör ääm tu fouen} \end{cases}$

そのドアをあけるのは容易ではない 〈訳注: *fütünj-fouen-fou da. få*, *vgl. fangen*)

4. 助 動 詞

a) weese sein <訳注: 命令形 wees!> <訳注 88>

現在形	ik ban	過去形	ik wus
	dü bast		dü wjarst
	hi/jü/hat/dât as		hi/jü/hat/dât wus
	we/wat		we/wat
	jam/jat		jam/jat
	ja		ja
	} san		} wjarn

現在完了形 ik hääw wään (ik ban wään) <訳注 89> など

過去完了形 ik häi wään (ik wus wään) など

など

b) heewe haben <訳注: 命令形 heew!> <訳注 90>

現在形	ik hääw	過去形	ik häi
	dü hääst		dü häist
	hi/jü/hat/dât heet		hi/jü/hat/dât häi
	we/wat		we/wat
	jam/jat		jam/jat
	ja		ja
	} hääwe		} häin

現在完了形 ik hääw hädj など

過去完了形 ik häi hädj など

など

c) wärde werden <訳注: 命令形 wärd!> <訳注 91>

現在形	ik wärd	過去形	ik wörd
	dü wärst		dü wördst
	hi/jü/hat/dât wärt		hi/jü/hat/dât wörd
	we/wat		we/wat
	jam/jat		jam/jat
	ja		ja
	} wärde		} wörden

現在完了形 ik ban wörden など

過去完了形 ik wus wörden など

など

その他の助動詞, すなわち koone, mooge, mötje 等は巻末の強変化動詞の一覧表に記載してある。

5. 不規則な変化をする強変化（および弱変化）動詞一覧表

a) 現在形 3 人称単数で母音（二重母音を除く）の直後に -t がある場合、その -t は二人称〈訳注：単数〉でも保たれる。例：

hi treet 彼は歩く〈訳注：treet←treese 歩く，進む *treten*〉 — dü treetst
君は歩く

hi schüt 彼は撃つ〈訳注：schüt←schütje 撃つ *schießen*〉 — dü schütst
ただし，hi säit 彼は言う〈訳注：säit←seede 言う *sagen*〉 — dü säist
君は言う

b) 3 人称の形が -st で終わる場合は 2 人称も同形である。例：

hi last 彼は苦しんでいる〈訳注：last←lise 苦しむ *leiden*〉 — dü last
君は苦しんでいる

hi mast 彼は撃ちそこねる〈訳注：mast←mase 撃ちそこねる〉 dü mast
君は撃ちそこねる

c) 上記のほかに変化をする場合はその旨を付記する。複合動詞は一覧表には記載していない。以下，アルファベット順に一覧表を示す〈訳注 92〉。

(第 1/第 2) 不定詞	現在形	過去形	過去分詞
ääse	eet	ätj	in
食べる <i>essen</i>			
bååge	bååget	bök	båågen
(パンなどを) 焼く <i>backen</i>		(bååged)	(bååged)
bade	badet	bäid	bin
たのむ <i>bitten</i>			
bärje	bärcht	bürch	bürgen
救い出す <i>bergen</i> , 収穫する			
beere	bjart	bjard	bjard
運ぶ <i>da. bære</i> ; (貯金) をおろす			
befäüle	befeelt	befälj	befeelen
命令する <i>befehlen</i>			

北フリジア語モーリング方言 (1)

begeere	begjart	begjard	begjard
欲しがる <i>begehren</i>			
bereese	bereet	bereet	bereet
整える, 用意する <i>bereiten</i>			
biidje	bût	büüdj	bin
提供する <i>bieten</i>			
bine	bant	bün	bünen
結ぶ, 巻く <i>binden</i>			
bite	bat	biitj	ban
噛む <i>beißen</i>			
bjarste	bjarst	burst	bursten
破裂する <i>bersten</i>			
blädje	bleet	bleet	bleet
出血する <i>bluten</i>			
bliwe	blaft	bliif	blaawen
とどまる <i>bleiben</i>			
brädje	breet	breet	breet
卵を暖める <i>brüten</i>			
breege	breecht	bräk	bräägen
折る, こわす <i>brechen</i>			
briidje	brâât	brâât	brâât
広げる <i>breiten</i>			
bringe	brängt	broocht	broocht
持っていく <i>bringen</i>			
diile	diiljt	diiljd	diiljd
分ける <i>teilen</i>			
diirwe	diirft	dörw	dörwen
窮乏する <i>darben</i>			
dooge	ducht	duuch	däägen

役に立つ *taugen*

döre dört duurst duurst

あえて...する *engl. dare*

dränke dränkt drunk drunken

飲む *trinken*

dränke dränkt drängd drängd

おぼれる, おぼれさせる *da. drukne*

dreege dreecht drouch dräagen

運ぶ *tragen*

〈訳注: dringe drängt drängd drängd〉

突き進む *dringen*

driwe draft driif draawen

追い立てる *treiben*

dütin/douen 〈訳注: 1. dou〉 däi dänj

やる (する, 与える) 2. dääst *pl. dän*

nd. doon, vgl. tun 3. deet

〈訳注: *pl. doue*〉

fääre fjart fjard fjard

連れて行く, 導く *führen*

fääre fårt fård fård

行く, すばやく動く *fahren* (foor) (fåaren)

fädje feet feet feet

養う, 育てる *engl. feed, vgl. füttern*

fåle fält feel feelen

落ちる *fallen*

fårke färkt fürk fürken

(干し草) を熊手で持ちあげる *engl. fork*

fergölje (fergeele) fergeelt fergeeld fergeeld

金メッキをする *vergolden*

北フリジア語モーリング方言 (1)

ferjeese	ferjeet	ferjätj	ferjin
忘れる <i>vergeffen</i>			
ferliise	ferlúst	ferlütüs	ferlääsen
失う <i>verlieren. nd. verlesen</i>			
fertriitje	fertrüt	fertrütj	fertrin
不愉快な気分にする <i>verdrießen</i>			
fine	fant	fün	fünen
見つける <i>finden</i>			
fleete	fleetet	fleet	fleet
動かす, 引越す <i>da. flytte</i>			
fliinj/fliien	flucht	fluuch	fläägen
飛ぶ <i>fliegen</i>			
fliitje	flüt	flütj	flin
流れる <i>fließen</i>			
fniise	fnüst	fnütüs	fnääsen
くしゃみをする <i>niesen, vgl da. fnyse</i>			
	(fniiset)	(fniised)	(fniised)
freese	freet	frätj	frin
がつつ食べる, (動物が) 食べる <i>fressen</i>			
friise	früst	frütüs	frääsen
こごえる <i>frieren, nd. fresen</i>			
fütünj/fouen	〈訳注: 1. fou	füng	fünge
得る <i>da. få,</i>	2. fäist〉		
<i>vgl. fangen</i>	3. fäit		
	〈訳注: <i>pl. foue</i> 〉		
giitje	güt	gütj	gin
注ぐ <i>gießen</i>			
glide	glat	gliidj	glan
すべる <i>gleiten</i>			

gnise	gnast	gniis	gnaasen
こする <i>da. gnide</i>			
graie	grait	graid	graid
(草や毛などが) 茂る, のびる <i>engl. grow</i>			(gränj)
greewe	greeft	grouf	grääwen
掘る <i>graben</i>			
gripe	grapt	griip	gram
つかむ <i>greifen</i>			
grüne	grünt	grün(d)	grünen
(穀粒を) ひく, 製粉する <i>engl. grind</i>			
gunge	gungt	ging	gingen
行く <i>gehen, isl. ganga</i>			
haue	haut	houf	houen
なぐる, たたく <i>hauen</i>		(haud)	(haud)
heele	heelt	hälj	heelen
隠す <i>hehlen</i>			
heelpe	heelpt	hülp	hülpen
助ける <i>helfen</i>			
〈訳注: heewe 前出 B. VI. 4. b 参照〉			
hiinje	hânt	hând	hând
起こる <i>da. hænde</i>			
hiitje	hât	hätj	hätjen
(‘heißen’) ...という名である, 命令する			
hiitje	hiit	hiit	hiit
(‘heizen’) 暖房する, 熱する			
hinge	hångt	hångd	hångd
掛ける <i>hängen</i>			
hunge	hungt	hüng	hüngen
掛かっている <i>hängen</i>			

北フリジア語モーリング方言 (1)

hüülje	hålt	hül	hülen
保つ <i>halten</i>			
iinje	ânt	ând	ând
終わる, 終える <i>enden</i>			
iirwe (ârwe)	ârewt	ârewd	ârewd
受け継ぐ <i>erben</i>			
jeewe	jeeft	jäif	jääwen
(家畜にえさを) やる, (トランプのカードを切って) 配る; et jeeft 存在する <i>vgl. es gibt</i>			
jooge <訳注 93>	jucht	luuch	läägen
うそをつく <i>lügen</i>			
kaame <訳注 94>	1. kam	köm	kiimen
来る <i>kommen</i>	<訳注: 命令形 kam!>		
<i>ndl. komen</i>	<訳注: 2. kamst>		
	3. kamt		
	<訳注: pl. kaame>		
kääre	kjart	kjard	kjard
(車で) 行く <i>da. køre. vgl. kehren</i>			
kiime	kāmt	kāmd	kāmd
(髪を) とかす <i>kämmen</i>			
klinge	klāngt	klāngd	klāngd
鳴る <i>klingen</i>			
kneese	kneet	knätj.	knin
練る <i>kneten</i>	(kneeset)	(kneesed)	
kneete	kneet	kneet	kneet
結ぶ <i>knoten</i>	(kneetet)	(kneeted)	(kneeted)
knipe	knāpt	knijp	knim
つねる, つまむ <i>kneifen</i>			
koone	<訳注: 1. koon>	köö	kööt

...できる *können*

2. koost *pl. kōōn*

3. koon

〈訳注: *pl. koone*〉

kriipe

krüpt

kruup

krim

はう *engl. creep, vgl. kriechen*

kringe

krångt

krångd

krångd

押しこむ

krumpe

krumpt

krümp

krumpen

縮む, 身をかがめる *krumpfen, krümmen*

kuupe

kååft

kååft

kååft

買う *kaufen*

lade

lait (*läit*)

läi

läin

横たわっている *liegen, engl. lie*

pl. läin

lätje

leet

leet

leet

...させる *lassen*, (気持ち)を 静める, ...のように見える

leede

läit

läid

läid

横たえる *legen, engl. lay*

leefte

leeft

lüft

lüften

持ちあげる *da. løfte, vgl. lüften*

(leefted)

(leefted)

leese

leest

löis

lääsen

集める, 読む *lesen*; 積む *laden*

liine

liinjt

liinj

liinj

貸す, 借りる *leihen*

linge

långt

långd

långd

手をのばす, 届く *langen*

lise

last

liis

laasen

苦しむ, 耐える *leiden*

luupe

låpt

lüp

lim

走る, 歩く *laufen*

北フリジア語モーリング方言 (1)

mätje	meet	meet	meet
会う, 当たる <i>da. mēde, engl. meet</i> ; 測る <i>messen</i>			
meere	mjart	mjard	mjard
増やす <i>ver-mehren</i>			
miine	〈訳注: 1. miinj	miinjd	miinjd
思う <i>meinen</i>	2. miinjst〉		
	3. miinjt		
	〈訳注: <i>pl. miine</i> 〉		
〈訳注: <i>miise</i> 避ける <i>meiden</i>	mast	maasd	maasen〉
minge	māngt	māngd	māngd
混ぜる <i>mengen</i> ; ためらう			
mooge	1. mǎi	māā	māāt
好む <i>mögen</i>	2. mǎäst	<i>pl. mǎān</i>	
	3. mǎi		
	〈訳注: <i>pl. mooge</i> 〉		
mötje	〈訳注: 1. mötj〉	moost	〈訳注 95〉 moost
...しなければならない	2. möist	〈訳注: <i>pl. moosten</i> 〉	
<i>müssen</i> ; ...していい	3. mötj		
	<i>pl. mönje</i>		
naame	1. nam	nūm	nūmen
	〈訳注: 命令形 <i>nam!</i> 〉		
取る <i>nehmen</i> ; 理解する	〈訳注: 2. namst〉		
	3. namt		
	〈訳注: <i>pl. naame</i> 〉		
neere	njart	njard	njard
養う, 育てる <i>nähren</i>			
niitje	nütt	nütütj	nin
享受する, 楽しむ <i>ge-nießen, da. nyde</i>			
önjstringe	strāngt önj	strāngd önj	önjstrāngd

priis prääsen

(prised) (prised)

rånd rånd

jard · · · · · jard

reet reet

$$\text{rind} \quad \text{rind} \rangle$$

riidj ran

rängd rängd

rångd rångd>

riif . . . raawen

soocht soocht

(seecht) (seecht)

sunk ···· sunken

sätj sin

schuf schääm>

1. schölj> schöljt

2. schöist 1. schöist

北フリジア語モーリング方言 (1)

<i>sollen</i> ; ...だろう	3. schal	3. schölj	
<i>engl. shall</i>	<i>pl.</i> schan	<i>pl.</i> schönj	
scheelwe	scheelewt	schülw	schülwen
震える <i>da. skælvē</i>			
〈訳注: scheene	shiint	schind	schind〉
光る, ... らしく見える <i>scheinen</i>			
scheere	skjart	skjard	skjard
(ナイフで) 切る, 刈る <i>da. skære, vgl. scheren</i>			
schiiinj/schaien	schait	schaïd	schaïd
起こる <i>ge-schehen</i>	〈訳注: <i>pl.</i> schaie〉		(schänj)
schiiinje	schânt	schând	schând
汚す <i>schänden</i>			
schiiise	schât	schiiitj	schââs
離す <i>scheiden</i>			
schiiitje	schüt	schüütj	schin
撃つ <i>schießen</i>			
schite	schat	schiiitj	schan
うんこをする <i>scheißen</i>			
schride	schrat	schriidj	schran
ゆったりと歩く, 進む <i>schreiten</i>			
schriwe	schract	schriif	schraawen
書く <i>schreiben</i>			
schrumpe	schrumpet	schrump	schrumpen
縮む, しなびる <i>schrumpfen</i>			
schunge	schungt	süng	süngen
歌う <i>singen</i>			
schüwe	schüft	schuuf	schääwen
押す <i>schieben, nd. schuven</i>			
seede	〈訳注: 1. seed〉	sää	säid

言う *sagen*,
wfr. sizze

2. säist *pl. sään*
3. säit

〈訳注: *pl. seede*〉

〈訳注: *seete* *seet* *seet* *seet*〉

置く, すわらせる *setzen*

siinj/siien 〈訳注: 1. *sii* *said* *said*
(‘säen’) 種をまく 2. *saist* (*sänj*)
3. *sait*

〈訳注: *pl. siie*〉

siinj/siien 〈訳注: 1. *sii* *säch* *sänj*
(‘sehen’) 見る 2. *schuchst*
3. *schucht*

〈訳注: *pl. siie*〉

siinje *sânt* *sând* *sând*

送る *senden*

släipe *sleapt* *släip* *släipen*

眠る *schlafen*

slänke *slänkt* *slunk* *slunken*

飲みこむ *schlingen*

slide *slat* *sliidj* *slan*

滑る *engl. slide*

slinge *slängt* *slängd* *slängd*

巻きつける *schlingen*

slipe *slapt* *sliip* *slim*

研ぐ *schleifen*

slite *slat* *sliitj* *slan*

(‘schleiben’) 失う, むしる

slite *slüt* *slüütj* *slin*

(‘schließen’) 閉じる, 終える

北フリジア語モーリング方言 (1)

slütjnj/slouen	sloit	slouf	sloin
たたく, 打つ <i>schlagen</i>			
smeere	smjart	smjard	smjard
塗る <i>schmieren</i>			
smite	smat	smiitj	sman
投げる <i>schmeißen</i>			
smulte	smultet	smult	smulten
溶ける, 溶かす <i>schmelzen</i>		(smulted)	(smulted)
snätje	sneet	sneet	sneet
鼻をかむ <i>schneuzen</i>			
snise	snast	sniis	snaasen
切る <i>schneiden</i>			
snüwe	snüft	snuuf	snääwen
荒い鼻息をたてる <i>schnauben</i>			
spane	spant	spun	spunen
(糸を) 紡ぐ <i>spinnen</i>			
spile	spalt	spül	spülen
こぼす, こぼれる <i>da. spilde, engl. spill</i>			
splitte	splat	spliitj	splan
割れる, 裂ける <i>nd. splieten, engl. split, vgl. spalten</i>			
spränke	spränkt	sprängd	spränged
(水を) まく, 注ぐ <i>(be-) sprengen</i>			
spreege	spreecht	spräk	spräägen
話す <i>sprechen</i>			
spriidje	sprâat	sprâat	sprâat
まき散らす <i>da. sprede, vgl. spreizen</i>			
springe	sprängt	sprüng	sprüngen
はねる <i>springen</i>			
stärwe	steerft	störw	störwen

死ぬ <i>sterben</i>			
steege	steecht	stāk	stäägen
(‘stechen’) 刺す			
steege	steecht	stāich	stäägen
(‘steigen’) のぼる, おりる			
steele	steelt	stälj	steelen
盗む <i>stehlen</i>			
stiitje	stāāt	stāāt	stāāt
突く <i>stoßen</i>			
stjunke	stjunkt	stünk	stünken
臭い <i>stinken</i>			
stönje	stoont	stöō	stiinjen
立っている <i>stehen</i>		pl. stöön	
stride	strat	striidj	stran
争う <i>streiten</i>			
strike	strakt	striik	sträägen
なでる, 研ぐ <i>streichen</i>			
stüwe	stüft	stuuf	stääwen
飛び散る <i>stieben</i>			
süpe	süpt	suup	sim
がぶがぶ飲む, (動物が) 飲む <i>saufen</i>			
sweege	sweecht	swouch	swäägen
だまる <i>schweigen</i>		(swäich)	
sweere	swjart	swjard	swjard
誓う <i>schwören</i>			(swjarn)
swine	swant	swün	swünen
消える, 弱まる <i>schwinden</i>			
〈訳注: swinge	swängt	swüng	swüngen〉
ゆする, 振り動かす <i>schwingen</i>			

北フリジア語モーリング方言 (1)

swise	swast	swiis	swaasen
焦がす <i>da. svide</i>			
tânke	tânkt	toocht	toocht
考える <i>denken</i>			
tântje	tânjt	toocht	toocht
思われる <i>dûnken</i>			
teere	tjart	tjard	tjard
弱める, 食いつくす <i>zehren</i>			
tiinj/tiien	tjucht	tuuch	täägen
引く <i>ziehen</i>			
tiinje	tânt	tând	tând
(火が)つく, (火を)つける <i>zûnden</i>			
tiitje	tjûtt	tûttj	tin
泣きわめく <i>da. tude</i>			
tjarsche	tjarscht	tursch	turschen
打穀する <i>dreschen</i>			
töre	tört	tuurst	tuurst
(否定で) ...する必要がない; (ただ) ...しさえすればいい			
treese	treet	trätj	trin
歩く, 進む <i>treten</i>			
triinje	trânt	trând	trând
(糸を) 巻く			
tûne	tünt	tûn (d)	tûnen
ふくらむ, 腫れる			
tûünj/touen	twoit	touf	twoin
洗う <i>da. to</i>		(twoid)	
tweene	twant	twûn	twûnen
(糸を) より合わせる <i>da. tvinde</i>			
twinge	twângt	twüing	twüingen

強いる <i>zwingen</i>	(twänggt)		
twite	twat	twiitj	twan
彫る, けずる			
waase	1. wiitj	wust	wust
知っている	2. wiist		
<i>wissen</i>	3. wiitj		
	pl. wiise		
wákse	wákset	wúks	wúksen
成長する <i>wachsen</i>			
wale	〈訳注: 1. wal〉	〈訳注: 1. wälj〉	wäljt
...したい	2. wäät	2. wäist	
<i>wollen</i>	3. wal	3. wälj	
	pl. wan	pl. wänj	
〈訳注: wärde 前出 B. VI. 4. c 参照〉			
wätje	weet	weet	weet
ぬらす <i>da. væde</i>			
weege	weecht	wouch	wäägen
...の重さがある, 重さを測る <i>wiegen</i>			
weere	wjart	wjard	wjard
逆らう <i>wehren</i>			
〈訳注: weese 前出 B. VI. 4. a 参照〉			
weewe	weeft	wäif	wääwen
織る, 編む <i>weben</i>		(wouf)	
wiinje	wânt	wând	wând
裏返す, 向ける <i>wenden</i>			
wiirwe	wiirft	würw	würwen
宣伝する <i>werben</i> ; 買い物をする			
wine	want	wün	wünen
巻きつける <i>winden</i>			

北フリジア語モーリング方言 (1)

wringe	wrāngt	wrāngd	wrāngd
しぼる <i>wringen</i>			
wrise	wrast	wriis	wraasen
こする <i>da. vride</i>			
wude	wudet	wüd	wüden
(水の中を) 歩いて渡る <i>waten</i>			
wune (wane)	want	wün	wünen
勝つ, 獲得する <i>gewinnen</i>			

文 法 用 語

articulus	slächtuurd	冠	詞
substantivum	noomeuurd	名	詞
genus masculinum	hislächt	男	性
— femininum	jüslächt	女	性
— neutrum	dätslächt	中	性
casus nominativus	1. fāl	主	格
— genitivus	2. —	属	格
— dativus	3. —	与	格
— accusativus	4. —	对	格
numerus singularis	iinjtal	单	数
— pluralis	möörtal	複	数
— dualis	toutal	双	数
adjectivum	baiuurd	形 容	詞
adverbium	amständsuurd	副	詞
gradus positivus	1. grood	原	級
— comparativus	2. —	比 較	級
— superlativus	3. —	最 上	級
pronomen	stääsuurd	代 名	詞
pronomen personale	persöönlik stääsuurd	人 称 代 名	詞

— impersonale	ünpersöönl. stääsuurd	非人称代名詞
— possessivum	äinduumsuurd	所有代名詞
— demonstrativum	haanewisen stääsuurd	指示代名詞
— interrogativum	fråågeuurd	疑問代名詞
— relativum	tubäägwise stääsuurd	關係代名詞
— indefinitum	ünbestimd stääsuurd	不定代名詞
numerale	tåluurd	数 詞
cardinalia	grüntåle	基 数 詞
ordinalia	ordningståle	序 数 詞
verbum	tiduurd	動 詞
activum	douform	能 動 態
passivum	liseform	受 動 態
modus infinitivus	grünform	不 定 詞
— imperativus	befäälfarm	命 令 形
praesens participium	madeuurd nütid	現 在 分 詞
perfectum participium	madeuurd jütid	過 去 分 詞
praesens	nütid	現 在 形
praeteritum	jütid	過 去 形
plusquamperfectum	foornütid	過 去 完 了 形
futurum I	tukamst	未 來 形 I
— II	foortukamst	未 來 形 II
conditionalis I	betingform I	条 件 形 I
— II	— II	条 件 形 II
praepositio	ferhүүлjuurd	前 置 詞
conjunctio	bineuurd	接 続 詞

訳 注

- 1) 本文ではもっぱら母音の長さの対立を問題にしているが、張り (tense)/弛み (lax) の対立も重要である。くわしくは続編で述べる。

なお、ドイツ語とちがって、ふつう語頭母音の前に声門閉鎖音 (?) は出ない。これはオランダ語、英語、西フリジア語でも同様である。語末母音が後続の語頭子音と連続して発音され、語の境界が不明瞭となり、音節の再分節化が起こることがあるのも共通している。

- 2) 東モーリング方言 (OM) と西モーリング方言 (WM) の違いについては続編で論じるが、本文に関係する代表的な違いとしては次の点があげられる (Sjölin et al. 1988: VII, Jørgensen. 1978²: *fooruurd* 参照)。

- i) OM a — WM ä (ch, k, g の前)。例:

lacht — lächt 軽い, 簡単な *leicht*

mag — mäg キス

mak — mäk 蚊 *Mücke*

- ii) OM aa — WM ää (g の前)。例:

praagele — präägele 編む, チクチクする *prickeln*

taag — tääg ヒツジシラミバエ

waag — wääg 週 *Woche*

- iii) OM ai — WM ä (nk, ng の前)。例:

ainkelt — änkelt 個々の *nd. enkelt*

haingst — hängst 馬 *da. hest, vgl. Hengst*

slainke — slänke 飲みこむ; 巻きつける *schlingen*

- iv) OM öi — WM au (f, ch の前)。例:

plöif — plauf (農耕用の) すき *Pflug*

また, iii) に関連して, OM ä — WM i となるものもあるようである。例:

bränge — bringe 持っていく *bringen*

spränge — springe はねる *springen*

twänge — twinge 強いる *zwingen*

hänge — hinge 掛ける *hängen*

önjstränge — önjstringe 緊張させる *anstrengen*

slänge — slinge 巻きつける *schlingen*

wräge — wringe しぼる *wringen*

このうち、最初の三つの動詞は不定詞と現在形 3 人称単数で iii) に従って次のような母音の交替を示す。

bränge: braingt — bringe: brängt

spränge: spraingt — springe: sprängt

twänge: twaingt — twinge: twängt

なお、原文には「西モーリング方言の形を括弧に入れてつけ加える」(“*san da weestermooringer forme önj klämere tufäiged*”, S. 5) とあるが、これは明らかに誤植である。

- 3) 7 (ää) よりも 8 (aa) のほうが調音位置が低い。なお、本文に示唆されているように、東モーリング方言には 8 (aa) の母音が音素としてはない (訳注 2 参照)。
- 4) 子音 (およびアクセント) にかんする特徴をいくつか挙げておく。全体の子音体系は続編で示す。
 - i) モーリング方言は第 2 次子音推移を経ておらず、高地ドイツ語に見られる無声摩擦音 [pf], [ts], [tʃ] がいない。一方, A. III. 1. にあるような口蓋化子音 [dʲ], [tʲ], [nʲ], [lʲ], ([kʲ]) が存在する (訳注 5 参照)。そのほかの子音はドイツ語とほぼ同様である。
 - ii) アクセントは強弱であり、高低のアクセントはない。ドイツ語と同様に、ふつう第 1 音節にアクセントが置かれる。
 - iii) 無声閉鎖音は西フリジア語やオランダ語とは異なり、ドイツ語と同様に、アクセントのある音節の語頭音 (Anlaut) で強い氣息を伴う ([pʰ], [tʰ], [kʰ])。また、語末音 (Auslaut) でもふつう有気音だが、それほど強くない。それにたいして、有声閉鎖音はつねに無気音である ([b], [d], [g])。
 - iv) 正書法で ch の音はドイツ語と同様の発音になる。すなわち、軟口蓋母音の後で軟口蓋無声摩擦音 [x], その他の場合に硬口蓋無声摩擦音 [ç] となる。ふつう、両者は相補分布をなす同一音素であると見なされる (Walker 1990: 11) では /ç/)。なお、声門摩擦音 [h] はドイツ語と同様、別の音素である。
 - v) 正書法で r の音はドイツ語と同様、ふつう歯茎ふるえ音 [r] である。ただし、母音と子音とのあいだ、および母音の後の語末音 (Auslaut) では母音化 [ɐ] する。なお、筆者の観察では、語頭音 (Anlaut) の tr- における r の発音は無声摩擦音 [ʃ] である。すなわち、t の部分で歯茎後部に形成された閉鎖がゆっくりとゆるめられて、摩擦音化した r の部分に移行する。したがって、たとえば *trou* (誠実 *Treue*) における tr の音価は、英語の *trout* における tr の音価に近い。
 - vi) 正書法で l の音はドイツ語と同様にいわゆる「明るい l」である。
- 5) 語末音 (Auslaut) の lj- [lj], nj- [nj] は失われつつある (Walker 1990: 11 参照)。また、kj [kj] は稀である。Bauer (1925: 23) は äkj (雌馬 *vgl. da. ög*), bākj (ブナ *Buche*, ブナの灰で作った洗濯用のアケ *Beuche*), sākj (探求 *Suche*) の 3 語にしか見あたらないと述べている。最後の語は Sjölin et al. (1988: 202) では sāk(j) として掲載されている。語頭音 (Anlaut) としては, kjarl (①男の人 *Kerl*; ②粒, (ワインなどの) おり, 凝乳) とその派生語 (②の意味から: kjarle, kjarlet/kjarli, kjarne, kjarling, kjause, kjörtel, それに tjause (あご) の異形態である kjause, それに kääre (乗り物で) 行く *da. køre*) の変化形 kjarl (現在形), kjard (過去形, 過去分詞) に見られる。(Sjölin et al. 1988: 128 f. 参照)。Walker (1980 a), Walker (1990:

11) では, [k] は音素として認められていない。

さらに, 語頭音 (Anlaut) の lj- の用例は見あたらない。語頭音の dj- の用例は 2 語 (djüse 解釈する, *deuten*; djüsi 猛烈な) しか見あたらない。一方, 語頭音の nj- の用例はいくつか見られ, 同じく語頭音の tj- の用例は豊富にある。Bauer (1925: 20) によれば, [lj] の音は 1925 年の時点で 1 世代ないし 2 世代上の話者によって, 語頭音としても発音されていたという。元来, この音は [l] + [j] の連続であり, その後, [lj] に変化した。例:

jächt *af. liacht* 光 *Licht*, *wfr. ljocht* [ljɔxt], *vgl. sv. ljus*

本文の巻末の動詞変化表にある jooge (*af. liaga* うそをつく *lügen*, *vgl. sv. ljuga*) の変化における語頭音の交替も, これによって説明できる (なお, *rääre* (触れる, 動かす *rühren*) の変化を参照 (訳注 92 の 1. ii.):

jooge (*af. ia*) *lügen* — jucht (*af. iu*) (*er*) *lügt* — luuch (*af. ā*) (*ich*) *log* — läägen (*af. e*) *gelogen*

ここでの口蓋化は, 硬口蓋母音の前で [k] > [ts] (モーリング方言ではさらに [s] ([s] + [j] > [ʃ]) に変化, 例: *hd. Kirche* — *engl. church* — *moor. schörk*) および [g] > [dʒ]/[j] ([dʒ] はモーリング方言ではさらに [d] に変化, 例: *hd. liegen* — *wfr. lizze* — *moor. lade*; [j] 例: *hd. gestern* — *engl. yester-day* — *moor. än-jörsne*) となる英語と共通の現象 (Palatalisierung) と区別するために, 湿音化 (Mouillierung) と呼ばれることがある。歴史的には -ik ないし -d の前で l, n, d, t, (k) から変化したもの (例: *latj af. litik* 小さい; *hönj af. hand* 手) など, さまざまな場合がある (Bauer 1925: 87-91 参照)。

- 6) 語頭音 (Anlaut) の s は無声 [s], 語中音 (Inlaut) の s は無声 [s] あるいは有聲 [z], 語末音 (Auslaut) の s は無声 [s] あるいは有聲 [z]。
7) 誤りである。次の例の s は母音間にあるが, 無声 [s] である。

wase ← was 確かな *ge-wiß*, *da. vis* (Sjölin/Walker 1986: Ü 2)

pase おしっこする *pissen* (Walker/Wilts. 1980²: 15)

wüset 女の人 (Bauer 1925: 76)

- 8) この事実からすると, ドイツ語と同様に, モーリング方言にも障害音 (Obstruent) が語末音 (音節末音, Auslaut) で無声化する規則 (Auslautverhärtung) があるような印象を受ける (B. II. 3. f. における [f] ~ [w] 等の交替も参照。例: *dāt bräif* — *da bräiwe* 手紙)。しかし, A. III. 3. b. からわかるように, モーリング方言にこの「規則」はなく, [s] ~ [z] (あるいは [f] ~ [w] 等) の交替は語彙的な現象にすぎない。このことは次の最小対立からも明らかである。例:

lees [s] フーダー (容量の単位) — lees [z] (私は) 読む (*ich lese*) (Sjölin/Walker 1986: Ü 2)

同様に, B. III. 5. (訳注 37 も参照) で述べられている形容詞の語幹における語末音の無声/有聲の交替もこのことを示している。例:

snüüs [s] 清潔な (叙述用法の語幹) — snuus [z] 同左 (限定用法の語幹)

モーリング方言に語末障害音の無声化の規則がないことは、次の歴史的な事実にも反映している (Bauer 1925: 24-26 参照)。

- i) 比較的新しい時期に後続母音が落ちて新たに語末音となったかつての母音間の [z] の音が無声化していない。例:

räis 旅 *Reise*; rous バラ *Rose*; smaas 鍛冶工場 *Schmiede*

- ii) かつての長母音の後であらわれた [z] の音が語末音でも保たれている。例:

lääs 遅い *engl. late*; ääs (私は) 食べる (*ich*) *esse* (←ääse 食べる *essen*)

現在の [s]/[z] の音は、本来の歯茎摩擦音無声 [s]/有声 [z] の異音のペアに、歯間摩擦音無声 [θ]/有声 [ð] の異音のペアが 20 世紀前半に融合して成立したものである (Bauer 1925: 24-26 参照)。今日、[θ]/[ð] の音は消滅して残っていない。なお、Walker (1980: 60) によれば、リントホルム村 (Lindholm; 東モーリング方言の地域) で [ð] の音が 1970 年代に観察されたという。i) には本来の [z] の音 (räis, rous) とかつての [ð] の音 (afr. d; smaas) の両方があてはまり、ii) にはかつての [ð] の音 (afr. t>d) だけがあてはまる。

上記のことは他の障害音についてもいえる。

唇歯摩擦音 [f]/[w] について。正書法上は f [f], w [w] と書き分ける。歯茎摩擦音と同様の音韻変化が観察される (Bauer 1925: 24-26 参照):

- i) 比較的新しい時期に成立した語末音の [w]。例: döw ハト *Taube*
ii) かつての長母音の後にあらわれた語末音の [w]。例: hoow 希望 *Hoffnung*, da.
háb

同様に次のような例が見られる。

bliwe *bleiben* とどまる — bliw (*ich*) *bleibe* — bliif (*ich*) *blieb* — bliifen (*wir*) *blieben* — blaawen *geblieben*

liif 好きな *lieb* (叙述用法の語幹) — liiw 同左 (限定用法の語幹), 愛人 *Geliebte* ruuf, pl. ruuwe より糸のかせ, 束 — ruuw 風車の翼板

なお、歯茎摩擦音の場合とは異なり、語頭音で [f]/[v] の両方が出る。例: faäder 羽毛 *Feder* — wääder 天気 *Wetter*

閉鎖音についても語末音での無声化の規則はない。正書法上は、無声音を p, t, k; tj, 有声音を b, d, g; dj と書き分ける。例:

op ...の上に *auf*; heelp 助け *Hilfe*; huup 積まれた山 *Haufen* — neeb くちばし *da. næb*; kråb ザリガニ *Krebs*, *da. krabbe*; weeb 織物 *Ge-webe*, *da. væv*
wit 白い *weiß* — wid 広い *weit*

māk キス — mäg 蚊 *Mücke*

(ik) rüütj (私は) つぶやく — rüüdj 赤い *rot*

このように、モーリング方言にはドイツ語、オランダ語、西フリジア語といった西ゲルマン語に見られる語末障害音の無声化の「規則」は存在しない。

歴史的には、ドイツ語ではすでに中高ドイツ語 (Mittelhochdeutsch, 1050-1350), オランダ語では古オランダ語 (Oudnederlands, 1200 年以前) にはその例が文献にあらわれており (Goossens 1974: 65 参照), 今日まで続いている。一方, 古フリジア語にも語末障害音の無声化の現象があったという可能性は, Sjölin (1969: 28) では消極的に評価されている。また, 西フリジア語でこの現象が規則化したのは 20 世紀にはいつてからのことといわれている (Tiersma 1985: 30 参照)。一般的にフリジア語では語末音で有声/無声の中和は起こりにくいといえよう。

本文にあるような障害音の交替の現象は比較的最近, 北フリジア語内部で起こったと推定されているが (Sjölin 1969: 28 参照), これは語彙的な現象にとどまり, 音韻規則としては定着しなかった。それには名詞の複数形 (B. II. 3. f. 参照) における次の例:

di krich 戦争 *der Krieg* — da kreege
dät schap 船 *das Schiff* — da schaawe
dät spat 槍 *der Spieß* — da spaase

あるいは形容詞の変化形 (B. III. 5. 参照) における次の例:

fuuch 不安な — fuuge
rüh 荒い *rauh* — rööge

のように, 無声/有声と同時に摩擦音と閉鎖音の交代 ([ç]~[x]/[g], [p]/[w], [t]/[z]) を示す場合も含まれる。

また, 以上のことから, [s] と [z] の音の区別が正書法に反映されていないのは欠陥であると思われる (ドイツ語では必要に応じて [s] の音を ss, ß と書き分けている)。すでにデンマークの言語学者ラスク (Rasmus Rask (1787-1832)) は, Bendsen (1860) (最初の草稿は 1824 年にできあがっていたが, 出版が非常に遅れた) の業績に基づいてモーリング方言に考察を加え, /s/ と /z/ の音を正書法として s と z に書き分ける提案をしているが, これにたいするイェルゲンゼンの反応は冷やかである: „Intresant as uk, dät hi <訳注: ラスクを指す> da foneeme /s/ än /z/ ütenuoderhält döör da tiikne s an z.“ (Jörgensen 1979: 103)

- 9) 意味的には än (*wfr. en, ndl. en*) はドイツ語の und に, unti はドイツ語の oder にそれぞれに対応する。なお, er, ooder もドイツ語の oder の意味。
- 10) 今日では for/foor という正書法上の区別をせず, ともに for と書く。Sjölin et al. (1988) には foor という語形はない。もともとドイツ語の für と vor は同語原である。なお, オランダ語でも両者はふつう voor だが, 「... の前に」(ドイツ語の vor) という意味を明示する場合には vóór とつづる。以下, 本文にあらわれる foor(-) の語形も同様に今日では for(-) とつづる。
- 11) 西フリジア語では両性 (utrum) と中性 (neutrum) の 2 性のみ。
- 12) 文法性の区別が複数で示されるのは基数詞 2 (tou 男性; twäär 女性・中性) と 3 (trii 男性; tra 女性・中性) に限られる。V. 1 参照。

- 13) 独立形と縮約形の使い分けは本来、意味的なものである。つまり、「その肉屋のところ」と強く指示 (deiktisch) したい場合は *tu di slächter* と独立形を用いる。また、本来、縮約形はひとつしかない対象、特定の決まった対象について用いるのになんていって、独立形は区別する余地のある、ちょうど話題になっている対象を指す。たとえば、太陽や月についてはそれぞれ *e san*, *e moune* と縮約形を用いるのに、自分の妻ないし夫についてはそれぞれ *e wüf* ないし *e moon* のように縮約形を用いる。したがって、ふつう *e moon kamt* といえば「私の夫が来た」という意味であり、*di moon kamt* といえば「今、話題にしている男の人が来た」という意味である。しかし、今日の若い世代ではこの区別は失われつつあり、太陽や月についても *jü san*, *di moune* と言う傾向にある (Walker 1980 b: 26 f.; Walker 1990: 25 参照)。なお、北フリジア語の定冠詞は興味深い問題を提示するテーマであり、くわしい論考としては島の方言であるフェーリング方言 (fering) について考察した Ebert (1971) がある。
- 14) **ünj e uugene*; **bai e uure*; **aw e eekere* が誤りであることに注意 (ただし、最近では許されつつある)。つまり、ここでは音韻規則が形態規則に優先している。
- 15) 不定冠詞は単数形しかない。
 なお、基数詞の 1 には *än* (男性)/*iinj* (女性・中性) の区別がある (B. V. 1. 参照)。また、否定冠詞 (*kein*) にもこの区別があり、*nän* (男性単数)/*niinj* (女性・中性単数および複数) となる (B. IV. 8. C. 参照)。つまり、形態的には否定冠詞は不定冠詞の否定形ではなく、基数詞の否定形であることになる。
 Bendsen (1860: 116) は、不定冠詞は男性で *an*、女性および中性で *en* となるが、発音としてはともに 'n となるのがふつうであると述べている。ところが、基数詞の 1 は 206 ページで *än* (男性)/*iinj* (原文では *ijn*) となることが記されており、明らかに不定冠詞とは形が違う。Bauer (1925: 109 ff.) にはこのような違いはなく、今日の形と同じである。
- 16) 低地ドイツ語やオランダ語では女性。
- 17) Jørgensen (1978²: 29), Sjölin et al. (1988: 63) では中性 (*dät fäisem*)。
- 18) Sjölin et al. (1988: 251) では中性 (*dät tünelse*)。
- 19) Sjölin et al. (1988: 43) では女性 (*jü däasihäid*)。軽蔑的な言いかたをするときに文法性を中性に変えることについては B. II. 1. 「中性」g. 参照。
- 20) 動詞の第 2 不定詞 (動名詞) を中性名詞として用いたもの (B. VI. 3. 参照)。
- 21) デンマーク語では接尾辞 *-dom* は両性 (例: *ejendom-men* 財産; *kristendom-men* キリスト教), 接尾辞 *-dømme* は中性 (例: *hertugdømme-t* 公國)。ドイツ語の接尾辞 *-tum* は男性名詞を作ることもある (例: *der Reichtum* 富 *moor. dät rikduum, da. rigdom-men*; *der Irrtum* 誤り *vgl. moor. dät iring*)。
- 22) *moor. -schap* に対応する接尾辞の文法性はゲルマン語では揺れがある。ドイツ語 (*-schaft*) ではつねに女性。オランダ語 (*-schap*)、西フリジア語 (*-skip*)、スウェーデ

ン語、ノルウェー語ブークモール (bokmål) (ともに -skap) では両性および中性、ノルウェー語ニューノシュク (nynorsk) (-skap) では男性および中性、アイスランド語とフェロー語 (ともに -skapur) ではつねに男性。

- 23) ドイツ語の接尾辞 -rei (-er)ei, -(el)ei) はつねに女性。前出の「女性」h. の項を参照。
24) 属格は疑問代名詞および関係代名詞でも人 (有生名詞) の場合に限られ、huums(en) となる。物事 (無生名詞) の場合は weer (...) foon となる (B. IV. 5/6. 参照)。

モーリング方言の属格は所有関係を示すだけで意味領域が狭い。また、かつては男性・中性単数に限られた属格語尾 -s は、今日では性・数の区別なく用いられる、ま以外の限定詞は無変化である。

なお、Bendsen (1860: 114-116) には人 (有生名詞) 以外の属格形も数多く記されている。例: (単数属格/複数属格の順)

di baises/da baises←baisem ほうき *Besen*, *ndl. bezem*
jü krunkhâids/da krunkhâides←krunkhâid 病気 *Krankheit*
dât wanings/da waninges←waning 窓 *an. vindauga*

Bauer (1925: 107 ff.) にも同様の用例が挙げられており、名詞の意味制限については記載がない。このことから、モーリング方言の属格は 20 世紀初めまでは今日よりはるかに広い使用領域を有していたことがわかる。

なお、低地ドイツ語 (北低地ザクセン方言) には名詞句に属格形がない。名詞句内の所有関係は、前置詞 *vun (hd. von)* あるいは本文にあるような所有代名詞を使った構文で表わす。例:

Vader sin Hoot おとうさんの帽子 *Vaters Hut*; de Moder eer Kleed おかあさんの服 *das Kleid der Mutter*; dat Kind sine Moder その子の母親 *die Mutter des Kindes* (Bichel/Hartig 1981: 61 f.)

- 25) 前置詞に支配された名詞句でも (対応するドイツ語の格の種類に関係なく) 同様。
26) 複数形は大多数の名詞が -e (-ne, -(n)se, -inge) の付加によって作る (本文 a., b., c., d., e., f. および g. の一部)。-e の付加によらずにウムラウトや子音の交替 (一部は付加) によるものが少数ある (g. の一部)。全く形を変えないのは一部の中性名詞 (訳注 32 参照) にほとんど限られる (h.)。

島の北フリジア語方言では複数形は語尾 -er, -en の付加によって作る。三種類の語尾 -e; -er, -en は古フリジア語 (それぞれ -a; -ar, -an) ですべて用いられていたが、北フリジア語では島の方言で語末音の -a(>-e) が消失したので、-er, -en が残り、逆に大陸の方言では語末音の -a(>-e) が保たれたために、語尾の -a(>-e) が他の二つを駆逐して広がった。なお、本文 c) の -ne (da brouderne 等) は語尾 -an(>-n) のなごり (-n に e を付加) であり、g) の di schouf — da schuur は語尾 -ar のなごりである (Hofmann 1956: 85 f. 参照)。

- 27) 親族名称およびかつての弱変化 (n 語幹) 名詞が多い。また、foom (少女 *wfr. faam*) の複数形は foomne または foomde。

- 28) 一方, taatje (父) は複数で無変化。ドイツ語の Vater, Mutter に語形として対応する語は fider, muder であり, 複数形はそれぞれ fidre, mudre だが, 「父」, 「母」の意味としては一般的ではない。fider は「父」の文語あるいは「祖父」という意味, muder は「子宮」という意味でも用いられる。
- 29) s, f, m, n, r で終わる語の一部。s, f は複数で有声音になる。
- 30) Sjölin et al. (1988: 251) では tööninge。
- 31) 単数形で, 口蓋化音 (湿音) によって先行する母音が短音化あるいはウムラウトを起こしているものがある。そのさいの複数形の母音は, 口蓋化音 (湿音) によって妨げられずに音韻変化が起こった結果である (Bauer 1925: 54-57 参照)。
その他, ウムラウトや子音の交替 (ないし付加) で単数形と複数形が異なるものがある。
- 32) 単数と複数が同形の語は本来すべて中性名詞で動物名を示すものである。今日ではこれに同じく動物名を示す女性名詞二つ (jü müs; jü lüs) と, 本来の単数形が失われて複数形が単数形にはいりこんだ男性名詞一つ (di täis engl. the teeth) が加わっている。
そのほかの単複同形名詞も大部分が中性だが, jü märk が女性名詞としてドイツ語からはいり, すべて量の単位となるものである。このうち, 本文の最後にあがっている dát iir — da iir (年) は, ドイツ語では das Jahr — die Jahre と複数形が変化するが, オランダ語/西フリジア語では 3 年, 10 年のように特定の年数を表わす場合は, drie jaar/trije jier, tien jaar/tsien jier のように単数形のままである。
- 33) このように, モーリング方言では「所有代名詞+形容詞+名詞」の場合, 形容詞は弱変化する。これはデンマーク語や低地ドイツ語でも同様である。一方, 標準ドイツ語では周知のように強変化する。例:
moor. man üülje moon/di üülje moon (ともに弱変化)
da. min gamle mand/den gamle mand (ともに弱変化)
nd. mien ole Mann/de ole Mann (ともに弱変化)
hd. mein alter Mann (強変化)/der alte Mann (弱変化)
古フリジア語では上記の場合, ふつう弱変化だが, 強変化の例も見られる (Sjölin 1969: 33 参照)。
- 34) Bauer (1925: 110) には Liiwe süster! も可とある。今日では Liiw süster! がふつう。liif (叙述用法) と liiw (限定用法) における語幹の交代については B. III. 5. 参照。
- 35) 北海ゲルマン語の特徴 (Ingwäonismus) として, 本来, 形容詞強変化 (男性) 主格単数は無語尾 (代名詞語尾の欠如) のはずである。たとえば, 西フリジア語は今でもそうである。モーリング方言の形容詞強変化男性単数の語尾 -en は本来, 主格ではなく, 対格に由来すると考えられる。一般に男性単数形が特別な形をしている場合, モーリング方言では男性単数対格の語尾 -en の影響と考えていい。所有代名詞 (B. IV.

3.) や B. IV. 8. の「その他の代名詞」の一部や基数詞の 1 (B. V. 1.) もその例である (訳注 54 参照)。

本来の形容詞男性単数対格の語尾 *-en* が根強く残っているのは、低地ドイツ語の北低地ザクセン方言でも同様である。北低地ザクセン方言では、名詞の格変化語尾がほとんど失われ、限定詞と形容詞強変化で上記の語尾 *-en* (*-n*) だけが残っている。そして、これが男性名詞と女性名詞を区別する手がかりになる。

	男 性	女 性	中 性
単数 主 格	de Broder	de Suster	dat Kind
目 的 格	<u>den</u> Broder	de Suster	dat Kind
複数 主格・目的格	de Bröder	de Süstern	de Kinner

それどころか、形容詞強変化では、本来は男性単数対格の語尾 *-en* (*-n*) が、モーリング方言と同様に男性単数主格にも及んでいる。

	単数 主格・目的格
男 性	en fründlichen Broder
女 性	en fründliche Suster
中 性	en fründlich Kind

(用例は Kloock/Viechermann 1989: 96 ff. より一部変更, 下線訳者)

- 36) ドイツ語と同様に, *wat* と “形容詞+*-s*” の位置が離れてあらわれることがある。例:
Wat as er nais? (Sjölin et al. 1988: 162) 何か新しいことはありますか *Was gibt es Neues?*
- 37) このように, 叙述用法 (prädikativ) と限定用法 (attributiv) で語幹の異なる形容詞がいくつかある。以下の本文の例では, たとえば *huuch/huug*; *duuf/duuw*; *stif/stiw*; *bröket/bröked* がそれぞれ「叙述用法」/「限定用法」の語幹である。辞書には叙述用法の語幹が見出し語としてのっている。
 また, 以下の本文にあるように, *ruuch/röög*; *blüch/blöög*; *lүүs [s]/luus [z]*; *snүүs [s]/snuus [z]* のように, 語末子音の交替のほかに語幹母音も交替するものがある。
- なお, 以上の例はモーリング方言に語末障害音の無声化 (Auslautverhärtung) の規則がないことの証拠になる (訳注 8 参照)。
- さらに, 以下の本文にあるように, *gödj/gou*; *kölj/koul* のように口蓋化音 (湿音) とそれに伴う先行母音の交替 (ウムラウト, 短母音化の有無) を示すものがある。これは名詞の複数形で *stölj/stoule* (いす *Stuhl*); *schölj/schoule* (学校 *Schule*) と同様の現象である (B. II. 3. g. 参照)。
- 38) 比較の対象 (...よりも) を表わす場合は *as* (*als*, *vgl. wfr. as*, *engl. as*) を用いる。

また、原級で同等比較 (...と同じくらい...) を表わす場合も, *sü ... as ... (wfr. sa/like ... as ..., engl. so/as ... as ...)* のように *as* を用いて次のように言う。例:

Di huuge hiire as ai sü huuch as wat we miine. (Sjölin/Walker 1986: L 18.1 斜体訳者) その背の高い紳士は私たちが思っているほど背が高くない

Jare goue waane as sü gödj as wat we tânke. (ibid. 斜体訳者) 彼らの良い友人は私たちが考えているのと同じくらい良い人だ

訳者の観察では、下線部の *wat* は義務的で落とすことができない。これは比較構文 (Komparativsatz) が *w-* 移動 (*w-Bewegung*) によって生成されるという主張の証拠になる。

- 39) ドイツ語と同様に、アクセントをもつ音節末の子音が歯 (茎) 障害音 (Obstruent) である場合、それに続く最上級の語尾は *-est* となる。ただし、ドイツ語の *größt* (←*groß*) と同様、後出の *grutst* (←*grut*) は例外。

- 40) *lääser(e)* は *lääder(e)* ともいう。

- 41) 場所的に「距離がある」という意味では、規則的に *fir* — *firer* — *first* と変化する。

- 42) 人称代名詞 3 人称の形は、北海ゲルマン語の特徴 (Ingwäonismus) として、古フリジア語においては元来、指示代名詞の *h-* (<*hi*: アイスランド語の指示代名詞 *hinn*, *hin*, *hið* 参照) で始まる語形にさかのぼる (Krahe/Meid 1919: 69 参照):

hi (*afr. hi*); *jü* (*afr. hiu*); *hat* (*afr. hit*); *ja* (*afr. hia*); *jam* (*afr. hiam*)

一方, *dät* (*afr. thet*) は古フリジア語で *th-* で始まる別の指示代名詞の系列にさかのぼり、今日では *di* (*afr. thi*) と *jü* (*afr. thiü*) とともに定冠詞としても機能する。ところが、中性の *dät* だけはさらに人称代名詞の系列にはいりこみ、3 人称単数中性の *hat* を有生 (*belebt*), 自らは無生 (*unbelebt*) として、機能上の相補分布を引き起こして定着した。そして、訳注 49 でも述べるように、*hat* は今日、モーリング方言ではほとんど用いられなくなっている。一方、島の北フリジア語であるセルリング方言 (*sölring*) では、*hat* は小さな女の子を指す代名詞として残り、フェーリング・エームラング方言 (*fering-öömring*) では、*hat* は女性一般を指す代名詞として定着し、本来の 3 人称代名詞女性形 *jü* を駆逐しつつある (Walker 1985: 37 f. 参照)。

- 43) 人称代名詞 3 人称単数中性無性の主格および目的格の形には *dät* のほかに *et* がある。*et* は後出 (B. IV. 1. f) の縮約形と同形だが、他の縮約形とちがって、動詞や接続詞の直後以外の位置にもあらわれる。たとえば本文 (B. IV. 2) の原典の一部は次のようである。

Dät unpersöönlík stääsuurd hât dät; (...) *Et koon uk deer hiitje* (Jörgensen 1978*: 21) 非人称代名詞は *dät* という; (...) それは *deer* ともいえる

Walker (1990: 17) には、縮約形以外の 3 人称代名詞単数中性として *et* も記載されている (訳注 52 参照)。

- 44) Bendsen (1960: 218) には *Dât ban ik. (Das bin ich.)* も可能とある。
- 45) 人称代名詞双数は今日ではその使用が少なくなっている。すでに Bendsen (1860: XXIII) には, Jörgensen (1978⁴) で記述の対象となっている西モーリング方言では東モーリング方言とちがって人称代名詞双数は用いられず, 人称代名詞複数で代用するという記述がある。
- 46) 比較的最近の傾向として, かつてのドイツ語と同様に (ihr), 敬称の 2 人称代名詞単数として 2 人称代名詞複数の *jam* が用いられることがある (Walker 1990: 17 参照)。動詞は複数形になる。これは西フリジアでも同様である (wfr. *Jo*)。また, 年上の人 (子供が親にたいしても同様) に名前あるいは 3 人称代名詞を用いるのも西フリジア語と同じである (Tiersma 1985: 63 参照)。この点でフリジア語は他のゲルマン語よりも保守的な性格をもっており, これはフリジア人の社会や人間関係を反映しているように思われる。ドイツ語や北ゲルマン語でも, 子供が親にむかって親称の 2 人称代名詞を用いるのは, 1 世代前はまだ一般的ではなかった。くわしい考察については Walker (1977) 参照。
- 47) 元来, フリジア語は北海ゲルマン語の特徴 (Ingwäonismus) のひとつとして再帰代名詞を失い, 人称代名詞でこれを代用している。今日, 西フリジア語にも再帰代名詞はない。西フリジア語を取り巻くオランダ語は典型的な北海ゲルマン語ではないが, その再帰代名詞 *zich* は第 2 次子音推移を経ている (*k > ch*) ことからわかるように, 高地ドイツ語からの借用である。なお, 東フリジア語 (Saterländisch/Seeltersk) には再帰代名詞 *sik* (Fort 1980: 197)/*sik* (Kramer 1982: 22) があるが, Lockwood (1965: 227) によれば, これは低地ドイツ語の影響である。
- 48) 再帰の意味では *jam* を用い, *ja* は用いない。
- 49) このように, 再帰の意味では先行詞が無生でも *ham* を用い, *dât* は用いない。本文 B. IV. 2. の次の用例も同様である。
Dât luunt ham ai. それはやってもむだだ Das lohnt sich nicht.
 なお, Bendsen (1860: 209) には人称代名詞の表があるが, そこには *dât* の目的格は *ham* とだけ記されており, 今日とちがって, *dât* は目的格で用いられないことになっている。
 訳注 42 で述べたように, *hat/ham* は *dât* の侵入を受けて領域を狭めたが, *dât* はまだ 19 世紀半ばには目的格の領域には侵入していなかったことになる。今日でも *dât* は再帰的用法の目的格としては *ham* にこばまれている。しかし, 有生の *hat* は今日, あまり用いられなくなっている。Walker (1990: 17) は *hat* を人称代名詞の表に加えているものの, じっさいにほとんど用いられない („practically extinct“ *ibid.*) と記している。*dât* はその領域を急速に拡大しているように見える。
- 50) このように, モーリング方言では「相互」(*reziprok*) の意味を表わす場合は特別な形の相互代名詞 *enouder (einander)* を用い, 人称代名詞を用いることはできない。これは西フリジア語でも同様である。再帰代名詞を有するオランダ語や北ゲルマン語で

も、相互の意味では相互代名詞を用い、再帰代名詞を用いることはできない(ここでは、北ゲルマン語については動詞に前接的(enklitisch)に付加された-s/-st形は除いて、独立した1語としての再帰代名詞(sig, seg等)だけを問題にする)。ゲルマン語でそれができるのは、周知のようにドイツ語があるが、そのほかに東フリジア語(Saterländisch/Seeltersk)もあげられる:

Wie sjo us. *Wir sehen uns.* (Fort 1980: 197) 私たちは顔を合わせる(お会いしましょう)

Jo aapje sik. *Sie küssen sich.* (ibid.) 彼(女)らはキスをしあう

Joo nōigeden sik eenuur. *Sie luden sich einander ein.* (Kramer 1982: 22)
彼(女)らはたがいに招待しあった。

東フリジア語の再帰代名詞 sik/sik が低地ドイツ語からの借用であることは訳注 47 で述べた。

- 51) 訳注 42 で述べたように、非縮約形の3人称代名詞は、dātを除いて、すべて元来、指示代名詞の h- (<hi-) で始まる語形にさかのぼる。そして、この h- (<hi-) は北海ゲルマン語の特徴(Ingwäonismus)となり、古フリジア語と古英語では3人称代名詞のほとんどの形に浸透した(Krahe/Meid 1969: 55 ff. 参照)。一部はオランダ語(hij)や広く北ゲルマン語(sv. han, hon等)にも及んでいる。ただし、古英語とちがって、古フリジア語では h- 系の3人称代名詞は単独の語として独立して用いられる一方で、標準ドイツ語(er, ihn, sie, es; sie)と語原的に共通の形をもつそれ以前の3人称代名詞は消滅せず、指示力の弱い前接的(enklitisch)な用法として残った('r, 'n, 's, 't, ; 's)(Markey 1981: 134 参照)。それが本文で述べられている縮約形であり、これは h- 系の3人称代名詞独立形が「縮約」されたものではない。今日、この3人称代名詞縮約形は北フリジア語諸方言のみならず、西フリジア語(Tiersma 1985: 65 参照)や東フリジア語(Saterländisch/Seeltersk)(Fort 1980: 196; Kramer 1982: 21 参照)にも見られ、現代フリジア語の特徴のひとつになっている。

- 52) 今日では et もよく用いられるようになった。例:

Et snait. (Walker 1990: 18) 雪が降っている *Es schneit.* (訳注 43 参照)

- 53) dāt と deer の区別はデンマーク語の det と der の区別に似ている。西フリジア語にも it と der の使い分けがあり、オランダ語の het (h- は後代の人為的な付加。de Vries/Tollenaere 1987: 254 参照) と er も同様である。ドイツ語にはこのような使い分けはない。

上記の区分に従って、自動詞の受動態には deer (無アクセントの弱形として er) を用いる。例:

Deer wårt doonsed/spaald. (Bendsen 1860: 263) ダンスがある/競技がある *Es wird getanzt/gespielt.*

この deer は文頭以外でもふつう省略されない(無アクセントの弱形 er が用いられる)。例:

Ik wiitj, dät er/der änjørsne doonsed wörd. *Ich weiß,, daß Φ/da gestern getanzt wurde.* (Dr. Walker からの手紙)

For hum wärt er raingd? *Für wen wird (da) geläutet?* (Sjölin et al. 1988: 193) 誰がために鐘は鳴る (OM raingd←rainge (鐘が) 鳴る *da. ringe*; vgl. WM rängd←ringe)

deer にあたる要素が文頭以外に出てはいけないという規則は、西フリジア語 (der), オランダ語 (er), デンマーク語 (der), それにスウェーデン語 (det) には存在しない。

- 54) ドイツ語とは異なって、モーリング方言の所有代名詞の変化は形容詞強変化 (sg. -en/ゼロ, pl. -e) と完全には平行していない。まず, jarne (2. pl.) と jare (3. pl.) はデンマーク語の Deres, deres と同様、つねに無変化である。harn/har (3. sg. f.), üüsen/üüs (1. pl.), unken/unk (1. dual.), junken/junk (2. dual.), は単数で形容詞強変化と同じ変化をするが、複数では無語尾である。残る man/min (1. sg.), dan/din (2. sg.), san/sin (3. sg. m., n.) は単数で語幹母音の交替を起こし、複数ではやはり無語尾である。

所有代名詞の語尾が失われやすい点はオランダ語も同様であり、オランダ語では1人称複数の onze (n. sg. 以外)/ons (n. sg.) を除いて、所有代名詞はふつう無変化である。わずかに、文語的にたとえば手紙の文句として、Mijne Heren (前略) のように複数形で語尾 -e (mijne<mijn *mein*) が残っている程度である。西フリジア語に至っては、所有代名詞は限定用法 (attributiv) ですべて無変化である。

モーリング方言の所有代名詞は女性・中性単数および複数で語尾を失った。このことは、üüs (1. pl.) の語末音 s [z] が元来、母音間であらわれるはずの有声音を保っていることにも反映している (Bauer 1925: 111 参照)。一方、男性単数では語尾 -en (-n) (üüsen/üüs; harn/har 等) の付加、あるいは語幹母音 a/i の交替 (man/min 等) という形で、形容詞強変化の現在の区別を保っている。

形容詞強変化男性単数の語尾 -en は、もともと強変化男性単数対格の形が定着したものであると考えられる (訳注 35 参照)。たとえば、古フリジア語の god (良い moor. gödj, gut) は男性単数対格 (強変化) で goden, -ne, -ene (Sjölin 1969: 32) という語形を示す (高地ドイツ語の einen guten Mann の変化形を参照)。モーリング方言の男性単数で語尾 -en (-n) を伴う所有代名詞 (üüsen/üüs; harn/har 等) はこの形を受け継いでおり、その語幹は n 以外の子音で終わっている。一方、同じく男性単数で語幹母音 a/i の交替を示す所有代名詞 (man/min 等) は、語幹が n で終わるものであり、次のようにして生じた。すなわち、古フリジア語の min (私の *mein*) は、男性単数以外で音韻変化 afr. i>moor. i (と語尾の消失) によって、モーリング方言で min として定着した。ところが、男性単数では上掲の対格の例にならって afr. mīn (e)ne という形を示し、二つの n にはさみこまれた母音 e はあらわれない傾向にあり、その結果として生じた二重子音 -nn- の前で短母音化が起こって i>i となり (Bauer 1925: 112 参照)、さらに音韻変化 afr. i>moor. a と語尾の消失および二重

子音の単子音化を経て、今日のモーリング方言で *man* として定着した (*dan/din*; *san/sin* も同様)。

このように、男性単数における語尾 *-en(-n)* の付加と語幹母音 *a/i* の交替は、語幹末子音が *n* か否かという条件に応じて異なる音韻変化を経て成立した相補的な現象であると考えられる。

以上のことは「その他の代名詞」(B. IV. 8.) や疑問代名詞 (B. IV. 5.) で語尾 *-en/-e* の交替を起こすものにもあてはまる。

- 55) この形は限定用法 (*attributiv*) でも独立用法 (単独で独立した文成分になる) でも用いることができる (Sjölin et al. 1988: 46 参照)。

ところで、Sjölin/Walker (1986: L 6. 3.) には次の表があがっている。

<i>diheere/dideere stölj</i>		
<i>jüheer/jüdeer scheew</i>	<i>daheere/dadeere</i>	$\left\{ \begin{array}{l} \text{stoule} \\ \text{scheewe} \\ \text{bräiwe} \end{array} \right.$
<i>dätheer/dätdeer bräif</i>		

ここでは複数で語尾 *-e* のついた *daheere/dadeere* という形が採用されている。本来、*-heer/-deer* は場所副詞 (*heer* ここ *hier/deer* あそこ *dort, da*) なので無変化のはずである。事実、スウェーデン語ではそうになっている。例：

両性	<i>den här/där stolen</i>	この/あの いず		
中性	<i>det här/där brevet</i>	この/あの 手紙	<i>de här/där</i>	$\left\{ \begin{array}{l} \text{stolarna} \\ \text{breven} \end{array} \right.$
			同 左	

モーリング方言では、*heer/deer* が定冠詞に後続して 1 語と意識され、形容詞弱変化に徐々に従うようになったと考えられる。Hollingworth/Röper (1976: 24) には男性単数でも無語尾の例 (*diheer (-deer) moon*) があがっている。Bendsen (1980: 220) には、2 語で書かれてはいるが、Jørgensen (1978⁴) と同様の変化形 (つまり、*daheer/dadeer* は無語尾) が示されている。しかし、独立用法ではすべて語尾 *-e* がついた形になっている。例：(下線訳者)

Jü heer rous as smuk, jü deere as smukere ... このバラは美しいが、あそこのはもっと美しい ...

Dät heer hüs as üülj, dät deere as älere ... この家は古いが、あそこのはもっと古い ...

Da heer gäis san fät, da deere san fättere ... このガチョウ (複数) は太っているが、あそこ (複数) はもっと太っている ...

Bauer (1925: 112) では中性単数 (限定用法) だけが無語尾になっている：

dät heer/deer hüs この/あの家 *das Haus hier/dort*

-heer/-deer が形容詞弱変化に従って変化するならば、Sjölin/Walker (1986: L 6. 3.) (および Sjölin et al. 1988: 46) の形がふさわしい。Sjölin et al. (1988: 46) には独

立用法でも同様の形があがっている。

なお、とくに遠方を強調する場合には、第3の形式として次の二組の指示代名詞がある。

dijaner (te) *m.sg./jüjaner (t) f.sg./dâtjaner (t) n.sg./dajaner pl.*

dijante *m.sg./jüjante f.sg./dâtjante n.sg./dajante pl.*

後者はもっぱら独立用法で用いられる。

ドイツ語には *diheere/dideere* 等に対応する形式としては、*der Stuhl hier/dort (da)* があるが、*hier/dort (da)* は場所副詞としてとどまり、名詞の前に置かれて定冠詞とともにひとつの限定詞を成すことはない。それが可能なのは上記の第3の形式 (*dijaner; dijante* 等) に対応する *derjenige* である。ただし、これは場面指示には用いられず、おもに関係代名詞の先行詞であることを明確にする (*derjenige (Stuhl), der ...*) 文脈指示の用法に限られる。なお、モーリング方言にも次例のように一見、*dideer* が上記の文脈指示の用法として使われているように見えることがあるが、これは訳注 59 にあるように、関係詞 *deer* を用いた構文 (*di, deer ...*) と見なすべきである。

Dideer arkens frün weese wal, as arkens geek. (Sjölin et al. 1988: 84) だれとでも友達になろうとする者はだれからもからかわれる (相手にされない)

- 56) *huum/wat* は同語原であり、それぞれ *afr. hwām* (*hwā* の男性・女性与格)/*afr. hwet* (*hwā* の中性) にさかのぼる (Bauer 1925: 113), *vgl. da. hvem/hvad*。
- 57) *jeewe* は授与の意味としては「トランプでカードを配る (与える); 家畜にえさを与える」という場合に限られ、一般に「与える」という意味ではふつう *düünj* (*vgl. tun* やる) を用いる。
- 58) *huk* (*afr. hwelk, hd. welch*) は無語尾形で単独で用いられると疑問副詞 (*wie, engl. how*) として機能する。なお、訳注 64 参照。
- 59) モーリング方言には疑問代名詞に人 (有生 *huum*) と物事 (無生 *wat*) の区別があるが、関係代名詞にその区別はなく、本来は物事を示す関係代名詞 *wat* が人についても用いられる。ただし、「一般に ... という人は」という意味の不定関係代名詞 (先行詞を兼ねる) には不定代名詞 (B. IV. 7. 参照) の *huum* を用いることができる。例: *Huum ai harke wal, mötj faile. Wer nicht hören will, muß fühlen.* (Sjölin et al. 1988: 112) 言うことを聞こうとしない者は痛い目にあわなくてはいけない。なお、本文にはないが、性・数・格 (属格を除く) にかかわらず用いられる関係詞 (副詞 *deer* (*da, dort*) と同語原) として *deer* がある。例:
- Di, deer arkens frün weese wal, as arkens geek.* (Sjölin et al. 1988: 45) だれとでも友達になろうとする者はだれからもからかわれる (相手にされない)
- Jü tid, deer önj gouse fergängen* <訳注: WM fergingen> *as, kamt önj ärj ai wider. Die schönen Zeiten kommen nicht als schlechte wieder.* (ibid.) 楽

しく過ぎ去った時間はけっしていやな思い出としてよみがえることはない

di wäi, deer ik kiimen ban (ibid.) 私の歩んだ道

この deer は上記の辞書の用例を別にすると、最近の文法書にはまったく記載がない。

歴史的に見ると、モーリング方言の関係詞は19世紀以降、大きな変化を被った。

まず、Bendsen (1860: 222 ff.) には次の三種類があがっている。

- i) deer: 性・数にかかわらず無変化。有生/無性名詞の両方に用いる。用例は主格と対格のみ。属格の用例はあがっていない。
- ii) huum, 属格 huums(en) (huumsen は男性単数, huums は女性・中性単数および複数): huum の用例は皆無。有性名詞の用例のみ。
- iii) wat: 本来の中性名詞以外の中性形 (例: åles *alles*; dāt beest *das Beste*) に用いる。例:
 Dāt as åles, wat ik hääw. これが私のもっているものすべてだ *Das ist alles, was ich habe.*
 Dāt as dāt beest, wat dü düünj koost. これが君にできる最善のことだ *Das ist das Beste, was du tun kannst.*
 Huum tört ai åltid düünj, wat'm wal. やりたいことをいつでもやっていいというわけではない *Man darf nicht immer tun, was man will.* ('m については訳注 63 参照)

次に、Bauer (1925: 113) には次の二種類があがっている。

- i) deer: 3性共通。属格では稀。数にかんする記述はない。
- ii) huum: 3性共通。属格 (huums(en)) 以外では稀。

Bauer (1925: 113) には wat の記述はない。

以上のことから、Bendsen (1860) の時代以降、wat が deer の使用領域にはいりこみ、deer は使用が稀になったことが推定できる。なお、deer はデンマーク語の der と同語原だが、デンマーク語の der も今日では関係文の主語としてしか用いられなくなっている (Nielsen 1989⁴: 88 参照)。

関係代名詞として wat (*was*) に相当する語がこれほど有力になったのは、他のゲルマン語でもあまり例がないと思われる。訳者の知るかぎり、北フリジア語で同様の傾向を示しているのはハリゲン方言 (Halligfriesisch) である。ハリゲン方言では、関係代名詞として指示代名詞系の di *m.* (moor. di, *der*), ju *f.* (moor. jü, *die*), dat *n.* (moor. dāt, *das*) があるが、もっとも頻繁に用いられるのは3性共通の wat (moor. wat, *was*) である (Lorenzen 1982: 21 参照)。

- 60) Walker (1990: 19) は、前置詞とともに用いられる関係詞はつねに weer (*wo*) であると述べている。Sjölin/Walker (1986; L 21. 3) にも “foon/ma (などの前置詞)+huum” の形式は示されていない。この形式は今日では稀にしか用いられない。なお、ドイツ語の wo (時間, 場所) に対応する関係副詞は weer である。

- 61) (標準)ドイツ語では次例のように前置詞の残留を伴った構文は許されない。

der Mann, mit dem ich gesprochen habe
 der Mann, von dem ihr sprecht
 *der Mann, dem/wo ich mit gesprochen habe
 *der Mann, dem/wo ihr von sprecht

ただし、低地ドイツ語ではこの構文が可能である。北低地ザクセン方言の例:

Dat is de Fru, wo du mit snackt hest. (Goltz/Walker 1990: 47) これが君がいっしょに話をした女性だ

同様に、西フリジア語、オランダ語、英語、北ゲルマン語といった他のゲルマン語でもこの構文が可能であり、このほうがふつうであることが多い。Walker (1990: 23) によればモーリング方言でも同様である。

モーリング方言では、前置詞の残留は関係文や間接疑問文のような従属節にかぎらず、直接疑問文や平叙文の主節でも起こる。例:

Hääst der wat foon wust? (Sjölin/Walker 1986: Ü 15) 君はそのことについて何か知っていたのか

Deer wan we ninte foon waase. (ibid.) そのことについて私たちは何も知りたくない

標準ドイツ語を除く上記のゲルマン語でも一部、英語を除いてほぼ同じである。

- 62) モーリング方言では属格の使用は人(有生)の場合に限られるので(B. II. 2. a 参照), 物事(無生)を指す疑問代名詞の属格は存在せず, *weer ... foon* で代用する(*huums (en)* は人(有生)にしか用いない)。

- 63) *huum* には縮約形 *'m* がある。これは3人称代名詞の縮約形とちがって, *huum* それ自体が縮約されたものである。用法は前接的(enklitisch)である。例:

Huum tört ai ältid düünj, wat'm wal. (Bendsen 1860: 224) やりたいことをいつでもやっていいということはない

Wan huum deet, wat'm koon (Sjölin et al. 1988: 112) もしできることをやれば

- 64) 不定代名詞には独立用法(単独で文成分になる)と限定用法(名詞の限定語になる)があり, 語形が異なるものがある(*hu, sam* は同形)。例:(独立用法—限定用法の順)

a) *arkenân m./arkeniinj f., n. — arken m./ark f., n.*

b) *sukenân sg. m./sukeniinj sg. f., n.; pl. — suken sg. m./suk sg. f., n.; pl. sünân sg. m./süniinj sg. f., n. — sün sg.*

c) *niimen — nân sg. m./niinj sg. f., n.; pl.*

f) *maningân sg. m./maningiinj sg. f., n. — maning*

B. IV. 5. b. の *hukenân* 等もここに含められる。

hukenân sg. m./hukeniinj sg. f., n. — huken sg. m./huk sg. f., n.; pl.

hünân sg. m./hüniinj sg. f., n. — hū'n

このように、不定代名詞限定用法の変化は所有代名詞の一部と同様である(訳注 54 参照)。

- 65) 単独で 1, 2, 3 と数えるときには *iinj*, *tou*, *trii* を用いる。また、基数詞の文法性は女性である (B. II. 1. 「女性」 d. 参照)。
- 66) *twane* はかつての分配数詞 (Distributivum, 「...ずつ」の意) のなごりである。 *trane* も同様 (Bauer 1925: 115 参照)。ラテン語の *bini* (二つずつ), *terni* (三つずつ) を参照。
- 67) 13 以上では低地ドイツ語の影響が著しい。それは *trii* (3)/*dorti*, *dörti* (30) における語頭子音 *t/d* の交替と *r/* 母音の音位転換 (Metathese; *rV > Vr*) に端的にあらわれている (wfr. *tritich*/nd. *dortig*, *dörtig* 参照)。 *duusend* (1000) も同様 (wfr. *tūzen*/nd. *dusend* 参照)。
- 68) *di iine*; *jü/dät iin* は「一方の、片方の」という意味になることがある。例:
Jü iin hönj twoit jü ouder. Die eine Hand wäscht die andere. (Sjölin et al. 1988: 10) 片方の手がもう片方の手を洗う (おたがいさま)。
- 69) *iinjsen* はかつての属格のなごりである (afr. Gen. *ēnes*←Nom. *ēn*)。 *twaiē*, *traie* も同様。英語の *once*, *twice*, *thrice* を参照。
- 70) モーリング方言には動詞に継続相と非継続相の「対立」を示す形式 (進行形) はとくにない。西フリジア語も同様。
- 71) “*tu+en*” という形式には西フリジア語の “*te+en*” が対応し、この語尾 *-en* (または *-n*) のついた形は、西フリジア語文法で「動名詞」(*gerundium*) と呼ばれる。動名詞はかつての西ゲルマン語の特徴であり、北ゲルマン語や東ゲルマン語 (ゴート語) には存在しない (Markey 1981: 35, 140 参照)。これはかつての与格形であり、今日では *tu* (wfr. *te*) のつかない単独の形としても用いられる (B. VI. 3. d. 参照)。また、定冠詞を伴って中性名詞としても用いられる (B. II. 1. 「中性」 d. 参照)。
また、モーリング方言には語幹に語尾のつかない命令形と同形の不定詞 (第 3 不定詞) がもうひとつある (例: *frâag*←*frâage*; B. VI. 3. 参照)。西フリジア語にも命令形と同形の不定詞があるが (例: *freegje*←*freegie*)、これは西フリジア語文法では伝統的に「命令形」(*ymperatyf*) として扱われてきた (訳注 87 参照)。
- 72) 動詞の複数の語尾は現在形、過去形ともに人称による区別がなく、1 種類である。これは北海ゲルマン語の特徴 (Ingwäonismus) のひとつで、今日のフリジア語すべてに保たれている。ただし、モーリング方言の現在形複数の語尾は、西フリジア語や東フリジア語 (Saterländisch/Seeltersk) と同様に *-e* となる。この語尾は古フリジア語 (*-at(h)*)、古英語 (*-að*)、古ザクセン語 (*-ad*, *-að*) とは異なっている。古く北海ゲルマン語では、複数形の動詞語尾は 3 人称の形が 1, 2 人称に拡大したものといわれており、今日のフリジア語の現在形複数の語尾 *-e* は明らかに本来の形ではない。今日、かつての北海ゲルマン語の地域で古い複数形の語尾 (*-(e)t*) を保っているのは (北低地ザクセン方言を含む) 西低地ドイツ語 (Westniederdeutsch) の大部分にかぎられる

(Frings 1944: 46 参照)。ただし、モーリング方言を取り巻くシュレースヴィヒ方言 (Schleswigsch, 北低地ザクセン方言の下位グループのひとつ) は、基層となるデンマーク語の影響を受け、動詞現在形複数の語尾は西低地ドイツ語に属する北低地ザクセン方言のなかでは例外的に -en である (Goltz/Walker 1990: 41 参照)。

- 73) 時制は他のゲルマン語と同様に過去と非過去。現在形は未来のできごとを表わす。いわゆる未来形は “wärd (werde)+Inf. (第1不定詞)” だが, “schal (engl. shall)/wal (engl. will)+Inf. (第1不定詞)” も未来を表わすことがある。いわゆる未来形は、西フリジア語で “sil+Inf.”, オランダ語で “zal+Inf.”, デンマーク語で “skal/vil+Inf.” であり, “wärd+Inf.” の形式はドイツ語の影響と思われる (デンマーク語ではドイツ語の werden にあたる語は中世低地ドイツ語の bliven (nhd. bleiben) に駆逐されて残っていない (da. blive)). 低地ドイツ語 (北低地ザクセン方言) でも “warr (←warrn werden)+Inf.” は未来のできごとを表わすことがある。
- 74) 条件形 (conditionalis, betingform) とはドイツ語の “würde+Inf.” (北低地ザクセン方言では “würr+Inf.”) に対応させて設定した形式であり, wörd/wälj はそれぞれ wärd/wal の過去形である。
- 75) boone (ののしる, da. bande, vgl. bannen) は例外:
 現在形 ik boon, dü boonest, hi boonet
 過去形 ik booned, dü boonedst, hi booned, we booneden
 過去分詞 booned (以上, Sjölin/Walker 1986: L 16. 3)
 また, 語幹が -ng [ŋ] で終わる動詞も変化形で e が落ちる。次の例はいわゆる弱変化動詞である (OM: 東モーリング方言):
 hinge (OM hänge) 掛ける hängen — hängt — hängt — hängt
 kringe (OM kränge) 押しこむ — krängt — krängd — krängd
 minge (OM mänge) 混ぜる mengen; ためらう — mängt — mängd — mängd
 なお, 巻末の不規則動詞一覧表を参照。
- 76) Jörgensen (1981²: 86) には täiwet とある。
- 77) たとえば räagne (計算する da. regne) を例にとると, -n の次に母音 -e がある場合は -gne- だが, ない場合は -gen- となる。したがって, 次のような変化をする。
 (第1) 不定詞 räagne — 命令形 räagen!
 現在形 ik räagen, dü räagenst, hi räagent, we räagne ...
 過去形 ik räagend, dü räagendst, hi räagend, we räagneden ...
 現在分詞 räagen(d)
 過去分詞 räagend
- 78) 過去形および過去分詞の -(e)d の正書法には問題がある。
 Bauer (1925: 100 f.) は, 閉鎖音と摩擦音の後では [əd] と発音され, それとの類推によって, 流音と鼻音の後でも [əd] と発音されると述べている。一方, すでに B. VI. 1. a. で見たように, Jörgensen (1978⁴) は流音と鼻音と摩擦音 w では -d とつづると

述べている。訳者の観察でもこの場合の正書法は発音にあっており; Bauer (1925: 100 f.) の記述はすでに古い。-(e) d の音価は英語の場合とほぼ同じである。ところが, Jörgensen (1978⁴: 30 原文) では brükd (←brüke 使う *ge-brauchen*, *nd. bruken*) という語形が3回使われており, この -d というつづりは前出の B. VI. 1. a. の規則にはあてはまらず, 本来ならば -ed とつづるべきである。だが, 訳者の観察ではその発音は [brʏkt] である。つまり, いずれにせよ正書法はじっさいの発音とは異なっている。Walker (1990: 28) は, snääked (←snääke 話す *nd. snacken*) の発音は [sna'kt] であり, 無声子音で終わる語幹に続く -ed は, じっさいの発音を無視した正書法上の規則にすぎないと述べている。弱変化動詞過去形を形成する歯茎障害音の表記を, じっさいの異音の存在を考慮せずに統一的行なっている言語には, ゲルマン語ではほかに英語がある。しかし, ごく最近, 正書法が定められたモーリング方言の場合は, いかにも人為的で不自然な印象を受ける。

- 79) 能動態不定詞の形が二つある動詞は5基本形, ひとつしかない大多数の動詞は4基本形となる(訳注80参照)。母音交替のパターンについては訳注92. 2. 参照。
- 30) この形は命令形, 能動態現在形1人称単数および1~3人称複数, 現在分詞の基本形になる。大多数の動詞では第1不定詞と同形である。
能動態不定詞の語幹が交替する動詞は以下に掲げるごく少数の強変化動詞に限られる。例:

düünj/douen やる(する, 与える) *tun* (*afr. dwan*)

fliinj/fliien 飛ぶ *fliegen*

füünj/fouen 得る *da. fâ, vgl. fangen, (afr. fa(n))*

schiinj/schaien 起こる *ge-schehen, da. ske, (afr. skia(n))*

siinj/siien 見る *sehen*; 種をまく *säen, (afr. siä(n))*

slüünj/slouen 打つ *schlagen, da. slâ, (afr. sla(n))*

tiinj/tiien 引く *ziehen, (afr. tia(n))*

tüünj/touen 洗う *da. to*

第3不定詞およびそれと同形の命令形は, 第2不定詞の語尾 -en を除いて得られ, それぞれ次のようになる。

dou; flii; fou; schai; sii; slou; tii; tou

現在分詞も第2不定詞をもとにして得られる(語幹に -en(d) を付加)。

上記の動詞は第1不定詞の語幹母音がいずれも前寄りの高母音であり, ii/ii, üü/ou という型を示す。上記の動詞はまた, 例外的に第1不定詞が -e でなく, -nj で終わる。これはほとんどが古フリジア語で単音節動詞だったために, 不定詞でアクセントのない語末音節の -n が落ちるという規則を免れたためである(この規則は北ゲルマン語と共通である)。より正確には, düünj (*afr. dwan*) などの典型的な単音節動詞(縮約動詞ないし語根動詞)との類推が働いたためといわれている(Sjölin 1969: 37 参照)。西フリジア語も不定詞は大部分, -e で終わり, 例外的に -n で終わるものは次の

単音節動詞に限られる。

dwaa(n) (*afr. dwan*, *moor. düünj*); gea(n) (*afr. gan*, *moor. gunge*); jaan (*afr. ja(n)*, *moor. jeewe*); sjen (*afr. sia(n)*, *moor. siinj*); slaan (*afr. sla(n)*, *moor. slüünj*); stean (*afr. stan*, *moor. stönje*); tsjen (*afr. tia(n)*, *moor. tiinj*)

このように、モーリング方言とは一部、動詞の種類が異なっている。モーリング方言では -nj で終わる単音節動詞が対応しないものも含まれている。また、上記の西フリジア語動詞は動名詞（モーリング方言の第2不定詞）も同形であり、語幹母音の交替を起こさない。

- 81) 命令形および能動態現在形1人称単数は第2不定詞の語幹と一致するが（訳注 80 参照）、kaame/tu kaamen（来る *kommen*）では両者は *ik kam*; *kam!* となる（*ndl. komen*: *ik kom*; *kom!* 参照）。また、naame/tu naamen（取る *nehmen*）でも両者は *ik nam*; *nam!* となる。*weese (sein)*, *heewe (haben)*, *wärde (werden)* については B. VI. 4. を参照。

なお、Bauer (1925: 106) には命令法複数: *naame!* (*nehmt!*), *iinje!* (*endet!*) の形が記されているが、今日では残っていない。

- 82) この形は能動態現在形 2, 3 人称単数の基本形になる。
 83) この形は能動態過去形すべての基本形になる。
 84) この形は過去分詞に限られる。
 85) 定冠詞 *dät* を伴って中性の動作名詞としても用いられる (B. II. 1. 「中性」d. 参照)。
 86) この場合、ドイツ語では過去分詞を用いる。一方、オランダ語では不定詞を用いる。他方、デンマーク語では現在分詞を用いる。さらに、西フリジア語では（ほとんどの場合に分離動詞の）動名詞（モーリング方言の第2不定詞）を用いる。いずれも、どのような方法を用いてやって来るかという意味の場合に限られる。

dt. Sie kommt gelaufen.

ndl. Zij kömt lopen.

da. Hun kom løbende.

wfr. Hy kaam oanriden. (Tiersma 1985: 127) 彼は（自動車などの）乗り物に乗ってやって来た (*oanriden* ← *oan-ride an-fahren*)

- 87) このように、“än+第3不定詞”構文の語順は動詞不定形としては例外的に V2 となる。この語順は第3不定詞を命令形ととらえればしぜんであり、西フリジア語文法では従来、これを“en+命令形”構文と呼んできた。次の西フリジア語の例文は、i) がちょうど英語の“try/go/come and+不定詞”の構文に相当し、ii) が本文にあるモーリング方言の例文に相当し、さらに iii) のような名詞修飾句も可能なことを示している。

i) *De polysje soe by him komme en helje him op.* (Dyk/Hoekstra 1987: 24)

警察が彼を逮捕しに彼のところへやって来るかもしれない (*helje ... op* ← *ophelje* 逮捕する、迎えに行く *abholen*)

- ii) It is gijn dwaan gelyk en pleagje dy äld man sa. (ibid. 26) その老人をそんなに責めるのはふさわしいことではない (pleagje←pleagje 責める, 苦しめる plagen)
- iii) It idee en lis de Lauwerssee droech is net alhiel nij. (ibid. 26) ラウウェルス海を干拓しようという考えはまったく新しいというわけではない (lis ... droech←droechlizze 干拓する trockenlegen)

なお、類似の構文はモーリング方言を取り巻く低地ドイツ語シュレースヴィヒ方言 (Schleswigsch) にもある。例:

Dat is nu Tiet un plücken Appeln. *Es ist nun Zeit, Äpfel zu pflücken.*
(Goltz/Walker 1990: 41) そろそろりんごをつみ取る時期だ

しかし、シュレースヴィヒ方言は本来、デンマーク語南ユトランド方言 (sønderjysk) を駆逐して広がった低地ドイツ語であり、この構文は低地ドイツ語本来のものではなく、基層となるデンマーク語の影響といわれている (Goltz/Walker 1990: 41 参照)。また、上記の例文の plücken は不定詞であり、命令形 (plück!) ではない。

対応するデンマーク語の構文は“og+不定詞”であり、やはり命令形ではない。例:

Det er ikke saa li'e og komme frem med! (Hansen 1965²: 150)

それをもちだす (申したてる) のはかなりむずかしい

Jeg blir nødt til og stikke af. (ibid. 150)

私は行かざるを得ない

Han er ude og gå. (ibid. 151)

彼は出かけている

Lad dem komme og hende mig. (ibid. 152)

あの人たちに私を連れに来させるがいい

Hansen (1965²: 150) は、これは og (*und*) と at (*zu*) が発音上、区別がつかなくなつて混同されるためであると述べている。

- 88) ドイツ語と同様に, weese は場所や状態の変化を示す一部の自動詞の過去分詞を支配して完了の助動詞として用いる。また, 状態の変化が結果として明らかにあらわれる場合, 一部の動詞の過去分詞を支配して状態受動の助動詞として用いる。
- 89) Bendsen (1860: 27) には ik hääw/häi wään の用例しかあがっていない。デンマーク語 (ただし標準語) の være (*sein*) は have (*haben*) 支配であり (jeg har/havde været), 西フリジア語の wêze (*sein*) も hawwe (*haben*) 支配である (ik ha/hie west) ことから, ik ban/wus wään はドイツ語の影響 (hd. ich bin/war gewesen; nd. ik bin/weer west) であるように思われる。
- 90) ドイツ語と同様に, heewe は他動詞および場所や状態の変化を表わさない大多数の自動詞の過去分詞を支配して, 完了の助動詞として用いる。
- 91) ドイツ語と同様に, wårde は主語が動作主を表わす他動詞と自動詞の過去分詞を支配

して動作受動の助動詞として用いる(自動詞の受動態については訳注 53 参照)。また、現在形で第 1 不定詞を支配していわゆる未来形を作る。さらに、過去形で第 1 不定詞を支配していわゆる条件形を作る。

92) おもな特徴をいくつか記しておく。

1. 弱変化動詞について (Bauer 1925: 100 ff. 参照)。

- i) いわゆる逆ウムラウト (Rückumlaut) を起こすものがある: ii) (*afr. e*) — *ä* (*afr. a*) — *ā* (*afr. a*)。逆ウムラウトは現在形 2, 3 人称にも及んでいることが多い。例: *hiinje* 起こる *da. hānde*; *iinje* 終わる, 終える *enden*; *schiiinje* 汚す *schānden*; *siinje* 送る *senden*; *tiinje* (火が) つく, (火を) つける *zūnden*; *triinje* (糸を) 巻く; *wiinje* 裏返す, 向ける *wenden*

同様に:

dringe 突き進む *dringen*; *hinge* 掛ける *hāngen*; *klinge* 鳴る *klingen*; *kringe* 押しこむ; *linge* 手をのばす, 届く *langen*; *minge* 混ぜる *mengen*, ためらう; *önjstringe* 緊張させる *anstrengen*; *ringe* 格闘する *ringen*; *slinge* 巻きつける *schlingen*; *wringe* しぼる *wringen*

briidje 広げる *breiten*; *iirwe* 受け継ぐ *erben*; *kiime* (髪を) とかす *kāmmen*; *spriidje* まき散らす *da. sprede*; *stiitje* 突く *stoßen*

- ii) 語幹母音が *ee/āā* で語幹末子音が *r* の動詞は, 次に子音が来ると (この場合は *t/d*), 語幹母音の「割れ」(Brechung) を起こして *ee/āā > ja* (*afr. e > ē > ia > ja*) となる。例:

beere 運ぶ, かつぐ *da. bære*; *begeere* 欲しがる *begehren*; *fääre* 連れて行く, 導く *führen*; *kääre* (車で) 行く *da. køre*; *meere* 増やす *ver-mehren*; *neere* 養う, 育てる *nähren*; *rääre* 触れる, 動かす *rühren*; *scheere* (ナイフで) 切る, 刈る *da. skære*; *smeere* 塗る *schmieren*; *sweere* 誓う *schwören*; *teere* 弱める, 食いつくす *zehren*; *weere* 逆らう *wehren*

とくに *rääre* では, 語幹母音の「割れ」が起こった場合に先行する子音 *r* が落ちる: *rääre* — *jart* — *jard* — *jard*

なお, *jooge* (うそをつく *lügen*) の変化を参照 (訳注 5 参照)。

- iii) 語幹が *-dj/-tj* で終わる動詞は, 現在形 3 人称単数, 過去基本形および過去分詞で歯茎音どうしが衝突して同化 (Assimilation) を起こし, *-t* となる (語中音の *e* [e] は消失 (Synkope) する)。(なお, これは同種の強変化動詞の現在形 3 人称単数でも起こる。語幹が *-d/-t* で終わる動詞でもしばしば起こる。用例については変化表を参照)。例:

blädje 出血する *bluten*; *brädje* 卵を暖める *brüten*; *briidje* 広げる *breiten*; *fädje* 養う, 育てる *engl. feed*; *hiitje* 暖房する, 熱する *heizen*; *lätje* ... させる, 等 *lassen*; *mätje* 会う, 当たる *da. møde*, 測る *messen*; *rädje* 助言する *raten*; *snätje* 鼻をかむ *schneuzen*; *spriidje* まく, 散らす *da. sprede*; *stiitje* 突く *stoßen*;

täntje 思われる *dünken*; wätje めらす *da. væde*

- iv) 本来の強変化動詞が弱変化動詞に移行したものがある。なかには *miise* (避ける *meiden*) のように過去形だけ弱変化語尾を示したり, *prise* (はめる *preisen*) のように強変化と弱変化の形が併存しているものもあるが (i)~iii) にはそれも含めて例示してある), ここでは過去形と過去分詞で弱変化語尾だけをもつものを例示する (st: 強変化動詞, ローマ数字は母音交替の系列, red.: 反復動詞 (*reduplizierendes Verb*)). 例:

beere (<st IV) 運ぶ *da. bære*, (貯金を) おろす; *klinge* (<st III a) 鳴る *klingen*; *kringe* (<st III a) 押しこむ; *lätje* (<red.) ...させる, 等 *lassen*; *liine* (<st I) 貸す, 借りる *leihen*; *mätje* (<st V) 会う, 当たる *da. møde*, 測る *messen*; *ringe* (<st III a) (鐘が) 鳴る *da. ringe*; *ringe* (<st III a) 格闘する *ringen*; *scheene* (<st I) 光る, ...らしく見える *scheinen*; *scheere* (<st IV) (ナイフで) 切る, 刈る *da. skære*; *slinge* (<st III a) 巻きつける *schlingen*; *spriidje* (<st I) まき散らす *da. sprede*; *stiietje* (<red.) 突く *stoßen*; *teere* (<st IV) 弱める, 食いつくす *zehren*; *wringe* (<st III a) しぼる *wringen*

2. 強変化動詞について (Bauer 1925; 92 ff., 89 ff. 参照)。

- i) モーリング方言の強変化動詞はさまざまな変異を示すが, ここではゲルマン語の 6 系列の母音交替 (*Ablautreihen*) に従って, 各系列について代表的なパターンをあげるにとどめる。なお, 過去形単数と複数の階梯 (*Stufe*) の対立は解消し, また, 母音交替ではないが, 現在形 3 人称単数も知る必要があるため, B. VI. 2. の表に従って 4 基本形を示す。

系列 I: i — a — ii — aa

bliwe — *blaft* — *bliif* — *blaawen* とどまる *bleiben*

系列 II: ii — ü — üü — ää

friise — *früst* — *frütüs* — *frääsen* ござえる *frieren*

系列 III a (鼻音結合): i — a — ü — ü

bine — *bant* — *bün* — *bünen* 結ぶ, 巻く *binden*

系列 III b (流音結合): ee — ee — ü — ü

ä — ä — ü — ü

heelpe — *heelpt* — *hülpe* — *hülpen* 助ける *helfen*

bärje — *bärcht* — *bürch* — *bürgen* 救い出す *bergen*, 収獲する

系列 IV: ee — ee — ä — ee

ee — ee — ä — ää

steale — *steelt* — *stälj* — *steelen* 盗む *stehlen*

spreege — *spreecht* — *spräk* — *spräägen* 話す *sprechen*

系列 V: ee — ee — äi — ää

a — a — ä — i

jeewe — jeeft — jäif — jääwen (家畜にえさを) やる, (など) *vgl. geben*

sate — sat — sätj — sin すわっている *sitzen*

系列 VI: ää — ä — oo — ää

ee — ee — ou — ää

fääre — färt — foor — fäären 行く, すばやく動く *fahren*

dreege — dreecht — drouch — dräägen 運ぶ *tragen*

このように, 系列 IV と系列 V は非常に似たパターンを示す。

強変化から弱変化へ移行した動詞はすでに示した。とくに系列 IV で語幹末音が -r の動詞はすべて弱変化へ移行した (beere, scheere, teere)。系列 VI の sweere もほぼ同様。

- ii) 他の系列に移行したと見なしたほうがいいものがある。例:

steeye (st I > st V) のぼる, おりる *steigen*; sweege (st I > st V) だまる *schweigen*; naame (st IV > st III a) 取る *nehmen*, 理解する; schääfe (st VI > st II) 創造する *schaffen*; fütj/fouen (red. > st III a) 得る *da. få*; hunge (red. > st III a) 掛かっている *hängen*; hütje (red. > st IIIb) 保つ *halten*

- iii) 過去分詞などで語末音が語中音消失 (Synkope) に続いて先行子音と同化 (Assimilation) を示しているものがある。例:

(p >) b + n > m:

gram ← gripe つかむ *greifen*; knim ← knipe つねる, つまむ *kneifen*; krim ← kriipe はう *engl. creep*; lim ← luupe 走る, 歩く *laufen*; schääm ← schääfe 創造する *schaffen*; slim ← slipe 研ぐ *schleifen*; sim ← süpe かぶかぶ飲む, (動物が) 飲む *saufen*

(t >) d + n > n:

in ← ääse 食べる *essen*; bin ← bade たのむ *bitten*; bin ← biidje 提供する *bieten*; ban ← bite 噛む *beißen*; ferjin ← ferjeese 忘れる *vergessen*; fertrin ← fertriitje 不愉快な気分させる *verdrießen*; flin ← flitje 流れる *fließen*; frin ← freese がつがつ食べる, (動物が) 食べる *fressen*; gin ← giitje 注ぐ *gießen*; glan ← glide すべる *gleiten*; knin ← kneese 練る *kneten*; nin ← niitje 享受する, 楽しむ *ge-nießen*; ran ← ride 馬に乗って行く *reiten*; sin ← sate すわっている *sitzen*; schin ← schiitje 撃つ *schießen*; schan ← schite うんこをする *scheißen*; schran ← schride ゆったりと歩く, 進む *schreiten*; slan ← slide 滑る *engl. slide*; slan ← slite 失う, むしる *schleifen*; slin ← slite 閉じる, 終える *schließen*; sman ← smite 投げる *schmeißen*; splan ← splite 割れる, 裂ける *nd. splieten*; stran ← stride 争う *streiten*; tin ← tiitje 泣きわめく *da. tude*; trin ← treese 歩く, 進む *treten*; twan ← twite 彫る, けずる

l + n > n:

wan←wale ...したい *wollen*; schan←schale ...すべきだ *sollen*, ...だろう *engl. shall*

- 93) 語頭音の l と j の交替については訳注 5 参照。
- 94) kaame — ik kam は naame — ik nam とならんで語幹母音の対応が不規則である。なお, Bauer (1925: 96) には現在形 2, 3 人称単数を kaamst, kaamt と記しており, 今日の語形と異なる。
- 95) Sjölin et al. (1988: 159) には今日の発音にならって過去基本形 muurst, 過去分詞 muurst と記されている。過去形複数は muursten (Sjölin/Walker 1986: L 21. 3) となる。おそらく tuurst(<töre), duurst(<döre) との類推がはたらいっていると思われる (Dr. Walker からの手紙)。
- 96) 語頭音の r と j の交替については訳注 92 の 1. ii. 参照。

参 考 文 献

- Bauer, Erika. 1925. *Die Moringer Mundart: Laut- und Formenlehre nebst Sprachproben*. Heidelberg. Carl Winter.
- Bendsen, Bende. 1860. *Die nordfriesische Sprache nach der Moringer Mundart: Zur Vergleichung mit den verwandten Sprachen und Mundarten* (Hrsg. von M. de Vries). Leiden. Brill. (Nachdruck 1988. Vaduz. Sändig Reprint).
- Bichel, Ulf/Joachim Hartig. 1981. "Elemente einer niederdeutschen Grammatik". *Niederdeutsch an Volkshochschulen*. Kiel. Landesverband der Volkshochschulen Schleswig-Holsteins. 51-74.
- Dyk, Siebren/Jarich Hoekstra. 1987. *Ta de Fryske syntaksis*. Ljouwert. Fryske Akademy.
- Ebert, Karen H. 1971. *Referenz, Sprechsituation und die bestimmten Artikel in einem nordfriesischen Dialekt (Fering)*. Bräist/Bredstedt. Nordfriisk Instituut.
- Fort, Marron Curtis. 1980. *Saterfriesisches Wörterbuch: mit einer grammatischen Übersicht*. Hamburg. Helmut Buske.
- Frings, Theodor. 1949. *Die Stellung der Niederlande im Aufbau des Germanischen*. Halle (Saale). Max Niemeyer.
- Goltz, Reinhard H./Alastair G. H. Walker. 1990. "North Saxon". Charles V. J. Russ (ed.). *The Dialects of Modern German: A Linguistic Survey*. London. Routledge. 31-58.
- Goossens, Jan. 1974. *Historische Phonologie des Niederländischen*. Tübingen. Max Niemeyer.
- Hansen, Aage. 1965². *Vort vanskellige sprog*. København. Grafisk Forlag.
- Harte, Günter/Johanna Harte. 1989² (1986). *Hochdeutsch-Plattdeutsches Wörterbuch* (Hrsg. vom Institut für niederdeutsche Sprache). Leer. Schuster.
- Hofmann, Dietrich. 1956. "Probleme der nordfriesischen Dialektforschung". *Zeitschrift für Mundartforschung* 24. 78-112.

- Hollingworth, Keith/Gerhard Röper. 1976. *Lern Friesisch! Liir Frasch! Risem/Loonham. Foriining for nationale Friiske.*
- Jørgensen, V. Tams. 1978² (1955). *Frasch-tjüsch-dänsch uurdebök.* Bräist. Nordfriisk Instituut.
- Jørgensen, V. Tams. 1979. "Tu di frasche Schriwwise". Alastair Walker/Ommo Wilts (Hrsg.). *Friesisch heute. Beiträge zu einer Tagung über nordfriesische Sprache und Sprachpflege.* Schriftenreihe der Akademie Sankelmark. Neue Folge 45/46. 102-115.
- Jørgensen, V. Tams. 1981² (1977). *Snaak friisk! Interfriisk leksikon. (Deutsch/Dansk/Moorling/Fering (-Öömrang)/Sölring/Halunder/Frysk/English).* Bräist. Nordfriisk Instituut.
- Kloock, Marianne/Ingo Viechermann. 1989. *Uns plattdüütsch Spraakbook.* Hamburg. Helmut Buske.
- Kööp, Karl-Peter. 1991. *Sprachentwicklung und Sprachsituation in der Nordergoesharde: Von der Mitte des 19. Jahrhunderts bis zur Gegenwart.* Bräist/Bredstedt. Nordfriisk Instituut.
- Krahe, Hans/Wolfgang Meid. 1969. *Germanische Sprachwissenschaft II. Formenlehre.* Berlin. Walter de Gruyter.
- Kramer, Pyt. 1982. *Kute Seelter Sproakleere.* Rhaderfehn. Ostendorp.
- Lindow, Wolfgang. 1984. *Plattdisches Wörterbuch.* Leer. Schuster.
- Lockwood, William Burley. 1965. "Frisian". An Informal History of the German Language. London. André Deutsch (1976). 214-234.
- Lorenzen, Jens. 1982. *Halligfriesische Sprachlehre.* Bräist/Bredstedt. Nordfriisk Instituut.
- Markey, Thomas L. 1981. *Frisian.* The Hague/Paris/New York. Mouton.
- Mungard, Nann. 1913. *Ein inselnordfriesisches Wörterbuch.* Hamburg. Richard Hermes. (Nachdruck 1974. Westerland. Verlag für nordfriesisches Heimatschrifttum).
- Nielsen, Niels Åge. 1989⁴ (1966). *Dansk etymologisk ordbog: Ordenes historie.* København. Gyldendal.
- Petersen, Erk. 1973. *Deutsch-friesisches Wörterbuch.* Risum/Lindholm. Foriining for nationale Frasche.
- Sjölin, Bo. 1969. *Einführung in das Friesische.* Stuttgart. Metzler.
- Sjölin, Bo/Alastair Walker. 1986. *Frasch for önjfängere: Programmierter Lehrgang des Mooring Friesisch. 2 Bde.* Kiel. Nordfriesische Wörterbuchstelle der Christian-Albrechts-Universität Kiel.
- Sjölin, Bo/Alastair G. H. Walker/Ommo Wilts. 1988. *Frasch uurdebök: Wörterbuch der Mooring Mundart.* Neumünster. Wachholtz.
- Steenen, Thomas. 1987. "Abschied von Tams Jørgensen". Nordfriesland 77/78. 20. Band/1. u. 2. Heft. 9-10.
- Steller, Walther 1928. *Abriß der altfriesischen Grammatik.* Halle (Saale). Max

Niemeyer.

- Tiersma, Pieter Meijes. 1985. *Frisian Reference Grammar*. Dordrecht. Foris.
- de Vries, Jan/F. de Tollenaere. 1987. *Nederlands etymologisch woordenboek*. Leiden. Brill.
- Walker, Alastair G. H. 1977. "Sprachwandel in Nordfriesland". *Niederdeutsches Jahrbuch* 100. 86-107.
- Walker, Alastair G. H. 1980 a. *Die nordfriesische Mundart der Bökingharde: Zu einer strukturell-dialektologischen Definition der Begriffe 'Haupt-', 'Unter-' und 'Dorfmundart'*. *Zeitschrift für Dialektologie und Linguistik*. Beihefte. Heft 33. Wiesbaden. Franz Steiner.
- Walker, Alastair, G. H. 1980 b. "North Frisia and Linguistics". *Nottingham Linguistic Circular* 9.1. Nottingham. 18-42.
- Walker, Alastair G. H. 1985. "Sprachvariation im nordfriesischen Gebiet". *Kopenhagener Beiträge zur germanistischen Linguistik* 23. 33-53.
- Walker, Alastair G. H. 1990. "Frisian". Charles V. J. Russ (ed.). *The Dialects of Modern German: A Linguistic Survey*. London. Routledge. 1-30.
- Walker, Alastair G. H./Ommo Wilts. 1980² (1976). *Hiir Frasch — Liir Frasch: Friesischer Sprachkurs/Frisian Language Course*. Bd. 1. *Textheft — Textbook*, Bd. 2. *Glossar — Glossary*. Bredstedt/Bräist. Nordfriisk Instituut.
- Willkommen, Dirk. "Bibliographie Tams Jörgensen". *Nordfriesisches Jahrbuch*. Neue Folge. Bd. 24. 15-18.